

『祠部職掌雜纂 諸門跡系譜』

藩法研究会 丹波篠山班

橋本久
牧田勲
山田勉

凡例

- 一 本稿では、静嘉堂文庫所蔵『祠部職掌雜纂 諸門跡系譜』(一〇三四四 四三／五〇四 二〇〇)を翻刻した。静嘉堂本「静」と表示した。
- 一 各丁の表裏を行末に「一オ」「一ウ」「二オ」…の「こ」とく表記した。白紙の面は、この記号のみ付す。
- 一 各門跡ごとに仮番号を付した。
- 一 「」および()内は編者の注記である。
- 一 篠山市青山文庫所蔵本(祠部二二〇)の形式・内容は、静嘉

堂文庫本とほぼ同一であるが、一部の異同および虫損による欠失がある。これを青山本「青」と表示し、異同箇所を示す。

- 一 参照した群書類従所収『諸門跡譜』を、類従本「類」と表示した。
- 一 統群書類従所収の諸本、『天台正嫡梶井門跡略系譜』、『妙法院門跡次第』、『青蓮院門跡系譜』、『曼珠院門跡伝法師跡次第』、『日光山門跡次第』、『円満院門跡次第』、『仁和寺御室系譜』、『大覚寺門跡次第』、『大覚寺門跡略記録』、『三宝院

- 列祖次第』『勸修寺長吏次第』『大乘院門跡次第』を参考として当該門跡の関係箇所を示す場合は、統類従本「統」と表示した。
- 一 弘化二年版『門跡傳』乾・坤を参考として示す場合は、弘化本「弘」と表示した。
 - 一 脚註に（無記事）とは、人名のみで下に記事の無い場合、（不掲載）とは、人名・記事ともに一切無い場合を示す。
 - 一 本書の複写・翻刻を許可いただいた静嘉堂文庫の関係者各位に深謝する。
 - 一 翻刻および解題は、ひきつづき橋本が担当した。

〔表紙〕

〔一〇三四四／四三／五〇四 一〇〕



縦 26.5 cm × 横 19.7 cm

〔内表紙〕

静嘉堂現蔵

高崎文庫

祠部

諸門跡系譜

全

斌々書屋
大河内氏
之書籍章

- | | | | | | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|-------|--------|
| 17 | 15 | 13 | 11 | 9 | 7 | 5 | 3 | 1 | 諸門跡系譜 |
| 知恩院御門跡 | 一乘院御門跡 | 三宝院御門跡 | 大覚寺御門跡 | 實相院御門跡 | 円満院御門跡 | 毘沙門堂御門跡 | 青蓮院御門跡 | 梶井御門跡 | |
| | | | | | | | | | 妙法院御門跡 |
| | | | | | | | | | 曼珠院御門跡 |
| | | | | | | | | | 日光御門跡 |
| | | | | | | | | | 聖護院御門跡 |
| | | | | | | | | | 仁和寺御門跡 |
| | | | | | | | | | 随心院御門跡 |
| | | | | | | | | | 勸修寺御門跡 |
| | | | | | | | | | 大乘院御門跡 |
| | | | | | | | | | |

〔二ウ〕

〔二エ〕

〔二ウ〕

〔二エ〕

1 梶井御門跡 円融院 又梨本

傳教大師
弘仁十六四寂五十六
〔十三六四〕

諱最澄、姓三津氏、近江滋賀郡人也、其先東漢獻帝之孫、貞觀八七月勅諡傳教大師、

慈覺大師
貞觀正十四寂七十一歲
〔六正十四〕

諱円仁、座主仁壽四四三イ月任、貞觀八七月依相應請、勅諡慈覺大師、姓壬生氏、下野都賀郡人、崇神天皇裔也、

承雲和尚

延雄阿闍梨

尊意贈僧正
天慶三二廿四逝七十五才

座主延長四五十一任、号法性坊、姓丹生氏、平安城人、應神天皇之裔也、近江国人也、

安原和尚

尋獻和尚

明映快大和尚
延久二三八滅八十四才

座主大喜元十廿九任、師主明豪僧正・覺運・尋獻等弟子、皇慶阿闍梨灌頂弟子、梶井元祖、諸門推為祖、号梨本、利仁

將軍末孫、文

〔三ウ〕

1 梶井御門跡〔類從本〕梶井殿、又號梨本門跡〔弘化本〕号三千院、又梨本坊、又号圓融坊、〔静嘉堂本〕梨本〔青山本〕〔本虫損、以下同〕、

傳教大師〔静〕近江滋賀郡〔類〕近州志賀郡〔統〕滋賀郡、〔静〕弘仁十六四寂〔統〕弘仁十三年六月四日寂、〔弘〕名のみ、無記事）、慈覺大師〔静〕貞觀八七月〔統〕貞觀六年八月十二日、〔静〕貞觀正十四寂〔統〕貞觀六年正月十四日遷化、〔弘〕名のみ、無記事）、承雲大師〔類〕叡南大師、〔統・弘〕有記事）、延雄阿闍梨〔類〕統〔無記事〕、〔弘〕有記事、恐衍）、尊意贈僧正〔静〕国〔青〕國、〔静〕類・弘〕廿四〔統〕廿二、安原和尚〔類〕統・弘〕安原和尚、〔類〕統・弘〕無記事）、尋獻和尚〔類〕統・弘〕尋獻和尚、明映大和尚〔青〕類・統・弘〕明快大僧正〔有記事〕、〔静〕諸門推〔統〕諸門跡〔静〕利仁〔青〕利口、〔静〕文章生〔青〕文章生〔類〕弘〕文章博士、

章主俊宗子、
〔生〕

良真大僧正

座主 白河 永保元十 師主慶命阿闍梨・明映等弟子、隨長宴
十五任、
灌頂、七十五、小松天皇末葉、兵部丞源通輔男、
寂年也下效之

仁覺僧正

堀河
座主 寬治七九 師主慶範僧正、隨明快・經暹受法灌頂、
十一任、
年五十八、右大臣源師房公三男、

仁豪僧正

鳥羽
座主 天永元五 師主明快・安慶阿闍梨受法、良真灌頂、
十二任、
歲七十一、 内大臣藤能長公五男、

仁實僧正

〔條〕
四上
座主 保安四十 師主仁覺・仁豪等弟子、隨宗觀灌頂、
二晦任、
大納言藤公実卿二子、

最雲法親王

近衛
座主 〔久〕 無品、師主仁豪・仁実弟子、即灌頂、山門法
文壽三
三卅任
親王初例、歲五十三、堀川院皇子、母伊勢守時綱女、

最忠法印權大僧都

隨相実法印灌頂、早世、
法性寺関白忠通公息、

良真大僧正〔静〕永保元十五〔青〕永保元十〔廿五〕〔統〕永保元十五、
〔静〕明映〔類・統〕弘明快〔静・弘〕
隨長宴〔類・統〕從長宴、〔静・統〕弘
灌頂〔類〕受法、〔静〕末葉〔青〕□□、仁
覺僧正〔青〕仁覺僧正〔類・統〕弘仁覺
大僧正、〔静・弘〕五十八〔統〕六十七、
〔静〕右大臣源師房公〔類・統〕土御門
右大臣師房公〔弘〕右大臣顯房公、〔静・
弘〕三男〔類〕息〔統〕男、仁豪僧正〔静・
弘〕師主明快〔類〕明快僧正資〔統〕明快
資、〔静・統〕弘藤能長公五男〔類〕能
長公息、仁實僧正〔静・弘〕師主〔類・
統〕〔なし〕、〔静・統〕弘仁豪等弟子
〔類〕仁豪徒、〔静〕隨宗觀〔類・統〕從宗
觀〔弘〕宗觀、〔静・類・統〕灌頂〔弘〕受
法灌頂、〔静・統〕弘大納言〔類〕春宮
大夫、〔静〕二子〔類・統〕弘二男、最雲
法親王〔静〕文壽〔統〕弘久壽、〔静〕五
十三〔統〕五十九、〔静・類〕弘伊勢守
時綱〔統〕伊豫守時澄、最忠法印權大僧
正〔類〕弘最忠僧正〔統〕最忠、〔静〕隨
相実〔類・統〕從相実、

明雲大僧正〔静〕師主最雲親王〔類〕最
雲法親王〔統〕最雲親王資、〔静〕相実法
印灌頂〔類〕相実法印受法〔統〕從相実
法印灌頂、

明雲大僧正

座主二ヶ度仁安二二十五任 高倉 治承三十一十六任 師主最雲親王・相実法

印灌頂、大納言源顯通卿二男、

座主三ヶ度仁安二二十五任、治承三十一十六 不補、建久七十一十六任、無品、 師主明

承仁法親王

雲大僧正入室、顯真座主受法灌頂、後白川院皇子、

母丹波局、

承円僧正

座主二ヶ度元文二二十二任 土御門 建保二六十二還補、 承仁親王入室、仙雲

嘉禎二十廿六入滅五十七

法印受法灌頂、菩提院関白基房公息、

尊快法親王

座主順徳 承久三四 十六任 俗名寛成、承円座主入室受法灌頂、後鳥羽院第七皇子、母修明門院、贈左大臣範季女、

尊覺法親王

座主後深草 建長元 九六任 入道親王尊快入室受法灌頂、無品、中山順徳院第一五イ皇子、母從三位清季女、

〔統〕顯眞權僧正(有記事)、〔靜・類・弘〕(不記載)、

承仁法親王〔統〕承仁親王、〔靜〕三ヶ度、仁安二二十五任、治承三十一十六還補(以上悉衍)、〔靜〕建久七十一六

〔弘〕建久七十一卅、〔靜〕師主明雲大僧正〔類〕明雲僧正〔統〕明雲大僧正〔弘〕明雲〔靜・類〕顯真座主〔統〕從顯真座

主〔弘〕顯眞、〔靜〕類丹波局〔統〕内膳司紀孝資女、江口遊女〔弘〕丹波局仁操僧都女、承円僧正〔靜〕嘉禎〔青〕喜禎、〔靜〕廿六〔統〕十六、〔靜〕元文〔統〕

弘〕元久、〔靜・統〕十三〔弘〕二、〔靜・統〕弘〕承仁親王〔類〕承仁法親王、〔靜・類・統〕仙雲法印受法灌頂〔弘〕

(念)、〔靜・類、弘〕菩提院〔統〕松殿、尊快法親王〔統〕尊快親王、〔靜〕十六

〔弘〕廿六、〔靜・統〕承円座主〔類〕承円僧正〔弘〕承円、〔靜〕修明門院〔類〕弘

脩明門院〔統〕修明院、〔靜〕範季〔類〕範季卿〔統〕範季公、尊覺法親王〔青〕尊覺法親王〔統〕尊覺親王、〔靜〕六〔統〕

五、〔靜〕入道親王尊快〔類〕尊快法親王〔統〕入道尊快親王〔弘〕尊快親王、〔靜〕無品〔統〕二品〔靜〕中山〔統〕號中山

宮、〔靜・類・統〕第一皇子〔弘〕號中山宮、〔靜〕清季女〔類・統〕弘〕清季卿、最仁法親王〔統〕最仁親王、〔靜〕十四

最仁法親王

座主 弘長三八
座主 十四五イ任、無品、号中山宮、尊覺親王入室、真仙僧
正灌頂弟子、土御門院皇子、

澄覺法親王

座主二ヶ度 文永三十九八イ任 無品、師主尊快親王・尊
同八五十一還補
覺親王入室、承澄僧正受法、隨真仙僧正受灌頂、
三品雅成親王息、後鳥羽院孫、
母内藏頭忠綱女、

最助法親王

座主 弘安九十一廿
九任、十時重服、澄覺親王受法灌頂、無品、
後嵯峨院皇子、母按察三位局隆衡卿女、

覺雲法親王

座主二ヶ度 嘉元三四四任、澄覺親王灌頂、
文保元十一還補
龜山院皇子、母左中将実平女、

叡雲法親王

座主 早世、
同皇子、母大膳大夫藤原房女
〔景房〕

〔四才〕

〔統〕後中山宮〔靜・統〕尊覺親王〔類〕尊覺法親王〔弘〕尊覺、〔靜・類・弘〕真仙〔統〕從真仙、〔靜〕弟子〔類・統・弘〕〔なし〕、澄覺法親王〔青〕澄覺法親王〔統〕澄覺親王、〔靜〕十九〔弘〕十八、〔靜〕師主〔類〕〔なし〕、〔靜・統〕尊快親王・尊覺親王〔類〕尊快、尊覺、〔靜・類〕統承澄僧正受法〔弘〕〔なし〕、〔靜〕隨真仙僧正〔類・統〕從真仙僧正〔弘〕真仙、〔靜・類・統〕受灌頂〔弘〕灌頂、〔靜・類・弘〕三品〔統〕六條三品、最助法親王〔統〕最助親王〔靜・弘〕弘安九〔統〕弘安元、〔靜〕十時〔弘〕于時、〔靜・統〕澄覺親王〔類〕澄覺法親王〔弘〕澄覺、〔靜・類〕統受法灌頂〔弘〕灌頂、〔靜・類〕統後嵯峨院〔弘〕後醍醐、〔靜・類・統〕隆衡〔青〕澄衡、覺雲法親王〔青〕覺雲法親王〔統〕覺雲親王、〔靜〕澄覺〔青〕口覚、〔靜・統〕澄覺親王灌頂〔類〕澄覺法親王受法灌頂〔靜〕左中将実平〔統〕入道三位資平卿〔弘〕左中将資平、叡雲法親王〔靜〕房女〔青〕房女〔類・弘〕景房女、〔統〕〔不記載〕、恒雲法親王〔靜〕誠興寺〔青〕城興寺、〔靜・弘〕公雄〔類〕公雄卿、〔統〕〔不記載〕、尊忠僧正〔靜〕忠成王〔類・弘〕忠成王、〔統〕〔不記載〕、承覺法親王〔靜〕覺雲親王灌頂〔類〕覺雲法親王受法灌頂〔弘〕覺雲灌頂、〔靜・弘〕菩提院〔類〕〔なし〕、

恒 雲 法 親 王

無品、号小川、又誠興寺、早世、
同皇子、母中納言公雄女、

尊 忠 僧 正

岩倉宮忠威王息、順徳院孫、
〔成〕

承 覺 法 親 王

座主 正中二五 覺雲親王灌頂、二品菩提院、
廿三任、
後宇多院皇子、母談天門院、三木忠繼脚女、

承 鎮 法 親 王

座主 正中三 實承灌頂、
三九任、
彦仁王息、忠威王孫、後宇多院御猶子、

尊 雲 法 親 王

嘉曆三十 座主 親源灌頂、大塔宮、還俗之後号將軍護
二六任、
良親王是也、後醍醐院皇子、母民部卿大納言師親女、

尊 胤 法 親 王

座主 正度二正十二任、建武四三 承鎮灌頂、
一〇再任、貞和三八十五還補、
後伏見院皇子、母治部卿局、

〔統〕(不記載)、承鎮法親王〔靜〕彦仁王
息〔類〕彦仁王男〔弘〕彦仁、〔靜〕御猶子
〔類〕為御子〔弘〕為御猶子、〔統〕(不記
載)、尊雲法親王〔靜・類〕後醍醐院皇
子〔弘〕後醍醐第六宮、〔靜〕大納言師親
〔類〕三位大納言師親脚〔弘〕師親、〔統〕
(不記載)、尊胤法親王〔統〕尊胤親王
〔靜〕正慶二正十二〔統〕正慶二年正月
十四日〔弘〕正慶廿七、〔靜〕建武四三
〔統〕建武三十三、三十三〔弘〕建武三十三
〔靜・弘〕貞和三八十五〔統〕貞和三
八月廿五日、〔靜〕承鎮灌頂〔類〕承鎮法
親王灌頂〔統〕從承鎮親王灌頂、〔靜・
類〕統〕皇子〔弘〕第四皇子、
承胤法親王〔統〕承胤親王、〔靜〕康永三
間二廿三〔統〕康永三年閏二月廿三日
〔弘〕康永三三三、〔靜・弘〕康安三二八
〔統〕康安元年十二月、〔靜・弘〕永和二
七月十五日、〔靜〕尊胤親王灌頂〔類〕尊
胤法親王灌頂〔統〕從尊胤親王灌頂、
〔靜・類〕統〕皇子〔弘〕第八皇子、〔靜・
弘〕実明卿〔統〕權大納言実明卿、恒鎮
法親王〔統〕恒鎮親王、〔靜・弘〕康安二
九廿一〔統〕貞治二年四月七日、〔靜〕式
部卿〔類〕從本・統類從本・弘〕(なし)、
〔靜〕親王子〔類〕親王男〔弘〕親王
息、〔靜・弘〕御猶子〔類〕為御子、〔統〕
猶子、覺叡法親王〔統〕覺叡親王、〔靜〕

承胤 法親王

座主 四ヶ度 康永三閏二廿三任、康安三三八任、永和二七〇還補、年三度第二度田辰時
尊胤親王灌頂、二品、同皇子、母東御方、実明卿女、

恒鎮 法親王

座主 康安二九二一任、
式部卿恒明親王子、龜山院御猶子、

〔四乙〕

覺叡 法親王

承胤親王灌頂、一品、早世、
後光厳院皇子、

明承 法親王

座主 嘉慶元二一
同皇子、

義承 僧正イ 准后

座主 正長元四廿七任、一イ、永享七廿三任、二ヶ度也、
鹿苑院相国義滿公息、

義堯 僧正

普廣院贈相国義教公男

承胤親王灌頂〔類〕承胤法親王灌頂
〔統〕從承胤親王灌頂、明承法親王〔統〕
明承親王、〔靜〕嘉慶元〔統〕嘉慶二年二
月廿八日〔弘〕嘉慶二五廿八、義承准后
〔類〕義承僧正〔統〕義承准三宮、〔靜〕正
長元四廿七〔統〕應永三十五年四月廿
一日〔弘〕應永廿五四廿一、〔靜・弘〕永
享七廿三〔統〕永享七四八、〔靜二ヶ度
〔青〕□ヶ度〔靜〕相国義滿公息〔類〕入
道相国義滿公男〔統〕相国入道義滿公
息、〔弘〕入道相国義滿公息、義堯僧正
〔統〕義堯權僧正、〔靜〕普廣院贈相国義
教公男、〔統〕鹿苑院相国入道義滿公末
子、〔類〕（不記載）、
堯胤法親王〔統〕堯胤親王、〔類〕弘堯
胤親王、〔靜〕明應二四廿〔統〕文明十年
四月卅日、〔弘〕明應二四卅、〔靜〕證誠
〔青〕證□、〔靜・類〕貞宮〔統〕弘貞常、
〔靜・弘〕御猶子〔類〕為御子〔統〕為猶
子、〔靜〕後壽量院〔弘〕壽量院、彦胤法親
王〔統〕（彦胤親王敗）、〔靜・類〕皇子
〔統〕弘第四皇子、〔靜〕源一子〔類〕
統・弘源子、〔靜・類〕弘源雅行〔統〕
雅行、應胤法親王〔統〕應胤親王、〔靜〕妙
莊厳院〔類〕統・統中務卿〔弘〕伏見殿、
〔靜・統〕弘親王息〔類〕親王男〔靜・
弘〕御猶子〔類〕為御子〔統〕為猶子、
〔靜・類〕還俗〔統〕捨戒、最胤法親王
〔統〕最徹親王、〔靜〕灌頂〔青〕灌□、〔靜〕

堯胤法親王

座主 明應二
四廿任、根本中堂供養導師證誠兼帶、
後大通院貞宮親王息、後花園院御猶子、号後壽量院、
議力

彦胤法親王

俗名寬恒、
後柏原院皇子、母贈從二位源一子、從一位源雅行卿女、
庭田

應胤法親王

座主 天文廿二
廿九任、
妙莊嚴院貞敦親王息、後奈良院御猶子、還俗、号蜻庵、

最胤法親王

座主 慶長十七
二廿六任、仙忠灌頂、
後安養院邦輔親王息、正親町院御猶子、号円明院、

承快法親王
慶長十九日寂十九才

俗名幸勝、早世、
後陽成院皇子、号実性院、母中山大納言親綱卿女、
〔五才〕

慈胤法親王
元禄十二・十三・寂八十三才

座主三ヶ度 寛永十九
九再任、明暦元二・廿五還補、
常修院、護持僧 同皇子、母春日神主大中臣時廣卿女、
二品、号

後安養院類・統式部卿〔弘〕伏見殿、

〔靜・統・弘〕親王息類〔親王男〕〔靜・

弘〕御猶子類〔統〕承快親王、〔靜〕中

山大納言類・統權大納言、〔靜〕慶長

十九日〔統〕慶長十四年十二月廿日、

〔弘〕〔不記載〕、

慈胤法親王〔靜〕三ヶ度〔青〕三〇度、

〔靜〕廿八任〔青〕廿八〇、〔靜〕二品号

〔青〕二〇〇、〔靜〕明暦元〔青〕明暦〇

〔靜〕母類・統・弘〔母土佐局、〔靜〕時廣

卿類・統・弘〕時廣、

盛胤法親王類〔常尹法親王統〕盛胤親

王〔弘〕最昭法親王 改盛胤、〔靜・弘〕

寛文十三四統〔寛文三年四月十日、

〔靜〕廿一統〕十一、〔靜〕再任、〔青〕〇

任、〔靜〕母類・統〔母權中納言局、〔靜・

統〕四辻大納言類〔四辻權大納言統〕
清宮 靈元院皇子〔下略〕、〔弘〕〔不記
載〕、
〔類〕〔以下未記載〕、
道仁法親王統道仁親王、〔靜〕円実照
院統式部卿〔弘〕伏見殿、〔靜〕太上天
皇之御猶子統靈元院為養子〔弘〕法皇
織仁御猶子〔靜〕得度統・弘〕入室得
度、〔靜〕元禄十一〔弘〕元禄十二、
〔統〕叡仁親王詳細略〔弘〕叡仁法親王
〔詳細略〕、
〔統〕常仁親王〔詳細略〕〔弘〕常仁法親王

盛胤 法(親王)
延宝八廿六逝三十才俗名常尹

座主二ヶ度 寛文十三四十任、延
宝五八廿一再任、 二品、号正法院、
後水尾院皇子、号正法院、母四辻大納言季継卿女、

道仁 法親王

宝永六三廿二座主、
円実照院貞致親王息、 太上天皇之御猶子、元禄十
一十一廿七親王宣下、 諱盛永、同二十一得度、

[五之]

2 妙法院御門跡

傳教 大師

2 妙法院御門跡

傳教大師〔統〕〔弘〕(無記事)、

慈覺大師〔統〕〔弘〕(無記事)、

惠亮和尚〔靜〕統〔水内郡〕〔弘〕水田郡、

常濟阿闍梨〔統〕〔弘〕(無記事)、

延昌僧正〔類〕延昌和尚、〔靜〕六十六

〔青〕六十口、

慈覺 大師

惠亮 和尚

宝幢院第一院主、号大樂大師、
信濃国水内郡人、

常濟 阿闍梨

延昌 僧正

座主、院主、諡号慈念、天慶九十二世任、座主 歳六十六
加賀国江沼郡人、

應和四正十五化八十五

(詳細略)、
〔統〕寛宮〔詳細略〕、
〔統〕承眞親王〔詳細略〕〔弘〕承眞法親
王〔詳細略〕、

陽生僧都
正曆四終八十七

座主、院主、号竹林院、永祚元二十廿七任、座主
伊豆國北條人、
八 歳七十

教圓法印

座主、院主、長吏、長曆三三二任座主、
伊勢守藤孝忠息、

勝範大イ僧正

座主、院立主、法務、延久二五九任、座主
江州人、

定慶阿闍梨

源暹院主

相命法印

妙法院元祖、又妙香院、師生源暹、
權大納言藤俊宗卿息、

快実阿闍梨

快修大僧正

座主再任 應保二五卅任、
仁安元九十三再任、 初例、院主、護持僧、号尾
坂僧正、 權中納言藤俊忠卿息、

昌雲大僧正

院主、法務、護持僧、牛車、新日吉檢校、永被付門跡、円勝
寺別當、六勝寺別當、西塔院檢校、 少納言藤忠成息、

〔六才〕

陽生僧都〔類〕陽生和尚、〔静・弘〕伊豆國北條人〔統〕伊豆國□□人、〔静・弘〕正曆四終〔類〕正曆四七廿三寢、
教圓法印〔類〕教圓和尚〔統・弘〕教圓法師、〔静〕長曆三三二〔弘〕長曆三十三、
勝範大僧正〔類〕勝範和尚〔統〕勝範僧正、〔静・弘〕江州人〔統〕近江國野洲郡人、〔静〕院立〔青・統・弘〕院主、
定慶阿闍梨〔類〕定慶和尚〔無記事〕、〔統・弘〕〔無記事〕、
源暹〔類〕源暹和尚〔無記事〕、〔統・弘〕源暹院主、
相命法印〔類〕相命和尚〔無記事〕、
快実阿闍梨〔類〕快実和尚〔無記事〕、〔統・弘〕〔無記事〕、
快修大僧正〔類〕快修和尚〔類〕行真法皇 初祖、諱雅行、後白河院是也、(以下略)、
昌雲大僧正〔類〕昌雲法務、〔静〕永被付門跡〔類〕〔記事詳細〕此時被付永門跡社頭〔統〕此時被付永門跡〔弘〕付門跡、〔静・弘〕六勝寺〔統〕大勝寺、

実全權僧正

座主 建仁二七
十三任、法務、院主再任、護持僧、日吉別當、同檢
校、新日吉管領、大炊御門右大臣公能公息、

尊性法親王

延應元九三滅

座主 安貞元十
二十七任、護持僧、四天王寺別當、權僧正、貞永二
年叙二品、山門二品初例云々、後高倉院第一皇子、

尊惠權僧正

早世、
西園寺相國公經公息、

〔六一〕

尊守法親王

座主、寺長吏、無品、号高橋宮、
土御門院皇子、母法橋覺宴女、

尊教大僧正

座主 永仁四
十二任、法務、三代護持僧
冷泉相國公息

性守大僧正

正中二五廿二入滅百十三

座主 正中二
五八任、法務、被補天台座主、不受宣命入滅、
西園寺相國実兼公息、

尊澄法親王

座主 元徳二十二十四任、
建武元七再任、再任、護持僧、梶井門跡管領
之、一品親王、山門一品初例、證義探題、還俗之後、宗良

実全權僧正〔類〕實全大僧正、〔靜〕再任

〔類・統・弘〕なし、〔靜・統〕大炊御
門〔類・弘〕徳大寺〔靜・統・弘〕右大
臣公能公息〔類〕左大臣実能公男、

尊性法親王〔類〕權僧正〔類・統・弘〕
(なし)、〔靜〕貞永二年〔弘〕貞曆三四
二、〔靜〕第一〔類〕第二、〔靜〕延應〔弘〕延
曆、

尊惠權僧正〔類〕西園寺相國〔類〕一條
大相國〔統〕太政大臣〔弘〕西園寺太政
大臣、〔靜〕相國〔青〕相國、〔靜・統・弘〕
息〔類〕男、

〔類〕俊園權僧正(後掲)、〔弘〕俊園僧
正、
尊守法親王〔統〕尊惠法親王(衍)、
〔類・弘〕性惠法親王(後掲)、

尊教大僧正〔類〕永仁四十二〔類・弘〕
永仁四二十七、〔靜〕冷泉相國実兼公
息〔類〕冷泉大相國公相公男〔統〕太政
大臣公相公息〔弘〕西園寺太政大臣公
相公息、〔類〕相國〔青〕相國、性守大僧
正〔類〕西園寺相國〔類〕後西園寺入道

〔統〕太政大臣〔弘〕同(西園寺太政大
臣)、〔靜〕相國〔青〕相國、〔靜・統・弘〕
息〔類〕男、〔靜〕廿二入滅百十三〔類〕廿
一寂〔弘〕三十九才、

尊澄法親王〔類〕皇子〔弘〕第二
皇子、

親王是也、

後醍醐院皇子、

亮 性 法 親 王

座主 貞和二八 二品、護持僧、

後伏見院皇子、

亮 仁 法 親 王

早世、
後光嚴院皇子 一宮

堯 仁 法 親 王

座主 至徳元十七任、一品、護持僧、天王寺別當、

永享十二、四十一、滅六十七、

同皇子

明 仁 法 親 王

二品、早世、号木寺宮、

〔七才〕

教 覺 准 后

座主 享徳四 五六任、護持僧、

徳大寺大納言実盛卿息、普廣院贈相国義教公猶子、

覺 胤 法 親 王

座主 永正十五 四十三任、

後大通院貞常親王息、

亮性法親王〔静・類・統〕皇子〔弘〕第九皇子、

亮仁法親王〔静・類〕早世〔統〕（なし）、

〔静〕皇子一宮〔類〕皇子〔統〕第一皇子、

〔弘〕（不記載）、

堯仁法親王〔静〕至徳元十七〔類〕

弘〔至徳元十七〔静〕再任青〕再□、

〔静〕永享十二、四十一、滅〔弘〕永享二十四

廿一寂、〔類〕堯性法親王（後掲）、

明仁法親王〔静・類〕弘〔木寺宮〕青〔本

寺宮〕統〔水本寺宮〕

教覺准后〔静・弘〕徳大寺大納言実盛

卿息〔類〕右大臣實盛公男〔統〕徳大寺

公息、〔静〕普廣院贈相国〔類〕征夷大将

軍源〔統〕弘〔將軍〕〔静〕相国義教公猶

子〔青〕□□義教□猶□、〔静〕弘〔猶子

〔類〕爲猶子〔統〕御猶子、

覺胤法親王〔静・統〕後大通院〔類〕（なし）〔弘〕伏見殿後大通院、〔静〕統〔弘〕

息〔類〕男、

堯尊法親王

座主 天文十九
十十九任、無品、一身阿闍梨、
妙莊嚴院貞敦親王息、

常胤法親王

座主 慶長二四
一二任、一品、号雲龍院、
後安養院邦輔親王息、正親町院御猶子、

堯然法親王

寬文元閏八廿三寂六十
俗名常嘉、座主三ヶ度 寬永十七七十一任、正保二十
二廿四再任、承應二六十四還
補二品、号應恩院、後陽成院皇子、母持明院基孝卿女、

堯恕法親王

元祿四十六寂五十六才
俗名完敏、座主三ヶ度 寬文三十一任、延宝四三
二再任、同七十二還補、二品、
号師子吼院宮、護持僧、後水尾院皇子、母新廣義門
院、園大納言
基音卿女、

堯延法親王

俗名周慶、座主、貞享三十朔親王宣下、同十五日得度、
今上第六皇子、母五條大納言為庸卿女、
元祿四 月 座主、同六 月 日再任、宝永四十
一日 日三ヶ度、同五六月廿三日座主四ヶ度、
享保三十一一叙一品、

〔七七〕
〔八七〕

堯尊法親王〔靜〕妙莊嚴院〔類〕伏見宮
中務卿〔統〕中務卿〔弘〕同〔伏見殿〕妙
莊嚴院、〔靜・統・弘〕息〔類〕男、常胤法
親王〔靜〕号雲龍院〔類・統・弘〕
〔静〕、堯然法親王〔靜〕應恩院〔弘〕慈恩
院、〔靜〕皇子〔類・弘〕第六皇子、〔靜〕
母持明院基孝卿女〔類〕母大納言典侍
基子、藤基孝卿女〔弘〕母句當内侍孝
子、持明院中納言基孝卿女、〔靜〕寬文
元閏八廿三〔弘〕寬文元八廿三、堯恕法
親王〔靜〕寬文三十一〔弘〕寬文三十一、
〔靜〕師子吼院宮〔弘〕獅子吼院、〔靜〕後
水尾院皇子〔類〕後水尾上皇御子〔弘〕
後水尾院第八皇子、〔靜〕母新廣義門
院、園大納言基音卿女〔類〕母后園殿基
音卿女〔弘〕母新中納言典侍基音卿女、
〔靜〕元祿四十六〔弘〕元祿八四十六、
〔統〕無記事、堯延法親王〔弘〕堯延法
親王、〔靜〕貞享三十朔〔弘〕貞享三九
卅、〔靜〕十五日〔弘〕廿五日、〔靜〕今上
〔弘〕法皇誠仁、〔靜〕母五條大納言為庸
卿女〔弘〕母将内侍、菅大納言為庸卿
女、〔靜〕元祿四 月 座主、同六 月
日再任〔弘〕同〔元祿六〕十八天台
座主、
〔弘〕堯森法親王〔以下略〕、
〔弘〕眞仁法親王〔以下略〕、
〔弘〕教仁法親王〔以下略〕、

付紙 私云臆次可考、

俊 円 権 僧 正

座主、号常住金剛院、堀川左大臣源俊房公息、

性 惠 法 親 王

無品、道教僧正實、号小坂殿、又号綾小路宮、龜山院第十三皇子、

堯 性 法 親 王

堯仁親王資、自害云々、後光厳院皇子、

3 青蓮院 御 門 跡

傳 教 大 師

弘仁十三年六月寂、五十六歳、天皇賜挽諱最澄、延暦七年開叡山、建根本中堂、延暦廿三入唐、明年七月帰朝、九月依勅於高雄始行灌頂、

慈 覚 大 師

安 惠 和 尚

座主 貞觀二八、
二十六任、

姓狛氏内列大懸郡人、

〔州〕

〔八之〕

付紙

俊円権僧正〔静・弘〕息〔類〕男、〔統〕

〔不記載〕、

性亮法親王〔静〕又号綾小路宮〔類・弘〕〔なし〕、〔統〕〔不記載〕、

堯性法親王〔静〕堯仁親王資〔類〕堯仁

法親王資〔弘〕堯仁資、〔静・弘〕自害

云々〔類〕自害、〔静・弘〕後光厳院皇子

〔弘〕同〔後伏見〕帝十一皇子、

3 青蓮院御門跡〔類〕青蓮院殿〔弘〕天台宗青蓮院御門跡

傳教大師〔静〕延暦七年〔弘〕延暦八年

〔静〕開叡山〔弘〕開比叡山、〔静・弘〕入

唐〔統〕從遣唐使菅原清公渡唐、〔静〕明

年七月〔統〕延暦廿四八月〔弘〕七月、

〔静・弘〕帰朝〔統〕着長門國、〔静〕九月

依勅於高雄始行灌頂〔統〕九一勅於清

灌峯高雄寺始開灌頂壇〔弘〕始行

灌頂、〔類〕〔不記載〕、

慈覚大師〔統・弘〕〔有記事〕、〔類〕〔不

記載〕、

安惠和尚〔静〕貞觀二八二十六〔統・弘〕

貞觀六二十六、〔静・統〕姓狛氏〔弘〕姓

狛、〔静〕内列大懸郡〔統〕河内國大懸郡

〔弘〕内州大懸郡、〔静〕卒〔統・弘〕寂、

〔静〕七十四才〔統〕年七十五〔弘〕六十四

才、〔類〕〔不記載〕、

相應和尚
延喜十八十二誠有奇瑞八十八才

姓禁氏、近江淺井郡人、其先孝德帝之裔也、

遍救僧都

座主 万壽五六
廿一任、年七十四、

慶命大僧正

大宰少貳藤原孝友男、

長曆二九七寂七十五

慶範僧正

越前守安隆子、

〔九才〕

廣筭法印

座主 保安二
十六任、

寬慶權僧正

大宮任大臣俊家公三男

行玄大僧正

四十九才

座主 保延四十
廿九任、 保延六年榎修禁裏安鎮、法務、青蓮院

元祖、師主寬慶大僧正、良祐受法灌頂弟子、一統高祖、

無動寺・横川五堂・青蓮院・桂林院相承之、法性寺座主、

法成寺檢校、法勝寺別當、常壽院別當、最勝講為證義

者、宝莊嚴院僧正、法皇廻心御受戒、知足院禪定太閤

同登壇為傳戒和尚、牛車四十七才、五十未滿聽牛車之例、

相應和尚〔靜〕姓禁氏〔統〕姓櫻井氏

〔弘〕姓櫻〔靜〕近江〔統〕近州〔弘〕江州

〔靜〕帝之裔〔類〕天皇苗裔〔弘〕天皇裔、

〔靜〕延喜十八十二〔類〕延喜十八一

二〔弘〕延喜十八十二、〔靜〕滅〔類〕逝

〔弘〕寂、〔類〕〔不記載〕、

遍救僧都〔統〕弘〔遍救僧都、〔弘〕〔無

記事〕、〔類〕〔不記載〕、

慶命大僧正〔靜〕座主万壽五六廿一〔統〕

大同三年補天台座主〔弘〕萬壽五六廿

一任座主、〔靜〕大宰少貳藤原孝友〔統〕

播磨守藤原文朝臣〔弘〕藤原孝友〔類〕

〔不記載〕、

慶範僧正〔統〕弘〔無記事〕、〔類〕〔本

〕〔不記載〕、

廣筭僧正〔統〕廣筭法印〔弘〕廣筭法印

〔統〕弘本〔無記事〕、〔類〕〔不記載〕、

寬慶權僧正〔靜〕任大臣弘〔右大臣、

〔靜〕滅〔弘〕寂、〔類〕〔不記載〕、

行玄大僧正〔靜〕弘〔保延四十廿九

〔統〕保延四十廿、〔靜〕榎修禁裏〔弘〕被

修禁裏〔靜〕元祖〔統〕初祖〔弘〕最

初〔靜〕寬慶大僧正〔類〕寬慶僧正〔弘〕

寬慶〔靜〕弘〔弟子統資〕〔靜〕證義

〔青〕證口、〔靜〕統〔禪定太閤青〕大

閤、〔靜〕傳戒和尚〔統〕御傳戒和上、

〔靜〕統〔五十未滿弘〕未滿五十、〔靜〕

統〔弘〕京極太閤〔類〕京極攝關白太政

大臣、〔靜〕統〔弘〕息〔類〕男、

僧中未聞先規云々、
京極太閤師実公息、

覚 快 法 親 王
養和元十二六寂四十四才

座主 安元三 法務、法性寺座主、一身阿闍梨、大僧正行
五十一、
玄入室、瀉瓶弟子、同受灌頂、無動寺檢校、成就院別當、
宝莊嚴院別當、歡喜光充院別當、法興院并極樂寺別當、
金剛勝院別當、嘉應二五廿五親王宣下 三十 山門法
七才

親王第二度也、イ歲四十八、鳥羽院第七
皇子、母八幡別當光清女、美乃局、

慈 円 大 僧 正
嘉祿元九廿五滅七十一号吉水和尚

諱道快、座主四ヶ度 建久三十一廿九初度、建仁元二
建 度、保元十一十四第四 十八第二度、建曆二正十六第三
度、保元十一十四第四 度、法務、不經僧正、大僧正直任之
ヶ度任座主初例也、

初例也、一身阿闍梨、覚快親王入室弟子、全玄大僧正
灌頂弟子、法性寺座主、極樂寺并法興院別當、楞嚴三
昧院并成就院檢校、常壽院別當、法性寺執印、行イ平等院
檢校、天王寺別別、牛車、諡号慈鎮和尚、嘉禎三三八之
當

依前大僧正良快 奏也、滅後十三年也、廿六日勅使
少納言藤長成登山於無動寺大乘院讀 勅書 法性
寺 関白忠
通公息、

〔九乙〕

覚快法親王〔統〕覚快親王、〔静・弘〕母
八幡別當光清女、美乃局〔類〕母家女房
美濃、八幡別當光清女、〔統〕母義（美）
濃局、八幡別當光清女、
慈円大僧正〔静〕諱〔類〕初法諱〔統〕法
諱〔弘〕本名、〔静・弘〕四ヶ度〔類〕三箇
度、建保元十一十四〔弘〕建保元十一
九、〔静〕常壽院〔統〕常住院、〔静〕天王
寺〔統〕四天王寺、〔静・類〕統・忠通
〔弘〕忠道、〔静・統・弘〕息〔類〕男、〔静〕
滅〔類〕弘〔寂〕統〔入〕滅、

料
良尋法印

慈鎮和尚入室、受法灌頂弟子、建仁永一二七三被出修行、廿六歳、後法性寺関白兼実公息弟一、

資
良快大僧正

座主再任寛喜元四十三任、法務、慈鎮和尚灌頂弟子、尊忠法印入室、本覚院、号六御堂、覚什僧都頭宗弟子、正治元季夏遂業一身阿闍梨、禁裏最勝講々師參勤、天王寺別當、承元二五廿探題宣下才、霜月會精義撰錄息

題者初例也、禁裏最勝講證義四ヶ度、日吉社震書御八講為證義者、法性寺座主、法成寺檢校、後法性寺関白兼実公息

慈源大僧正

座主仁治二正十七任、再任、法務、良快僧正弟子、慈賢僧正受法灌頂弟子、一身阿闍梨、天王寺別當、氣比社務、三昧院檢校、積善寺并極楽寺等別當、常壽院別當、法性寺座主、法成寺檢校、光明峯寺撰関道家公息、

道覚法親王

座主宝治元三廿五任、無品、俗名朝仁、号西山宮、慈鎮和尚入室、瀉瓶弟子、於最勝四天王院、從慈鎮和尚、上受灌頂、一身阿闍梨、牛車、後鳥羽院皇子、母法眼頭清女、尾張局、

〔一〇才〕

良尋法印〔静〕統、慈鎮和尚〔弘〕慈圓、〔静〕統、受法〔弘〕法、〔静〕建仁〔統〕、弘、建永、〔静〕後法住寺関白〔統〕九條殿後法住寺関白〔弘〕九條、〔類〕〔不記載〕、

良快大僧正〔静〕統、慈鎮和尚〔弘〕慈圓、〔静〕弘、弟子〔統〕資、〔静〕弘、法印〔統〕法師、〔静〕六御堂〔統〕弘、大御堂〔静〕季夏〔統〕夏末〔静〕撰錄息〔統〕撰錄息、〔静〕震出〔青〕震〇〔統〕宸筆、〔静〕後法性寺関白〔青〕後法性〇〇白、〔類〕九條殿月輪攝政関白〔統〕後法性寺攝政関白〔弘〕同〔九条兼實公〕、〔静〕統・弘〔息〕類〔男〕、
慈源大僧正〔静〕良快僧正〔統〕良快大僧正〔弘〕長快、〔静〕弘、弟子〔統〕資、〔静〕常壽院〔統〕常住院〔静〕光明峯寺撰関〔類〕九條殿攝政関白〔統〕九條殿光明峯寺攝政関白〔弘〕九条光明峯寺関白、〔静〕統・弘〔息〕類〔男〕、
道覚法親王〔静〕弘、慈圓〔統〕慈鎮和尚、〔静〕上受灌頂〔統〕弘、受灌頂、〔静〕皇子〔類〕第八皇子〔統〕第七皇子〔弘〕第六皇子、

最守大僧正

尊性親王入室、仁聖律師灌頂弟子、尊性・道覺兩親王受法許可、一身阿闍梨、松殿関白基房公息、

尊助法親王

座主四ヶ度 正元々三廿六任、文永四七十五任、第二還補、第 度 弘安七九廿七還補 第三度、正應三三 天王寺別當、尊性親王入室、公圓僧正受法灌

頂弟子、一身阿闍梨、入室守僧正室、為親王、常壽院別當、崇徳院御影堂為檢校、牛車、後嵯峨院御出家勤御戒師、土御門院皇子、母尋恵法印女、

慈禪大僧正

号浄土寺、座主 文永五十 二七任、法務、慈源僧正入室、聖増僧

正灌頂弟子、一身阿闍梨、法性寺座主、大僧正、法成寺平等院等檢校、

猪熊関白家実公息、

道玄准后

号十樂院

座主再任 建治 一十一廿四任、嘉元々 元々四五還補、第二度、 法務大僧正、嘉元々

十二十四准三后、山門初例也、乾元二四十三最守僧正入室、受法灌頂弟子、一身阿闍梨、法成寺執行、平等

院長吏 後任四 神仙門院御出家御戒師、法性寺座主、

金剛勝院并安樂光院檢校、牛車、禁裏御受法、王上有

御傳法事、法勝寺蓮華王院等別當、最勝光院并後白

川院法花堂別當、准三后

二〇七

最守大僧正〔静・弘〕尊性親王〔統〕尊性法親王〔静・弘〕弟子〔統〕資〔静・弘〕受法〔統〕受〔静・弘〕関白〔類〕統攝政関白〔静・統・弘〕息〔類〕男、

尊助法親王〔静〕正應三三〔統〕正應二〔弘〕正曆三二六〔静・弘〕尊性親王

〔統〕尊性法親王、〔静〕入室僧正室〔統〕尊性法親王、〔静〕常壽院〔統〕常住院〔静・弘〕皇子〔類〕第八皇子〔統〕第七皇子、

慈禪大僧正〔静・弘〕慈源僧正〔統〕慈源大僧正、〔静〕猪熊関白家実〔類〕猪隈攝政関白家実〔統〕猪熊攝政関白家実〔弘〕

猪熊関白家実、〔静・統・弘〕息〔類〕男、道玄准后〔類〕道玄大僧正〔統・弘〕道玄

准三后、〔静〕建治二一廿四〔弘〕建治二一廿五、〔静〕最守僧正〔弘〕最守、

〔静〕准三后普光園院関白良実〔類〕二條殿関白左大臣良実〔統〕二條殿普光園院

関白良実〔弘〕二條殿元祖普光園院良実、〔静・統・弘〕息〔類〕男、

普光園院闍白良実公息、

慈 実 大 僧 正

正安二五九入滅六十三

座主 弘安十一 法務、四天王寺別當、慈源僧正入室、成源僧正・尊助親王等灌頂阿闍梨、法性寺座主、大僧正、光明峯寺撰、
關道家公息、

慈 助 法 親 王

座主再任、正德二四十二任、同三十一、廿六選補第二度 尊助親王入室、受法灌頂弟子人、道玄准后受法灌頂弟子也、延政門院於龜山殿御出家為戒師、東二條院御出家御戒師、法皇於延曆寺御受戒、依別勅為和上、法皇 後深草院 御幸無動寺牛車、後嵯峨院皇子、母公經公女、

寺牛車、後嵯峨院皇子、母公經公女、

慈 玄 大 僧 正
正安三正廿六入滅卅二

法務、慈禪僧正入室、尊助親王受法灌頂弟子、法印宗敵頭宗弟子、遂葉題者、經海僧正一間永源已講、一身阿闍梨、禁裏最勝講為證義者、正應元十一二探題宣下、僧正之後探題、三井明尊僧正例也、證義之後探題、今度初例欵、仙洞最勝講證義、大僧正、
法性寺座主、 円明寺撰闍実經公息、

〔二一才〕

慈実大僧正〔弘〕旧記二後妙香院僧正下有〔靜〕弘安十三廿二〔弘〕弘安十一三十一、〔靜〕光明峯寺撰闍〔類〕九條殿攝政關白〔統〕九條殿光明峯寺攝政關白〔弘〕九條殿光明峯寺、〔靜・統・弘〕息〔類〕男・靜・弘 正安二五九〔類〕正安元年五月九日〔統〕正安元五九、〔靜・類・統〕入滅〔弘〕寂、
慈助法親王〔靜〕正德二四十二〔統〕正應二四十二〔弘〕正德二四十二、〔靜・統〕同三十一廿六〔弘〕同三十一廿一、〔靜〕尊助親王〔統〕尊助法親王〔弘〕尊助、〔靜〕弟子人〔統〕資、又〔弘〕又〔靜〕弟子〔統〕受法灌頂資〔弘〕受法灌頂〔靜〕依勅〔統・弘〕依別勅、〔靜・統〕後深草院〔弘〕後深草、〔靜〕皇子〔類・統・弘〕第十三皇子、〔靜〕公經〔類〕大納言三位公經〔統〕西園寺太上天臣公經〔弘〕大納言公經、
慈玄大僧正〔靜〕尊助親王〔統〕尊助法親王〔弘〕尊助、
〔靜・弘〕僧正例〔統〕僧正之例、〔靜〕今度初例欵〔統〕今初例也、
〔靜・類〕廿六〔弘〕廿五、〔靜・統〕入滅〔類・弘〕寂、

良助法親王

座主 正安、元四
廿三任、無品常壽院尊助親王入室、受法灌頂
弟子、出家為親王、一身阿闍梨、龜山院皇子、母三條
局、正三位左
中將実平女、

慈深僧正

慈玄僧正入室、澄尋僧正受法灌頂弟子、一身阿闍梨、
後光明峯寺撰政家經公息、

慈道法親王

座主三ヶ度 正和三八朔任、^{〔字〕}元亨四四十一
二任、嘉曆二四廿七還補、二品、四天王

寺別當、道玄僧正入室瀉瓶弟子、出家叙親王、一身阿

^{檢校イ}

闍梨、法性寺座主、遊義門院御受戒、<sup>明後日御如
法經料也、</sup>仙院

御受法、新院於衣笠殿三衣御傳受、牛車、四十未滴希
^{代願契也}

廣義門院御受戒為和上、於土御門殿內親王、<sup>春宮御
休所崇</sup>

^{〔字〕}明門院後宗
多院皇女也 御受戒、准三后号十樂院、号青龍院、

龜山院皇子、母帥典
侍、兵部卿時仲女、

良助法親王〔弘〕多武峯優婆塞ト云是也
尊賢ト云也、〔靜〕尊助親王〔統〕尊助法
親王〔弘〕尊助、〔靜〕弘、皇子〔類・統〕
第七皇子、〔靜・統・弘〕正三位〔類〕〔念
〕、〔靜〕出家〔統〕出家後、

〔類〕慈道法親王〔後掲〕

〔類〕行仁法親王〔下略〕

慈深僧正〔靜〕慈玄僧正〔統〕慈玄大僧
正〔弘〕慈源、〔靜・弘〕澄尋〔統〕澄尋、

〔靜〕弟子〔青〕□□〔統〕資、〔靜〕後光明
峯寺撰政〔類〕一條殿攝政左大臣〔統〕

一條殿後光明峯寺攝政左大臣〔弘〕一

條後光明寺〔靜・統・弘〕息〔類〕男、

慈道法親王〔靜〕元亨〔弘〕元亨、〔靜〕嘉

曆二四廿七〔弘〕嘉曆三四十七、〔靜〕別

當〔統〕檢校〔靜〕龜山院皇子〔類〕同帝

第十六皇子〔統・弘〕龜山院第十六皇

子〔靜・弘〕時仲〔類・統〕時仲朝臣、

尊圓法親王
延文元九廿三寂五十九

尊道法親王

祐助法親王

座主^{四イ} 元弘元十廿任、曆應二十廿八還補、觀應^{十二イ}
座主三ヶ度^{四イ} 元七廿四還補、第三度、文和元廿六任、
^{尊イ}

二品、俗名守彦、慈深僧正入室、桓守僧正灌頂弟子、青
竜院二品親王受法許可弟子、一身阿闍梨、牛車、廣義
門院御出家為御戒師、依 上皇仰合書進 主上御

手本 御書詞上 院
皇御草也、崇徳院御影堂并粟田宮檢校依

宣風雅和歌集序并第一卷清書 件集上皇御自撰和
漢兩序同勅草也、此

集一部道 主上御受法^{十八}道、四天王寺別當、康曆一九

終清書功、廿九贈一品、号大乘院宮、伏見院皇子、母俊衡朝臣

女播磨

内侍、

座主 曆應四十
座主 二十八任、号桂林院、随慈道親王灌頂、

後二条院皇子、母權中納言 女、
〔公泰卿〕

〔二二才〕

座主三ヶ度 文和四十世任、貞治四九還補、依神輿入
洛辭、應 二又如元以勅戒仰之、應永二

十二廿 俗名尊有、尊円親王入室、瀉瓶弟子、祐助親王

受法許可弟子、随仁親王受兩部灌頂、平等院入寺巡

礼、粟田宮崇徳院御影堂檢校、牛車、叙一品、後又叙一

尊圓法親王〔靜・弘〕慈深僧正〔統〕慈

深大僧正、〔靜・統〕桓守僧正〔統〕灌頂、

〔靜・弘〕青竜院二品親王〔統〕音龍院

二品法親王、〔靜・弘〕并粟田宮〔統〕粟

田宮〔靜・弘〕勅草〔統〕勸草〔靜〕道十

八〔統〕十八道〔弘〕十八道、〔靜〕皇子

〔類〕統・弘第六皇子、〔靜・弘〕寂〔類〕

統入滅、

〔統〕道照法親王〔下略〕、

〔統・弘〕慈眞法親王〔弘〕尊實法親王

〔下略〕、

祐助法親王〔靜〕随慈道親王〔統〕慈道

法親王〔弘〕慈道、〔靜・弘〕灌頂〔統〕灌

頂資、〔靜・弘〕皇子〔類〕統第三皇

子、〔靜〕母權中納言 女〔類〕統・

弘〔母權中納言公泰卿女、

尊道法親王〔靜〕文和四十世〔統〕文和

四十卅〔弘〕文和四十五、〔靜〕應 二

〔統〕應安二〔弘〕應安十一、〔靜〕以勅戒
仰之〔統〕以勅被仰之〔弘〕以勅被仰、
〔靜〕尊有〔統〕學省〔弘〕尊省〔靜〕尊円
親王〔統〕尊圓法親王〔弘〕尊圓、〔靜〕祐
助親王〔統〕祐助法親王、〔靜〕随仁親王
〔統〕随兩親王、〔靜〕初例敷〔弘〕初例、
〔靜〕後青龍院〔弘〕青龍院〔靜〕統・
弘〔後伏見院〔類〕同帝〔後伏見院〕〔靜〕
皇子〔類〕統・弘〕第十一、

慈濟法親王

品親王初例歟、号後青龍院、
後伏見院皇子、
座主 永和三四
十五任、隨尊道親王受兩部灌頂、
後芬陀利花院關白經道公息、

道圓法親王

座主 永徳元
六八任、俗名久尊、々通親王受法灌頂、
後光嚴院第六皇子、

義円准后

座主 應永二十六
十一三任、岡崎門跡、受法灌頂、還俗之後、為征
夷大將軍義教公、号普廣院殿是也、鹿園院相國
義満公息、

義快

早世、後福照院關白持基公息、普廣
院贈相國義教公御猶子、本傳不見、

尊應准后

座主 文明三
五八任、良什僧正受法灌頂、大僧正 不經
正、天王寺
別當、号後十樂院、後福照院關白持基公息、

〔一二之〕

慈濟法親王〔靜〕尊道親王〔弘〕尊道、
〔靜・弘〕兩部〔統〕受法、〔靜・弘〕灌頂
〔統〕灌頂資、〔靜〕後芬陀利花院關白
〔統〕一條殿後芬陀利華院關白左大臣
〔弘〕一條後芬陀利華院關白、〔類〕〔不
記載〕、

道圓法親王〔靜・弘〕第六皇子〔類〕統
第七皇子、〔靜〕尊道親王〔統〕尊道法親
王〔弘〕尊道、〔靜・弘〕灌頂〔統〕灌頂
資、〔靜・弘〕永徳元六八〔統〕永徳元
六、

義円准后〔類〕統、義園准三后〔靜〕還
俗之後、為征夷大將軍〔統〕還俗、征夷
大將軍〔弘〕還俗為征夷將軍、〔靜〕鹿園
院相國〔類〕弘、鹿苑院〔統〕鹿苑院准
后、〔靜・統〕弘〔息〕類〔男〕

義快〔靜〕後福照院關白持基〔統〕二條
殿福照院關白左大臣滿基〔弘〕二條殿
持基、〔靜〕普廣院贈相國〔統〕普廣院左
大臣〔弘〕將軍、〔靜〕御猶子〔統〕弘〔猶
子〕、〔類〕〔不記載〕、

尊應准后〔類〕統、尊應准三后〔靜〕後
福照院關白〔類〕二條殿攝政關白後福
照院〔統〕二條殿福照院攝政關白〔弘〕
二條殿、〔靜・弘〕灌頂〔統〕灌頂資、
〔靜・弘〕天王寺〔統〕四天王寺、

尊 傳 法 親 王
文龜四六廿六薨三十一

正廿七

俗名尊教、辭門室隱遁、号不遠院、早世、

後土御門院皇子、母權大納言長賢女、准三后朝子、

尊 鎮 法 親 王
天文十九九十三薨

座主、俗名清彦、二品、公助僧正受法灌頂、天王寺別當、
本名尊猷、号桂蓮院、 後柏原院皇子、母准三后藤
子、号豊樂門院、贈

勸修寺
左大臣教季女、

尊 朝 法 親 王

座主 天正十三、覺恕准后受法、亮信權僧正灌頂、天王

寺別當、号大聖院、号龍池院、 後安養院邦輔親王子、

正親町院

御猶子、

尊 純 法 親 王
承應二九廿六薨

座主、二品、寬永十七三十七叙元大僧正、同
廿一十五任座主、承応二正廿再任、 梶井還俗

蜻庵 子、樵月 尊悟親王子、後陽成院御猶子、号円智院、

尊 證 法 親 王
元禄七十五薨四十四才

座主、延宝四八十再任、二品、俗名周賢、良尚親王受法、
後水尾院皇子、母新廣義門院、贈左大臣基音女、 号
後桂道院、明曆二 丙六三入室 才、方治三七廿一得度、

尊傳法親王〔靜〕辭門跡〔統〕釋門跡、

〔靜〕皇子〔類・統・弘〕第二皇子、〔靜・

弘〕權大納言〔類〕權大納言源〔統〕庭田

贈内大臣、〔靜・弘〕長賢〔類〕長賢卿

〔統〕長賢公、〔統〕准三后朝子〔弘〕准三宮

朝子、〔靜・統〕薨〔類・弘〕寂、

尊鎮法親王〔靜・弘〕灌頂〔統〕灌頂資、

〔靜・弘〕天王寺〔統〕四天王寺、〔靜・

弘〕皇子〔類・統〕第三皇子、〔靜・統〕准

三后藤子〔弘〕准后藤子、〔靜・類・統〕

豊樂門院〔弘〕豊樂院、〔靜〕勸修寺教季

〔類・統・弘〕教季公、〔靜・類・弘〕寂

〔統〕入滅、

尊朝法親王〔靜〕天正十三二十二〔弘〕

天正十三二十七、〔靜・弘〕灌頂〔統〕灌

頂資、〔靜〕後安養院邦輔親王子〔類〕貞

敦親王御子〔統〕伏見殿貞敦親王御子

〔弘〕伏見殿後安養院邦輔親王息、

尊純法親王〔靜〕蜻菖子〔類〕蜻菖男

〔統〕蜻菖御子、〔靜〕後陽成院〔弘〕法皇

政仁、〔靜〕御猶子〔弘〕為御猶子、〔靜〕

承應二九廿六薨〔統〕承應二五廿六入

滅

尊證法親王〔類〕周賢法親王〔統〕尊證

親王〔靜〕受法〔弘〕受法灌頂、〔靜・

統〕後水尾院皇子〔類〕上皇御子〔弘〕太

上天皇皇子、〔靜・弘〕新廣義門院〔類〕

新大納言局、〔靜〕贈左大臣〔類〕園權大

尊祐法親王

寛文五二十六灌頂^{十五才}、延宝四八四座主、

伏見邦永親王子、仙洞御猶子、宝永七四廿七親王宣下、
諱庶康、同年 月 日入寺得度、正徳四甲午五月四灌頂
同年十月八日座主、
〔一三才〕
〔一三ウ〕

4 曼珠院御門跡

此号竹内門跡、院字始在北山、後移禁中
之境内、歳久、又明暦二年移一乘寺給境内、

依相應請諡号、

傳教大師

慈覚大師

安惠和尚

最円

玄昭律師

玄鑑

延喜十五三寂七十二才

俗名正六位上高階格言、

納言藤原〔統〕贈左大臣藤原〔弘〕園、
〔靜〕後柱連院〔統〕後柱連院宮、

〔統〕智異院〔弘〕童形日出宮(下略)、
尊祐法親王〔靜〕親王子〔弘〕親王息、

〔靜〕八日〔弘〕四、〔類〕(以下未記載)、
〔弘〕尊英法親王(下略)、

〔弘〕尊眞准三后(下略)、
〔弘〕尊實法親王(下略)、
〔弘〕浩宮(下略)、

4 曼珠院御門跡
傳教大師〔統・弘〕(無記事)、〔類〕(不
記載)、

慈覚大師〔統・弘〕(無記事)、〔類〕(不
記載)、

安惠和尚〔統・弘〕(無記事)、〔類〕(不
記載)、

最円〔統〕寂圓、〔統・弘〕(無記事)、〔類〕
(不記載)、

玄昭律師〔統・弘〕玄昭、〔統〕(無記
事)、〔類〕(不記載)、

玄鑑〔統〕(無記事)、〔類・弘〕(不記載)、

覺 惠 律 師

是 筭 阿 闍 梨

曼珠院元祖、北野寺務、最初國師、
山門阿闍梨号始之、

遍 救 僧 都

僧都、無動寺南山房相應内供奉資、
枇杷左大臣藤仲平公息、昭宣公之孫也、

暹 円 僧 都

左衛門尉源頼実男、多田撰津守頼國孫、

寬 慶 大 僧 正

座主、
桓武天皇孫平伊望息、

教 円 僧 正

長曆三三
座主十二任、法印、天王寺別當、
伊勢守藤孝忠男左中将永頼孫、

長 筭 大 僧 都

天喜五年寂

少納言藤朝範男、奇人也、

仁 暹 大 僧 都

法性寺座主、
醍醐天
越前守源長経男、
皇裔、
大納言源重光孫、

二四才

覺惠律師〔統・弘〕覺惠、〔統・弘〕（無記事）、〔類〕（不記載）、
是筭阿闍梨〔類〕是筭僧都〔統〕是筭、
〔静〕北野寺務〔統〕北野寺務最初
〔静〕最初國師〔統〕國師
遍救僧都〔類〕遍救大僧都〔統〕遍救、
〔統〕（無記事）、
暹円僧都〔類〕暹圓大僧都〔統〕暹圓、
〔統〕（無記事）、
寬慶大僧正〔類・統〕（不記載）、
教円僧正〔類〕教圓權僧正〔統〕教圓、
〔静〕藤〔統〕藤原、
長筭大僧都〔統〕長算、〔静〕少納言
藤朝範男〔統〕朝典男、
仁暹大僧都〔統〕仁暹、〔静〕大納言
源重光孫〔統〕大納言重光卿孫、

頼 円 法 眼

伊賀守藤保相男、中納言藤山陰之流、左中将永頼孫、

真 尊 律 師

北野別當、
阿波^イ周防守藤良綱男、

〔一四乙〕

忠 尋 大 僧 正

保延四十四寂七十四

座主^{大治五十}二十九任、法務、天承元三十三鳥羽院御願得長
壽院供養導師、号東陽房、土佐守源忠季男^{清和}源氏

顕 尋 律 師

号宰相律師、
左少将藤氏能男、

円 仙 権 少 僧 都

本名良顕、
葉室権中納言藤顕頼男、権中納言顕隆孫、

仙 範 少 僧 都

院主、
毘沙門堂入道、参議平親範息、左大弁従三位範家孫、

義^承 信 法 印

院主、
泰経男、

承 兼 権 僧 正

北野別當、
左中将源守通男、権大納言通資孫、

頼円法眼〔統〕頼圓、

真尊律師〔類〕真尊權律師〔統〕真尊、

〔静〕律師〔統〕權律師、

忠尋大僧正〔統〕忠尋、〔静〕清和源

氏〔統〕清和天皇苗裔、〔静〕源忠季

〔統〕忠季、

顕尋律師〔類〕顕尋權律師〔統〕顕尋、

〔統〕〔無記事〕、

円仙権少僧都〔統〕圓仙、〔統〕〔無記

事〕、

仙範少僧都〔統〕仙範、〔静〕少僧都

〔統〕権少僧都、〔静〕参議平〔統〕民

部卿、

義信法印〔類〕承信大僧都〔統〕承信、

〔静〕泰経男〔統〕泰経息、

承兼権僧正〔統〕承兼、

公證〔證〕權大〔僧正〕臣都〔本〕

北野別當、西塔院主、山科左大臣実雄公男法印公曉息、西園寺実宗公孫、

道教〔僧正〕法印

北野別當、三條内大臣藤公親公男、右大臣實親孫、

実〔救〕濟大僧都

權大納言藤公泰卿男、

〔二五才〕

慈順大僧正

法性寺座主——任〔延慶元〕法務、一身阿闍梨、護持僧、良光僧正資、竹林院又東南院竹中奇人、新後撰載、山科左

大臣実雄公男、〔大〕政大臣公經公孫、

慈嚴大僧正

座主〔元德〕二四十七任、〔觀應〕三二任、兩度、法務、二品、一身阿闍梨、三代國師、輦車〔四十〕二歲、元弘三於紫宸殿被修天下安鎮法、後山本左大臣実泰公男、

慈快僧正〔阿闍梨〕

中納言藤頼平卿息〔一〕竹林院左大臣藤公衡公男、

公證權僧都〔類〕公證權大僧都〔統〕

公證〔靜〕僧正〔青〕〔なし〕、〔靜〕山科〔統〕山階、

道教法印〔類〕道教法印〔統〕道教

印〔統〕僧正〔青〕山本〔なし〕、〔靜〕法

親〔統〕内大臣公親、

実濟大僧都

慈順大僧正〔統〕慈順、〔靜〕良光僧

正〔青〕□□□正、〔靜〕山科左大臣

階、〔靜〕男〔統〕息、

慈嚴大僧正〔統〕慈嚴、〔靜〕男〔統〕

息、

慈快僧正〔類〕慈快阿闍梨〔統〕慈快、

〔靜〕竹林院左大臣藤公衡公男〔統〕公衡公息、

慈守大僧都

隱遁、
中園相國藤公賢公男、

慈昭權大イ僧正

一身阿闍梨、法性寺座主、當代梶井門跡、大塔宮尊雲
法親王雖為神領至今、後昇再任云々、貞治於長
[押]

講堂承勅被參、法花
經導師、同七男、

道豪大僧正

座主應永九下十七任、慈昭僧正資、
普光園院關白良基公息、

〔二五之〕

良順大僧正

座主応永十六三十六任、
同三男、是心院關白師良哀公息、

覺什少僧都

北野別當、至當代改為鹿苑院之屋敷也、
石浦藤次成言男、利仁將軍末孫、

良什准后

座主永享三八十六任、
成恩寺關白經嗣公息、

慈守大僧都〔統〕慈守、〔靜〕藤公賢
公男〔統〕公賢公三男、

慈昭權僧正〔統〕慈昭、〔靜〕大イ〔青〕

(なし)、〔靜〕同七男〔統〕中園相國
公賢公七男、

道豪大僧正〔統〕道豪、〔靜〕普光園
院關白〔統〕二條太閤、〔靜〕息〔統〕

三男、

良順大僧正〔統〕良順、〔靜〕大僧正

〔統〕僧正、〔靜〕同〔統〕二條太閤良

基公、

覺什少僧都〔靜〕屋敷〔青〕屋鋪、〔統〕

(不記載)、

良什准后〔統〕良什、〔靜〕成恩寺關

白〔統〕成恩寺關白左大臣、〔靜〕息

〔統〕男、〔類〕(不記載)、

良 鎮 權イ 大 僧 正

法性寺座主、
後成恩寺関白兼良息、弟イ

慈 運 大僧正イ 法 親 王

二品、元良殿、
後大通院貞常親王息、母贈一品重有女
後土御門院御猶子、

寛 恕 准 后

座主、元龜元三、号金蓮院、
廿三任、
後奈良院皇子、母刑部卿一就女、
[親]

良 恕 法 親 王 寛永廿七五寂六十五

座主、二品、本名寛円、号龍華院、
陽光院誠仁親王三宮、母新上東門院晴子
内大臣晴秀公女、

良 尚 法 親 王 元禄六七十九寂七十二

座主、二品、俗名勝行、号天松院、正保三三三二任座主、
明暦二年依台命改地一乗寺境、則為中興開基、寛文
四二朔任護持僧、尊純親王受法灌頂、桂光院一品
式部卿智仁親王第二子、母京極丹後守尊国女、寛永
年中太上天皇
為御猶子、

良 應 法 親 王

俗名勝明、貞享四九廿八親王宣下、同十月九得度才
後西院第皇子、母梅小路中納言定矩卿女、

イ 二廿一 座主廿二日辞
宝永五六月廿二日座主、翌廿三日遷化、三十一才、
[二六才]

良鎮大僧正「類」良鎮權僧正「統」良鎮、「靜」後成恩寺「統」一條、
慈運法親王「統」慈運、「靜」法親王「統」大僧正、「靜」後大通院「統」伏見殿、「靜」息「統」男、
寛運准后「類」寛運准三宮「統」寛運、「靜」准后「統」准三宮、「靜」皇子「統」御子、「靜」刑部卿「青」別部卿、
良恕法親王「統」良恕、「靜」陽光院誠仁親王「統」陽光院、
良尚法親王「統」良尚、「靜」二品「統」無品、「靜」式部卿「統」八條殿、「靜」第二子「統」二男、「靜」尊国女「青」尊国、「靜」寛永「青」□□、「靜」太上天皇為御猶子「統」仙洞國母御猶子、「靜」七十二「青」七十□、
良應法親王「靜嘉堂本」宝永「青山本」寶永、「類」統（未記載）、

5 毘沙門堂御門跡

就毘沙門堂系圖紛失、自諸門系図・座主記其外記録等、中撰出、大概如此、猶可考也、^一入

也、^二

智海法印

伊勢國人惠光坊澄豪大律師資、探題、惣學頭、号岩井法印、

明禅法印

号萩焼法印、碩才道者名人遁也、自此号毘沙門堂、探題證義、又号林泉坊、九條入道參議成頼卿男、

頭瑜権僧都

号毘沙門堂僧都、

經海僧正

横川竹林寺、探題證義、号妙觀院僧正、勸修寺中納言資經卿息、

公豪大僧正

天台座主^{弘安元}、同廿四日開一箱内陣役、靈山門跡^{四二補}、公普法印治山、四年牛車宣旨、弘長二五十五為東二條院御産御祈、被修五壇法、中壇勤仕、于時前大僧正、法性寺座主、入道左大臣実房公男、

〔七才〕

5 毘沙門堂御門跡〔静〕可考入也

〔青〕可考入也〔弘〕可考也

智海法印〔類・弘〕（不記載）、

明禅法印〔類・弘〕明禅法印、〔静〕遁

也〔弘〕遁世、〔静〕自此号〔弘〕自、

〔静〕證義〔弘〕證儀、〔静〕九條入道

參議〔類〕參議正三位藤原、

頭瑜権僧正〔類〕（不記載）、

經海僧正〔静〕證義〔弘〕證儀、〔類〕

（不記載）、

公豪大僧正〔静〕入道左大臣実房公男

〔類〕右大臣藤原実房公男〔弘〕三条

左大臣実房公息、

實 禪 權 僧 正

白川内大臣公親公男、

実 超 大 僧 正

同息、実禅舍弟、

実 尊 大 僧 正

正慶元六九自法印權大僧都、同年――廿四權僧正、
叙法務、連日宣下初例、押小路内大臣公茂公男、

実 圓 大 僧 正

天台座主 應永廿十
十六補、同廿三九廿講堂供養勤仕、又相
国寺塔供養散花勤仕、後押小路内大臣公忠公息、

明 圓 僧 正

後八條内大臣実經公男、

公 承 大 僧 正

文安四三 文安四三
廿九補、同五九廿二拜堂、法性寺座主僧
正、以後探題宣下、恒忠法印灌頂資也、尊應受戒、
太政大臣藤

実冬公男、

実 修 法 印

權中納言藤伊実卿男、相国伊通公孫、

實禪權僧正〔類・弘〕實禪權僧正、〔靜〕
白川内大臣〔類・弘〕内大臣藤原、〔靜・
類〕男〔弘〕息、

実超大僧正〔類・弘〕實超大僧正、〔靜〕
実禅〔弘〕實禪、〔靜・弘〕同息〔類〕
同男、

実尊大僧正〔類・弘〕實尊大僧正、〔靜〕
同年――〔弘〕同男、〔靜〕押小路内
大臣〔類〕内大臣藤原〔弘〕押小路内
大臣藤原、

〔類・弘〕實教法眼〔靜〕実尊〔類・
弘〕實尊、〔靜〕押小路内大臣公茂公
男〔類・弘〕同男、

実圓大僧正〔類〕實圓僧正（明圓僧正
の後）〔弘〕實圓大僧正、〔靜〕相国寺
〔弘〕相国寺、〔靜・弘〕後押小路内大
臣〔類〕内大臣藤原、〔靜・弘〕同息
〔類〕同男、

〔類・弘〕實修法印〔靜〕權中納言〔類・
弘〕權中納言、〔靜〕藤伊実卿男〔類〕
藤原伊實卿男〔弘〕藤原伊實卿息、

〔靜〕相国〔類〕太政大臣〔弘〕大政
大臣、

明圓僧正〔類・弘〕（公承僧正の後）明
圓大僧正、〔靜〕後八條内大臣実經
〔類・弘〕内大臣藤原實繼、〔靜・類〕
男〔弘〕息、

公承大僧正〔類〕公承僧正（實教法眼
の後）〔弘〕公承僧正（實修法印の後）、

忠承大僧正

普門寺關白政忠公息、

〔二七〕

公意權僧正

法性寺座主、
血脉許也、

実救法眼

実尊僧正資、
押小路内大臣公茂公男、

覚真阿闍梨

林泉坊大納言阿闍梨、

観經僧都

行然法印

仙雲法印

盛尊僧正

仙尊僧都

真仙僧正

遍豪法眼

〔静〕大政大臣藤実冬公男〔類〕權大納言藤原實冬卿男〔弘〕大政大臣藤實冬公息、〔静〕廿八寂〔弘〕廿八寂、
実修法印〔類・弘〕〔前掲〕、
忠承大僧正〔静〕普門寺關白政忠公息〔類〕普門寺關白政忠公男〔弘〕九条殿普門寺關白政忠公息、
公意權僧正〔類〕〔不記載〕
実救法眼〔類・弘〕〔実尊大僧正の後〕
〔類〕（以下不記載）
覚真阿闍梨〔弘〕覚真阿闍梨（無記事）、
観經僧都〔弘〕観經僧都（無記事）、
行然法印〔弘〕（無記事）、
仙雲法印〔弘〕（無記事）、
盛尊僧正〔弘〕成尊僧正（無記事）、
仙尊僧都〔弘〕（無記事）、
真仙僧正〔弘〕（不記載）、
遍豪法眼〔弘〕（無記事）、

〔二八才〕

公 嚴 權 僧 正

天 海 大 僧 正

寬永廿十二寂百廿四

公 海 准 后

元祿八十八寂八十九

公 辦 法 親 王

俗名秀憲、元祿三輪王寺宮相統、
後西院第六皇子、

〔一八七〕

6 日 光 御 門 跡

号輪王寺 滋賀院

改守澄

尊 敬 法 親 王

延宝八五十六化四十七

俗名幸教、一品座主、
明曆元十八任、改守澄、号本性院、
後水尾院皇子、母京極局、園大納言基任卿女、

元祿三二廿七

守 全 法 親 王

元祿三三二化廿七才

俗名幸智、法名改天真、一品、解脫院、
後西院第五皇子、母清閑寺共綱卿女、
号東三条、

公嚴權僧正〔弘〕（無記事）、

天海大僧正〔靜〕廿〔弘〕二十、〔靜〕

百廿四〔弘〕百廿四才、

公海准后〔弘〕公海大僧正、〔靜〕左

中将藤忠長卿〔弘〕忠長公、

公辦法親王〔靜〕元祿三輪王寺宮相統

〔弘〕元祿三四日光門主後住也、

〔弘〕童形（下略）、

〔弘〕公尊法親王（下略）、

6日光御門跡〔類〕輪王寺滋賀院日光

山御門跡、〔靜〕滋賀院〔弘〕又滋賀院

〔統〕久遠書院准三宮公海、

尊敬法親王〔統〕東叡山第三世本照院

前天台座主一品尊敬法親王〔弘〕尊敬

親王、〔靜〕改守澄〔統〕後守澄〔弘〕

又改守澄、〔靜〕類・弘〔俗名〕統、諱、

〔靜〕幸教〔類〕幸教親王、〔靜〕座

主明曆元十八任〔統〕明曆元年十月八

日座主 宣下、〔靜〕弘〔後水尾院〕類

院之、〔統〕後水尾院帝、〔靜〕本性院

〔統〕弘 本照院、〔靜〕皇子〔統〕第

三皇子〔弘〕第四皇子、〔靜〕母京極

局、園大納言基任卿女〔類〕母后園殿、

7

公辨法親王
正徳六四十七化四十八才

一品座主元禄六六月九任、始毘沙門堂公海寶、
後西院第六皇子、宝永四六月三日再任座主、

母梅小路定矩卿女六条局、実仏光寺蘭光院女、延宝六十月、
十九親王宣下諱秀範、同年十月廿五得度、貞享四二六二品、

俗名有定、東山院皇子、始円満院相統、

母藤内侍、水無瀬兼豊卿猶子、実冷泉中納言為經卿女、

正徳三癸巳十一月為輪王寺附弟、同四年二月朔日関東下向、改公寛、
享保二二廿九叙一品、同三年六十三座主、同年七月二牛車宣下、

覺尊法親王改公寛

圓満院御門跡系

●智證大師——康濟——增命——京意

敬——運昭——行譽——餘慶

源泉——覺猷

〔一九才〕
〔一九ウ〕

守全法親王〔統〕解脫院一品守全親王
〔弘〕守全親王、〔靜・弘〕俗名幸智〔統〕
御諱幸知、〔靜・弘〕改〔統〕後、〔靜〕
元禄三二廿七一品〔弘〕元禄三二二品
廿七才、〔靜〕廿七〔統〕二十九日、〔靜・
弘〕後西院〔統〕後西院帝、〔靜〕東
三條局〔統〕新大納言局〔弘〕号東三
條、〔靜〕清閑寺〔統〕清閑寺大納言
〔弘〕從一位、〔類〕
公辨法親王〔統〕大明院前天台座主准
三宮一品公辨法親王〔弘〕公辨親王、
〔靜〕座主元禄六六月九任〔統〕元禄六
年六月九日座主 宣下、〔靜・弘〕毘
沙門堂〔統〕山科毘沙門堂、〔靜〕資
〔統〕御法嗣〔弘〕付弟、〔靜・弘〕後
西院〔統〕後西院帝、〔靜〕宝永四六
月三日再任座主〔統〕寶永四年六月三
日座主還補 宣下、〔靜〕梅小路〔統〕
梅小路大納言〔弘〕入道前權大納言、
〔靜・統〕定矩卿女〔弘〕定矩卿養女、
〔靜〕六条局〔統〕號六條局〔弘〕六條
局、〔靜〕秀範〔統〕秀憲、〔靜〕廿五
〔弘〕二十六、〔靜〕貞享四二六二品
〔統〕天和二年八月十六日二品 宣
下、〔靜〕化〔弘〕寂、
覺尊法親王〔統〕崇保院前天台座主准
三宮一品公寛法親王〔弘〕公寛法親
王、〔靜・弘〕俗名〔統〕御諱、〔靜・
弘〕東山院帝、〔靜〕皇子〔統・弘〕第

7 円満院御門跡 付平等院 狛櫻井

智證大師
寛平二四廿九逝七十八

諱円珍、讚州那珂郡金倉郷人、景行天皇苗裔、母佐伯氏、空海姪、弘仁六年生、義真和尚弟子、仁壽三八月入

唐、天安二帰朝、園城寺長吏
貞観元補、治三十年、于時内供、延暦寺座主、貞観十六三任、千光院、貞観六年秋於仁壽殿結

胎藏灌頂壇、皇帝御入壇、左大臣藤良相以下三十四人入壇、延長五十二廿七贈諡智證大師、和氣宅成息、

康濟律師

越前國人、俗姓紀氏、座主
寛平六九十年、治三年、長吏、寛平八、光定入室、

增命僧正
延喜五十二一寂八十五

長吏、昌泰二補、座主、延喜五十八、七十一、治廿三年、座主、任治十六年、延長元僧正、管法務為始、真如院、千光院、諡号静観、宇多法皇御灌頂師、大師御弟子、
從五位下桑内安峯子、
原イ

京意阿闍梨

大師御弟子、長吏、

7 円満院御門跡〔類〕圓満院、智證大師〔静〕諱円珍〔類〕法諱圓珍〔統〕諱圓珍、〔静〕那珂郡人〔類〕那珂郡金倉郷人、〔静〕空海姪〔類〕弘法大師之甥、〔静〕義真和尚弟子〔類〕從義眞受台教、〔弘〕（無記事）、康濟律師〔類〕康濟律師、〔静〕俗姓〔類〕世姓、〔静〕越前國人〔弘〕越前敦賀人、〔静・類〕座主〔統〕山座主〔静・類〕寛平六九十二〔弘〕寛平六九十三、〔静〕長吏〔類〕園城寺長吏、〔統〕寺長吏、〔静・類〕寛平八、〔青〕寛平八、
增命僧正〔統〕增命、〔静・類〕長吏〔統〕寺長吏、〔静・類〕座主〔統〕山座主、〔静〕僧正〔類〕為僧正、〔静〕管法務為始〔類〕管法務、台徒法務命為始、〔静〕千光院〔類〕號千手院〔静〕桑内安峯子〔類〕桑原安峯男、〔静〕八十五〔類〕八十五歳、〔弘〕（無記事）、京意阿闍梨〔統〕京意〔静〕大師御弟子〔弘〕大師弟子〔類〕圓珍入室、〔静〕長吏〔弘〕寺長吏〔類〕内供、

敬一 阿闍梨

大師入室弟子、内供、

〔二才〕

運昭 阿闍梨

長吏内、

行譽 律師

長吏康保四年
九月補、千光院、

餘慶 權僧正

長吏天元二年補
治十二年、座主永祚元九
廿九補、諡号智辨、
越前國早良郷人、

悟円悟イ 円親 王

円満院元祖、又号平等院、号岩倉入道、御受法禪耀阿闍梨、入道親王、俗名兵部卿致平、村上天皇第三皇子、

源泉 大僧正

山座主、天王寺別別〔當〕、法輪院、

覺猷 僧正

寺長吏、山座主、天王寺別當、号鳥羽僧正、
宇治大納言源隆国卿息、

明尊 大僧正

寺長吏、山座主、号円満院、
兵庫頭小野峯時子泰イ、木工頭道風孫、

康平六六廿六寂九十三

敬一 阿闍梨〔統〕敬一、〔静〕大師入室弟子〔類〕圓珍入室、

運昭 阿闍梨〔統〕運昭、〔静〕長吏内

〔類〕園城寺長吏、内供〔弘〕同、

行譽 律師〔統〕行譽〔類・弘〕行譽律師、〔静・類〕長吏〔統〕幸長吏〔行

弘〕寺長吏、〔静・類〕四年九月〔弘

四九〕寺長吏、〔静・類〕千手院

餘慶 權僧正〔統〕餘慶、〔静〕長吏〔統・

弘〕寺長吏、〔静・類〕諡号智辨〔統・

弘〕諡智辨、〔静〕越前國早良郷人〔弘

筑前國早良郷人、

悟 円親王〔統〕悟圓〔類・弘〕悟圓法

親王、〔静〕円満院元祖〔類・統〕圓

満院元祖〔弘〕圓満院最初、〔静・類・

統〕俗名〔弘〕〔なし〕、〔静・統〕兵

部卿致平〔類〕致平〔弘〕兵部卿致平

親王也、

〔類〕永圓大僧正（下略）

源泉 大僧正〔静〕別別〔弘〕別當、〔静〕

天喜三三月寂七十九〔弘〕天喜三寂七

十九才、〔類・統〕（不記載）、

覺猷 僧正〔弘〕覺猷僧正、〔静〕陸国

〔弘〕陸國、〔類・統〕（不記載）

明尊 大僧正〔類〕明尊權僧正、〔静・

弘〕兵庫頭〔類〕武庫令、〔静〕小野

峯時子〔類〕野奉時男、〔弘〕小野奉

時男、〔静・弘〕木工頭〔類〕（なし）、

〔静〕九十三〔類〕九十三歳〔弘〕九十

覺圓大僧正
承徳二四十六寂六十八

寺長吏、山座主、号宇治大僧正、
宇治関白頼通公息、

永実法印

号宇治法印、一身阿闍梨、
京極撰政師実公息、

仁證法印

号東南院、
同息、

永圓大僧正

寺長吏、又号平等院、以門仁讓僧綱初例也、仁和寺僧
正濟信讓也、悟圓親王在俗時御子、

明行親王

又号平等院、号阿闍梨宮、入道親王、俗名敦元、
三條院皇子、実小一條院御子、

行尊大僧正

寺長吏永久四補、山座主保安四十二任、法務、讓持僧、牛車、天王
寺別當、又号平等院、自法眼直任大僧正希代例也、
參議從三位源基平息、

小一條院御孫、

行慶大僧正

寺長吏、天王寺別當、号円満院、又号平等院大僧正、号
狛僧正、法成寺諸門跡一流、白川院皇子、

三二之

三才、「統」(不記載)、
「類」明行入道親王「弘」明行親王(下
略)、

覺圓大僧正「靜」寺長吏「弘」三井長
吏、「靜・弘」宇治大僧正「類」宇治
僧正、「靜・弘」宇治関白頼通公息「類」
宇治攝政関白「靜・弘」息「類」男
「靜」六十八「類」六十八歳「弘」六十
八才、「統」(不記載)、
永実法印「類・弘」覺實法眼、「靜・
弘」京極撰政「類」後宇治攝政、「靜」
師実「類・弘」師實、「靜・弘」息「類」
男、「統」(不記載)、
仁證法印「類・統・弘」(不記載)、
永圓大僧正「類」(悟圓法親王の後)
「統」永圓、「靜・統」悟圓親王在俗時
「類」悟圓在俗之時、「弘」(不記載)、
明行親王「類」明行入道親王(明尊權
僧正の後)「統」明行「弘」(明尊大僧
正の後)、「靜・統」平等院「弘」平等
院御室、「靜・弘」敦元「類」敦元親
王「統」敦光、「靜」実小一條院「統」
實小一條院「弘」小一條院、
行尊大僧正「統」行尊、「靜」山座主
「弘」天台座主、「靜」讓持僧「弘」讓
持僧、「靜」希代例也「弘」希代之例
也、「靜」參議從三位源基平息「類」源
基平息、「靜」御孫「弘」之孫、
行慶大僧正「統」行慶、「靜」号円満

道 惠 法 親 王

無品、寺長吏、天王寺別當、号法輪院、法親王始也、
鳥羽院第六皇子、

圓 惠 法 親 王

於法住寺戰場被斬源義仲

無品、寺長吏、天王寺別當、法印、權大僧都、号八條宮、
後白川院第四皇子、

尊 惠 法 親 王

無品、大僧都、号狛、号最勝院、
二條院皇子、

道 譽 僧 正

号禅林院僧正、一身阿闍梨、
太政大臣藤兼房公息、

道 智 僧 正

号狛禅林寺、又常住院、
光明峯寺攝政道家公息、

定 惠 法 親 王

無品、寺長吏、天王寺別當、号法輪院、又号平等院權僧
正、号鳥羽宮、後白川院第六皇子、

恒 惠 僧 正

法輪院、
同皇子、

覺 仁 法 親 王

寺長吏、三山檢校、櫻井宮、
後鳥羽院皇子、

〔三才〕

院、又号平等院大僧正、号狛僧正〔弘〕
圓滿院・平等院、狛僧正下云〔類〕號
狛僧正、〔靜〕白川院〔類・統・弘〕白
河院、〔靜・統・弘〕皇子〔類〕第
十二皇子、

道憲法親王〔統〕道惠、〔靜〕法親王
始也〔弘〕法親王之始也、

圓憲法親王〔統〕圓惠、〔靜・統〕寺
長吏〔弘〕三井長吏、〔靜・統〕八條
宮〔弘〕八條宮〔類〕八幡宮、〔靜〕後
白川院〔統〕後白河〔弘〕後白河院、

〔靜・統・弘〕第四皇子〔類〕第五皇
子、〔靜〕於法住寺〔弘〕法住寺、〔靜〕
戰場〔弘〕合戰、〔靜〕被斬源義仲〔弘〕

為義仲與明雲僧正一所二逢誅、
尊憲法親王〔靜〕二條院〔弘〕二條院、

〔類・統〕〔不記載〕、
道譽僧正〔靜〕禅林院〔弘〕禅林院、

〔靜〕藤兼房〔弘〕兼房、〔類・統〕〔不
記載〕、
道智僧正〔類・統〕〔不記載〕、

定憲法親王〔統〕定惠、〔靜・統〕寺
長吏〔弘〕三井長吏、〔靜〕後白川院
〔統〕後白河〔弘〕後白河院〔類〕同
帝、〔靜・類・統〕第六皇子〔弘〕皇
子、

恒惠僧正〔類・統・弘〕〔不記載〕、
覺仁法親王〔類・統・弘〕〔不記載〕、
法圓僧正〔類〕法圓權僧正〔統〕法圓、

法圓僧正

寺長吏、号櫻井、号嵯峨僧正、高倉宮以仁王御子、

円淨静イ大僧正

寺長吏、号円滿院大僧正、普賢寺関白基通公息、

仁助法親王

無品、寺長吏、天王寺別當、長講堂檢校、号円滿院、土御門院皇子、

圓助法親王

二品、寺長吏、天王寺別當、号金龍寺、後嵯峨院皇子、

性覺法親王

無品、寺長吏、龜山院皇子、

真覺僧正

号宮僧正、又号早田イ、中務卿宗尊親王御子、

行覺法親王

無品、寺長吏、号後深草宮、後深草院第五皇子、母從二位房子、公親公女、

恒助法親王

無品、号後金龍寺宮、同第六皇子、母別當典侍、茂通卿女、

〔三之〕

〔静・弘〕号嵯峨〔類〕號嵯峨、

円淨大僧正〔類〕圓淨大僧正〔統〕圓淨〔弘〕圓靜大僧正、〔静〕静イ〔青

〔なし〕、〔静〕円滿院〔弘〕圓滿院、〔静

弘〕普賢寺関白〔統〕普賢寺関白〔類〕普賢寺攝政關白、〔静・統・弘〕息〔類

男、

仁助法親王〔統〕仁助、〔静・統〕皇子

〔類〕第五皇子〔弘〕第七皇子、〔静

円滿院〔弘〕圓滿院、

圓助法親王〔統〕圓助、〔静〕号〔類

號、〔静・統〕皇子〔類・弘〕第七皇子、

〔類・弘〕淨助法親王〔下略〕、

性覺法親王〔静〕皇子〔弘〕第十三皇

子、〔類・統〕（不記載）、

真覺僧正〔類・弘〕眞覺權僧正〔統

眞覺、〔静〕号早田イ〔青〕号□田〔類

號早田宮〔弘〕号早田、〔静・弘〕中務

卿宗尊親王〔類〕宗尊親王、〔静・統

御子〔類〕第三男〔弘〕息、

行覺法親王〔統〕行覺、〔静〕公親〔弘

三条入道前内大臣公親、

常助法親王〔統〕恒助〔弘〕恒助法親

王、〔静〕後金龍寺宮〔弘〕金龍寺宮

〔静〕同第六皇子〔統〕後深草第六皇

子〔弘〕後深草院第七皇子、〔静〕茂通

〔弘〕義通、

尊實法親王〔類・統〕（不記載）、

尊悟法親王〔統〕尊悟、〔静〕ニヶ度

尊齊法親王
号常喜院、元永尊、
後二條院皇子、

尊悟悟イ法親王
寺長吏二ヶ度、無品、俗名吉水、入道親王、天王寺別當、
又号後平等院、三山檢校、伏見院皇子、

長助法親王
無品、寺長吏三ヶ度、
後伏見院皇子、母東御方、実明女、

尊兼僧正
龍花院、從長助親王受唯一人大事、
花山院左大臣家定公息、

定尊大僧正
寺長吏、法務、号顕輪院、
花山院内大臣長定公息、

行助法親王
二品、寺長吏、俗名熙平、金龍院、早世、
後光嚴院皇子、

行悟僧正
後円満院宮、
南朝後龜山院皇子、

円悟
号円満院、
南朝五常院宮御子、

〔三才〕

〔類〕三箇度〔統〕三个度、〔静〕吉水
〔統・弘〕吉永、〔静・統〕入道親王〔類〕
入道、〔静〕又号後平等院〔類・統〕又
號平等院、〔静・統〕皇子〔弘〕第五
皇子、

長助法親王〔統〕長助、〔静〕三ヶ度
〔類〕三箇度〔統〕三个度、〔静〕皇子
〔類・弘〕第六皇子、〔静〕実明〔類〕
實明〔弘〕大納言實明、

尊兼僧正〔類〕尊兼權僧正〔統〕尊兼
〔弘〕尊兼權僧正、〔静〕從長助親王受
唯一人大事〔類〕長助親王唯一人、
〔静・統・弘〕息〔類〕男、

定尊大僧正〔統〕定尊、〔静・弘〕号
顕輪院〔類〕號顯輪院、〔静・統・弘〕
息〔類〕男、

〔弘〕行悟法親王（下略）、
行助法親王〔統〕行助〔弘〕（行悟法
親王の後）、〔静〕皇子〔弘〕第三皇子、
行悟僧正〔統〕行悟〔弘〕行悟法親王
〔定尊大僧正の後）、〔静〕後円満院宮

〔類〕號後圓満院宮、〔静・弘〕南朝後
龜山院〔類〕龜山院〔統〕後龜山院、
〔静・統・弘〕皇子〔類〕第十三皇子、
円悟〔統〕圓悟〔弘〕圓悟僧正、〔静・

統・弘〕御子〔類〕（なし）、
圓胤大僧正〔統〕圓胤、〔静〕從一身
阿闍梨〔類〕從一身阿闍梨直任〔弘〕一
身阿闍梨（なし）、〔静〕円満院〔弘〕

圓胤大僧正

從一身阿闍梨、号円滿院大僧正、

光師御兄弟、

〔先〕

尊雅大僧正

從一身阿闍梨、直任正大僧都、円滿院大僧正、
後照光院闕白房平公息、

教助大僧正

狛・櫻井三門跡管領之、号花山院大僧正、号後実藏院、
普廣院贈大相国義教公猶子、

仁悟法親王

寺長吏、又号初平等院、三山檢校、号後円滿院、從聖護
院道與准后受法、後土御門院第六皇子、

養慶大僧正

寺長吏、又号初平等院、号後円滿院、
慈眼院闕白政基公息、

常尊大僧正

寺長吏、法務、号寂住院、護持僧、
靈陽院准后義昭御孫、大乘院選俗久山之子、

寛文十一七二減六十八

永悟法親王

延宝四十二一減十八歳

無品入道親王、俗名實平、寛文九九廿九親王宣下、
才、同十月十三御得度、御戒師當尊大僧正、号法性院、
後西院第三皇子、母権典侍局、
岩倉大納言具起卿女、

〔三三〕

圓滿院、〔靜〕光師〔統〕先師、

尊雅大僧正〔統〕尊雅、〔靜・弘〕正大
僧都〔類〕〔な〕、〔靜〕後照光院闕白

〔類〕鷹司關白左大臣〔統〕鷹司關白
〔弘〕鷹司照光院太政大臣、〔靜・統・

弘〕息〔類〕男、
教助大僧正〔統〕教助、〔靜・統・弘〕
三門跡〔類〕門跡、

〔靜〕普廣院贈大相国〔類〕普廣院〔統〕
普廣院殿〔弘〕普光院左大臣、〔靜・類・

弘〕猶子〔統〕御猶子、
仁悟法親王〔統〕仁悟、〔靜〕又号初平
等院〔類〕又號平等院〔統〕號平等院、

〔靜〕從聖護院道與准后受法〔弘〕道與
受法、〔靜・類〕後土御門院〔統〕後土
御門〔弘〕後伏見院、〔靜〕第六皇子〔類・

統〕第三皇子〔弘〕第五皇子、
〔類・弘〕道悟權僧正 九條殿慈眼院闕
白政基公息〔類〕慈眼院闕白政基公男

〔弘〕同男、
常尊大僧正〔統〕常尊、〔靜〕靈陽院准
后義昭御孫〔類〕靈昌山本一乘院門主

覺慶選俗義昭公孫〔弘〕源義昭之孫、
〔靜〕減六十八〔弘〕寂六十八才

永悟法親王〔靜〕十月〔弘〕十、〔靜〕
御得度〔弘〕出家、〔靜〕當尊大僧正〔弘〕
常尊大僧正、〔靜〕第三皇子〔弘〕第一

行 惠 法 親 王
俗名昌隆、元祿四五廿四聖護院門室相統、同六五入寺、改道尊、後西院第八皇子、母高辻豊長卿女、

寶永二十朔滅
覺 尊 法 親 王
寶永五人世親王宣下、有定、同年十一月廿五得度、東山院皇子、母下冷泉為經卿女、正德三十二日改為輪王寺附弟、同四年二月朔關東下向、

〔世〕
〔二四才〕
〔二四才〕

8 聖 護 院 御 門 跡

智 證 大 師

增 命 僧 正

勢 祐 律 師

智 靜 大 僧 正
寬弘五七八寂六十四

最 圓

寺長吏、千光院、解脱寺本願、諱勸修、号長者、姓紀氏、

寺長吏、千光院、

千光院、号西院、

大二條關白教通公息、

皇子、〔靜〕權典侍局〔弘〕權典侍、〔靜〕大納言〔弘〕中納言、〔統〕（以下未記載）、

行惠法親王〔靜〕聖護院門室相統〔弘〕依台命為聖門主、〔靜〕同六五〔弘〕六五、〔靜〕後西院第八皇子〔弘〕同第九皇子、〔靜〕母高辻〔弘〕母按察使局、高辻大納言、〔類〕（以下未記載）、

覺尊法親王〔弘〕學尊法親王、〔靜〕五八世〔弘〕五八世、〔靜〕親王宣下〔弘〕為親王、〔靜〕同年十一月廿五〔弘〕同

十二十八、〔靜〕皇子〔弘〕第三皇子、〔靜〕母下冷泉〔弘〕藤内侍局、後号春日、權大納言、

〔弘〕覺淨親王（下略）

8 聖護院御門跡〔類〕聖護院殿

智證大師〔類・弘〕（有記事）、

增命僧正〔類・弘〕（有記事）、

勢祐律師〔靜〕寺長吏〔類〕三井長吏、

智靜大僧正〔靜〕寺長吏〔類〕三井長吏〔弘〕長吏、〔靜〕諱勸修、〔類〕初

法諱勸修〔弘〕觀修、〔靜〕六十四〔類〕六十四歳〔弘〕六十四才、

最圓〔類・弘〕最圓權少僧都〔靜・弘〕

号西院〔類〕號西院、〔靜〕大二條關白教通〔類〕三條關白廉義〔弘〕三條

關白大政大臣廉義、〔靜・弘〕息〔類〕

男、

静 覚 権大僧都

法印、千光院、号長谷、一身阿闍梨、
同息、

増 誉 大僧 正

寺長吏惣十三ヶ度、山座主、法務、別當、千光院、号一乗
寺、天王寺別當、三代護持僧、三山檢校、本願僧正、白川
院、始熊野御參詣之時先達賞始被補三山檢校職、長
治二閏二十四任天台座主、聖護院元祖、 大納言

〔二五才〕

藤經輔
卿息、

増 智 僧 正

千光院、法務、
京極関白師実公息、

覚 恵 僧 正

〔承元十六寂六十
治承〕

寺長吏、山座主^{應保一}、_{二一任}、号聖護院、号千光院僧正、
法性寺関白忠通公息、

静 恵 法 親 王

無品、寺長吏、青龍院、千光院、号聖護院、
後白川院皇子、

圓 忠 大僧 正

寺長吏、唐房、青龍院、千光院、号聖護院、
普賢寺関白基通公息、

静 忠 大僧 正

寺長吏、千光院、青龍院、唐房、三山檢校、白川殿始熊野
御參詣之時御先達賞始被補此職、三代護持僧、同
息、

静覚権大僧都〔類・弘〕静覚法印、〔静・弘〕号長谷〔類〕號長谷〔静〕同〔類〕大二條關白教通〔弘〕二条関白教通、〔静・弘〕息〔類〕男、

増誉大僧正〔類・弘〕増誉大僧正、〔静〕寺長吏〔類・弘〕三井長吏、〔静〕惣〔類〕惣〔弘〕總、〔静〕山座主〔類・弘〕天台座主、〔静〕号一乗寺〔類〕號一乗寺〔弘〕号一乗寺、〔静〕先達賞

〔類〕先達之賞、〔静〕三山檢校職〔類〕此職〔弘〕三山檢校、〔静〕二閏二十四〔弘〕三十四、〔静〕元祖〔弘〕最初、〔静〕藤經輔〔類〕藤經輔〔弘〕經輔、〔静・弘〕息〔類〕男、

増智僧正〔弘〕増智僧正、〔静〕関白師実〔類〕攝政関白師実〔弘〕関白師実、

覚恵僧正〔類・弘〕覚恵僧正、〔静〕寺長吏〔類・弘〕三井長吏、〔静〕山座主〔類〕天台座主〔弘〕座主、〔静〕一一一〔弘〕三二二、〔静〕法性寺関白

〔類〕法性寺関白〔弘〕法性寺殿撰政関白、〔静・弘〕息〔類〕男、〔静〕六十七才、

静恵法親王〔静〕寺長吏〔弘〕三井長吏、〔静・弘〕青龍院〔類〕音龍院、〔静・類〕後白川院〔弘〕後白河院

圓忠大僧正〔静〕寺長吏〔弘〕長吏、〔静〕普賢寺関白〔類〕普賢寺攝政〔弘〕

尊圓法親王

無品、權大僧都、
後鳥羽院皇子、

深忠權僧正

光明峯寺撰政道家公息、

覺惠法親王

眞如院、
順徳院皇子、

〔二五ウ〕

覺助法親王

二品、寺長吏二ヶ度、三山檢校、天正寺別當、千光院、自
仙穎受法、後嵯峨院皇子、

忠助法親王

無品、寺長吏、
同皇子、

順助法親王

無品、寺長吏、僧正、
龜山院皇子、

尊珍法親王

寺長吏、准三后、
同皇子、

惠助法親王

寺長吏、
伏見院皇子、

普賢寺、〔靜・弘〕息〔類〕男、

靜忠大僧正〔靜〕寺長吏〔弘〕長吏、

〔靜〕白川殿〔弘〕白河院、〔靜〕始被

補〔弘〕被補、〔靜〕同息〔類〕同男

尊圓法親王〔靜・類〕皇子〔弘〕第十

皇子、

深忠權僧正〔靜・類〕光明峯寺〔弘〕

九条殿光明峯寺、〔靜・弘〕撰政〔類〕

攝政、〔靜・弘〕息〔類〕男、

覺惠法親王〔類〕覺惠法親王、〔靜〕眞

如院〔類〕號眞如院、〔靜・類〕皇子

〔弘〕第三皇子、

覺助法親王〔靜〕二品〔類〕一品、〔靜〕

寺長吏〔弘〕長吏、〔靜〕天正寺〔弘〕

天王寺、

忠助法親王〔靜・弘〕同皇子〔類〕同

帝皇子、

順助法親王〔類・弘〕〔有記事〕

尊珍法親王〔靜〕同皇子〔類・弘〕同

帝皇子、

惠助法親王〔靜・類〕皇子〔弘〕第四

皇子、

覺 嘗 法 親 王

二品、寺長吏三ヶ度、天王寺別當、花園院皇子、

聖 助 法 親 王

早世、後醍醐院皇子、

靜 尊 法 親 王

改忠尊、同皇子、

覺 增 法 親 王

寺長吏、後光嚴院皇子、

道 意 准 后

寺長吏、大僧正、三山檢校、元道基、後普光園院撰政良基公息、

滿 意 准 后

寺長吏、大僧正、三山檢校、号如意寺、同息、

道 興 准 后

寺長吏、大僧正、三山檢校、法務、後知足院関白房嗣公息、

道 應 法 親 王

寺長吏、三山檢校、後大通院貞常親王御子、後土御門院御猶子、

〔二六才〕

覺嘗法親王〔青・類〕覺嘗法親王、〔靜〕寺長吏〔弘〕長吏、〔靜・類〕花園院皇子〔弘〕萩原法皇之子、

〔類・弘〕仁覺法親王

聖助法親王〔靜〕早世〔類〕遜世、

靜尊法親王〔靜〕同皇子〔類・弘〕同帝皇子、

覺增法親王〔類〕覺增法親王、〔靜〕寺長吏〔弘〕長吏、

道意准后〔類〕道意大僧正、〔靜〕准后〔類・弘〕准三后、〔靜〕寺長吏〔弘〕長吏、〔靜・弘〕撰政〔類〕攝政、〔靜・弘〕息〔類〕男、

滿意准后〔類〕滿意大僧正、〔靜〕准后〔類・弘〕准三后、〔靜〕寺長吏〔弘〕長吏、〔靜〕息〔類〕男、

道興准后〔類〕道興大僧正、〔靜〕寺長吏〔弘〕長吏、〔靜・弘〕関白〔類〕関白、〔靜・弘〕息〔類〕男、

道應法親王〔靜〕寺長吏〔弘〕長吏、〔靜・弘〕後大通院貞常親王〔類〕貞常親王、〔靜〕御子〔類・弘〕息、

道増准后〔類〕道増大僧正、〔靜〕准后〔類・弘〕准三后、〔靜・類〕後法成寺〔弘〕後法性寺、〔靜・弘〕関白〔類〕関白、〔靜・弘〕息〔類〕男、

道澄准后〔類〕道澄僧正〔弘〕道澄大僧正、〔靜〕准后〔類〕准三后、〔靜〕寺長吏〔弘〕長吏、〔弘〕長吏、〔靜〕又照高院元

道 增 准 后

法務、大僧正、
後法成寺関白尚通公息、

道 澄 准 后

寺長吏、三山檢校、又照高院元祖、
惠雲院関白植家公息、
〔慧〕〔植〕

興 意 法 親 王
元和六十月歿

二品、寺長吏、三山檢校、又照高院、
陽光院御子、初名道勝、母准后新照洞院晴秀公女、

道 晃 法 親 王
延宝七六十八滅六十八

二品、寺長吏、三山檢校、又照高院、号遍照寺、
後陽成院皇子、

道 寬 法 親 王
延宝四三八滅三十

二品、寺長吏、三山檢校、俗名嘉選、号淨願寺、
後水尾院皇子、母御匣局四條、

〔二六ウ〕

道 祐 法 親 王
元禄三十二十八死廿一才

延宝八十一十二親王宣下、同廿七得度十、
・俗名宗範。二品、寺長吏、三山檢校、号淨心寺、
後西院第七皇子、母梅小路定矩卿女、

道 尊 法 親 王
宝永二十朔薨三十一才
イ二二月廿八日

俗名昌隆、二品、寺長吏、三山檢校、初円滿院門跡行惠
永悟資、元禄四五廿四當門相統、同六五入寺、
元禄十六隱居照高院、宝永二十月朔薨、号淨光寺、
後西院第八皇子、母高辻豊長卿女、
改道尊
又改道助

祖〔類〕又照高院〔弘〕号照高院最初
〔靜〕惠雲院関白〔類〕慧雲院関白
〔靜〕植家〔類・弘〕植家、〔靜・弘〕
息〔類〕男、

〔弘〕忠尊法親王（下略）、
〔類〕義觀僧正 宜在滿意之次、誤在此
（下略）、

興意法親王〔靜・類〕御子〔弘〕皇子、
〔靜〕初名〔類・弘〕本、〔靜〕母准后
新照洞院晴秀公女〔類〕母新上東門
院、内大臣藤晴秀公女、

道晃法親王〔類・弘〕（有記事）

道寬法親王〔靜〕後水尾院皇子〔類〕
後水尾上皇御子〔弘〕後水尾院第十一
皇子、〔靜〕母御匣局四條〔類〕母御
匣局、隆忠朝臣女〔弘〕寛文新院同母、

道祐法親王〔靜〕十一〔弘〕十一才、〔靜〕
淨心寺〔弘〕淨心院、〔靜〕後西院〔弘〕
後西院良仁、

〔類〕（以下未記載）

道尊法親王〔靜〕初円滿院門跡行惠永
悟資〔弘〕本圓滿院行惠親王、〔靜〕
同〔元禄四〕六五〔弘〕元禄四六、〔靜〕
宝永二十月朔薨 宝永二十朔薨三十一才
〔弘〕宝永二九廿八寂卅一才、〔靜〕淨
光寺〔弘〕常光寺、〔靜〕後西院〔弘〕
同帝、〔靜〕第八皇子〔弘〕第九皇子、
〔靜〕高辻〔弘〕按察使局、大納言、
道承法親王〔靜〕伏見〔弘〕伏見院、

道承法親王
正徳四七八薨十九才

伏見邦永親王御子、東山院御養子、元禄十六二廿一
親王宣下、諱貞良、同四廿九入室得度、宝永六六十八二品、
正徳三七廿五入峯、三山檢校、

二七才
二七ウ
二七ウ

9 実相院御門跡

智證大師

康濟律師

增命僧正

京意阿闍梨

敬一阿闍梨

運昭阿闍梨

行譽律師

〔静〕御子〔弘〕息、〔静〕御養子〔弘〕
御猶子、〔静〕入室〔弘〕入寺、〔静〕
二品〔弘〕叙二品、

〔弘〕忠譽准三后（下略）、

〔弘〕増賞法親王（下略）、

〔弘〕盈仁准三后（下略）、

〔弘〕萬壽宮（下略）、

〔弘〕雄仁法親王（下略）、

9 実相院御門跡〔弘〕實相院御門

跡、
智證大師〔類〕（有記事）、〔弘〕（無記
事）、

康濟律師〔類〕康濟律師、〔類〕（有記
事）、〔弘〕（無記事）、

増命僧正〔類〕（有記事）、〔弘〕（無記
事）、

京意阿闍梨〔類〕（有記事）、〔弘〕（無
記事）、

敬一阿闍梨〔類〕（有記事）、〔弘〕（無
記事）、

運昭阿闍梨〔類〕（有記事）、〔弘〕（無
記事）、

行譽律師〔類〕行譽律師、〔類〕（有記
事）、〔弘〕（無記事）、

餘慶權僧正〔類〕餘慶權僧正、〔静〕長
史〔類〕園城寺長史、〔静〕天元二年

補〔類〕天元二補、〔静〕座主〔類〕延
暦寺座主、〔静〕九廿廿〔類〕九廿二

餘慶權僧正

長吏 天元二年補 座主 永祿元年治十二年 廿廿任 諡号智辨、筑前国早

良郡人、北岩倉山大雲寺内立精舍、号觀音院、堂六

字、講堂六天、五大堂、灌頂堂 日、法花堂 賢、阿弥陀堂、真

二二八才

言堂 兩 皇后宮昌子 朱雀院御女 冷泉院后、御本願也、天元三年

以觀音院為円融院御願被阿闍梨四口、同院内蓮臺

房為同御願被置阿闍梨四口、於大雲寺始行灌頂、從
天元年中至文明
十三年每度有之、

勸修大僧正

寬弘五七八寂六十四

寺長吏再任 長德二年補、治一年、同四十二年廿九再任、寬弘二年閏白左大

臣 道長 建立淨妙寺 号木。以勸修大僧正為彼寺檢校

職、代々永附彼門徒、諡号智靜、姓紀氏、父母
禱佛神求子、母夢星光入懷、覺而孕云々、

心譽權僧正

寺長吏 長元二年補 治一年 穆笮弟子、寬仁元十廿九園城寺碩
学立義始之、同三十一廿一依心譽 于時 奏狀、園城寺

〔靜〕諡号智辨〔類〕諡智辨、〔靜〕筑前国〔類〕筑州、〔靜〕立精舍〔類〕建立精舍、〔靜〕号觀音院〔類〕號觀音院、〔靜〕堂六字〔類〕（なし）、〔靜〕朱雀院御女、冷泉院后〔類〕（なし）、〔靜〕為円融院御願〔類〕為圓融院御願所、〔靜〕從天元年中〔類〕自天元年中、〔靜〕每度有之〔類〕每歲行之云々〔弘〕（無記事）、〔弘〕是迄圓滿院門跡系譜同斷、
勸修大僧正〔類〕勸修大僧正、〔靜〕長吏〔類〕園城寺長吏〔弘〕三井長吏、〔靜〕長德二年補〔類〕長德二補〔弘〕長德二、〔靜〕寬弘二年〔類〕寬弘一、〔靜〕閏白左大臣道長公〔類〕關白左大臣〔弘〕關白左大臣道長公、〔靜〕淨妙寺号木幡〔類〕淨妙寺〔弘〕淨明寺、〔靜〕大儀正了〔弘〕大僧正、〔靜〕以勸修大僧正〔類〕弘、以勸修、〔靜〕為彼寺檢校職〔類〕為彼寺檢校職〔弘〕為彼寺檢校〔靜〕永附彼門徒〔類〕永附門徒〔青、弘〕永附彼門徒、〔靜〕諡号智靜〔類〕諡智靜〔弘〕諡智靜、〔靜〕弘云々〔類〕（なし）、
心譽權僧正〔類〕心譽權僧正、〔靜〕寺長吏〔類〕園城寺長吏、〔靜〕長元二年〔類〕長元二〔弘〕長元三、〔靜〕穆笮弟子〔類〕穆笮之資〔靜〕弘、立義〔類〕堅義〔靜〕心譽于時僧都奏狀

行 円 法 橋

唐院被置阿闍梨五日、寛仁・治安之間、建立法城寺〔成イ〕寺務執行永被附智證門徒、即最初執務也、其後八代相傳、左馬頭藤重輔男、右大臣顯忠公孫、

智靜入室弟子、長久四十二廿八叙法橋、永承比修如意輪法、壇上生身如意輪現身放光、山王三山イニ三聖以行円為大阿闍梨入壇灌頂、号唐坊法橋、俗名國輔、正四位下但馬守源國舉息光孝天皇五代孫、

二二八乙

頼 豪 阿 闍 梨

碩才德行名僧、白川院皇子敦文親王依頼豪祈、永保元十二廿六御産平安、依頼豪咒詛、承曆元八六四歲而薨、含怨念成鼠人是也、伊賀守藤有家男、從五位下光輔孫、

行 勝 大 僧 都

宮大僧都、号唐坊、良意僧正資、式部卿敦貞親王息、小一條院孫、

勝 雲 阿 闍 梨

号宝治房、勾當藤惟職男、尾張守時房孫、

〔類〕心譽于時僧都奏狀〔弘〕心譽奏狀、〔靜・弘〕法城寺〔類〕法成寺、〔靜〕務執行〔類〕執務印〔弘〕寺務執行、〔靜〕藤重輔男〔類〕藤原重輔男〔弘〕藤原重輔息、〔靜〕顯忠〔類〕顯忠〔弘〕顯正、

行円法橋〔類〕行円法橋、〔靜・弘〕智靜入室弟子〔類〕大僧正智靜入室、〔靜・類〕永承比〔弘〕永承頃、〔靜・弘〕現身〔類〕出現、〔靜〕行円〔類・弘〕行圓、〔靜・弘〕為大阿闍梨〔類〕為大阿闍梨、〔靜・弘〕國舉息〔類〕國舉之子、〔靜〕五代孫〔類〕五世孫〔弘〕五代孫、

頼豪阿闍梨〔靜〕碩才〔類・弘〕碩學、〔靜・類〕德行〔青〕源行、〔弘〕修行、〔靜・類〕白川院〔弘〕白河院、〔靜・弘〕依頼豪祈〔類〕依頼豪祈禱〔靜〕永保元〔類〕承保〔弘〕承德、〔靜・類〕御産平安〔弘〕御平安、〔靜〕含怨念成鼠人〔類〕含怨、：為鼠人〔弘〕含怨成鼠人〔靜〕藤有家〔類・弘〕藤原有家、〔靜・類〕男〔弘〕息、行勝大僧都〔靜・弘〕式部卿〔類〕（なし）、

勝雲阿闍梨〔類〕勝運阿闍梨、〔靜・弘〕宝治房〔類〕寶治房、〔靜〕藤惟職〔類・弘〕惟職、〔靜〕時房〔類・弘〕藤原時房、

公 頭 大 僧 正

寺長吏壽永元正八補、治一年、再任治四年、三四補、文治六、法務、牛車、護持僧、南瀧院元祖、後白川院於天王寺御灌頂師、被建法性寺、限三井一門被置供僧、安藝守從五位上顯康王息、

覺 朝 大 僧 正

寺長吏安貞元補、仲經息、神祇伯遠江守親房孫、

靜 基 僧 正

一身阿闍梨、実相院元祖、依大師至當僧正十六代灌頂相承次第如此、号鷹司、権大納言藤兼基卿息、普賢寺撰関基〔二九才〕、通公孫、

増 忠 大 僧 正

法勝寺長吏弘安八十二七補、從靜忠灌頂、猪熊関白家実公息、

靜 譽 大 僧 正

寺長吏正應五九八補、從仙朔灌頂、号北白川僧正、称念院関白兼平公息、

公頭大僧正〔靜・弘〕寺長吏〔類〕園城寺長吏、〔靜〕山座主〔類〕延暦寺座主〔弘〕天台座主、〔靜〕文治六三四補〔類・弘〕文治六三四任〔靜〕御灌頂師〔類〕灌頂之師、〔靜〕法性寺〔類〕法住寺〔靜〕三井一門〔類〕園城一門、〔靜・弘〕安藝守從五位上〔類〕〔なし〕、

覺朝大僧正〔青・類〕覺朝大僧正、〔靜・弘〕寺長吏〔類〕園城寺長吏〔靜〕安貞元補〔類〕安貞元年任〔弘〕安貞元任、〔靜・弘〕息〔類〕男、

靜基僧正〔青〕靜憲僧正〔類〕靜基權僧正〔靜〕実相院〔類・弘〕實相院〔靜・類〕元祖〔弘〕最初、〔靜〕依大師〔類〕自圓珍〔弘〕從大師、〔靜〕号鷹司〔類〕鷹司殿〔弘〕鷹司、〔靜〕権大納言〔類・弘〕大納言、〔靜〕藤兼基〔類〕藤原兼基〔弘〕公基、〔靜・弘〕息〔類〕男、

増忠大僧正〔靜〕法勝寺長吏〔類〕園城寺長吏〔弘〕寺長吏、〔靜〕弘安八十二七補〔類〕弘安八年十二月七日補〔弘〕弘安八十二七任、〔靜〕從靜忠灌頂〔類〕靜忠僧正實〔弘〕靜忠灌頂、

〔靜〕猪熊関白家実〔類〕近衛殿猪熊攝政家實〔弘〕猪熊関白家實、〔靜・弘〕息〔類〕男、

靜譽大僧正〔類〕靜譽大僧正、〔靜・

增基大僧正
文和元七廿〔享〕寂七十一才

寺長吏〔享〕元享四正
廿八補、從覺助親王灌頂、号後実相院、花園
院・後醍醐院・光嚴院・光明院・崇光院五代之護持僧、
円光院闍白
基忠公息、

增覺大僧正
寺長吏元徳二補、從覺助親王灌頂、号大雲寺、
正三位參議兼教卿息、深心院撰闍基平公孫、

增仁大僧正
寺長吏三ヶ度康永四補、貞和四年任、從增忠僧基イ正灌頂、号実照〔宝力〕

院、光明院・後光嚴院二代護持僧、權大納言冬經
卿息、円光院闍
白基忠公為子、

静深僧正
寺長吏貞和三元廿三補、治二年、從增基灌頂、覺照僧正資、
後浄妙寺左大臣經平公息、

良瑜准后
寺長吏三ヶ度貞治三六補、應安三十二廿七再任、明徳元廿六補、三ヶ度、大僧

正、准三后、一座宣、本名静助、從增任灌頂、光明照院

〔二九ウ〕

弘〕寺長吏〔類〕園城寺長吏、〔静〕正應五九八補〔類〕正應五九八任〔弘〕正曆五九八任、〔静〕從仙朝灌頂〔類〕從仙朝僧正灌頂〔弘〕仙朝灌頂、〔静〕称念院闍白〔類〕鷹司殿稱念院攝政〔弘〕稱念院闍白、〔静・弘〕息〔類〕男、
增基大僧正〔静・弘〕寺長吏〔類〕園城寺長吏、〔静〕從覺助親王灌頂〔類〕覺助法親王受法〔弘〕覺助親王灌頂、〔静〕号後実相院〔類〕號後實相院〔弘〕号後實相院、〔静〕花園院・後醍醐院・光嚴院・光明院・崇光院五代之〔類〕花園・後醍醐・光嚴・光明・崇光五代之、〔静〕円光院闍白〔類〕鷹司殿園光院闍白、〔静・弘〕息〔類〕男、〔類・弘〕增静大僧都〔有記事〕、〔類・弘〕桓豪大僧正〔有記事〕、
增覺大僧正〔類〕增覺大僧正、〔静・弘〕寺長吏〔類〕園城寺長吏、〔静〕元徳二補〔類〕元徳二年任、〔静〕從覺助親王灌頂〔類〕覺助法親王受法〔弘〕覺助法親王灌頂、〔静・弘〕号大雲寺〔類〕號大雲寺、〔静〕正三位參議兼教卿〔類〕近衛殿准大臣兼教公〔弘〕正三位三木兼教卿、〔静・弘〕息〔類〕男、
增仁大僧正〔静・弘〕寺長吏〔類〕園城寺長吏、〔静〕康永四補〔類〕康永

撰閑兼
基公息、

增珍大僧正

寺長吏二ヶ度 至徳元二十廿一補
應永十五元月再任 本名道淳、從良瑜
灌頂、今小路大納言良冬卿息、後普光園院撰閑良

基公
猶子、

增詮准后

寺長吏三ヶ度 応永廿十二廿七補 治二年、同廿七十、
同卅五四五為授与補之、第三ヶ度、
一身阿闍梨、大僧正、准三后、一座宣、政義運、從增珍灌

頂、養徳院大納言滿詮卿
息、鹿苑院相國義滿公為子、

義命僧正

寺長吏、文安比背師命退出畢、
俗姓求勤、

增運大僧正

寺長吏 享徳四閏
四月辭退、 一身阿闍梨、准三后、法務、從義運灌
頂、後花園御戒師、後知足院関白房嗣公息、

増静権大僧都

法印、早世
円光院関白基忠公息、

〔三〇七〕

四年補、〔静〕從増忠僧正灌頂〔類〕増
基僧正受法〔弘〕増基灌頂、〔静〕号
実照院〔類〕號實昭院〔弘〕号宝昭院、
〔静〕光明院・後光厳院二代〔類〕光
明、後光厳、〔静〕権大納言冬経卿〔類〕
権大納言藤原冬経〔弘〕大納言冬経
卿、〔静〕弘息〔類〕男、〔静〕円光
院関白〔類〕圓光院関白〔弘〕禪閣、
静深僧正〔類〕静深權僧正、〔静・弘〕
寺長吏〔類〕園城寺長吏、〔静〕貞和
二元廿三補〔類〕貞和二元廿三任、
〔静〕從増基僧正灌頂〔類〕増基僧正
受法〔弘〕増基灌頂、〔静〕後淨妙寺
左大臣経平〔類・弘〕後淨妙寺左大臣
経平、〔静・弘〕息〔類〕男、
良瑜准后〔類〕良瑜大僧正〔弘〕良瑜
准三后、〔静・弘〕寺長吏〔類〕園城
寺長吏、〔静〕貞治三六補〔類〕貞治
三三六任、〔静〕三ヶ度〔類〕第三箇度、
〔静〕從増任灌頂〔類〕増任僧正受法
〔弘〕増任灌頂、〔静〕光明照院撰閑
〔類〕二條殿光明照院攝政〔弘〕光明
照院関白、〔静・類〕兼基〔弘〕兼、〔静・
弘〕息〔類〕男、
増珍大僧正〔静・弘〕寺長吏〔類〕園
城寺長吏〔静〕廿一補〔類〕廿一任、
〔静〕應永十五元月〔類〕應永十五九、
〔静〕從良瑜灌頂〔類〕良瑜僧正受法
〔弘〕良瑜灌頂、〔静・弘〕今小路大納

桓 豪 大 僧 正

桓守僧正資、
一條中納言内家卿男、太政大臣実家公孫、

義 桓 准 后

寺長史、
常磐井宮御子、直仁親王孫、

義 運

非職、未灌頂、
權大納言經頼卿息、東求院閑白晴嗣公猶子、

義 尊 大 僧 正

万治四正十四逝

從舜雄灌頂、号法嚴院、准三后、
靈陽院准三后義昭卿孫、大乘院還俗久山之子、

義 延 法 親 王

宝永二十九逝四十九才

三イ

俗名幸嘉、二品、寺長史、依不行跡、元祿
後西院第四皇子、母新大納言局、号東三清閑寺大納
言共綱卿女、号十如院、

北岩倉山大雲寺本堂本尊

十一面觀音、
行基菩薩作、

成金剛院

金剛童子、不
動、毘沙門、

安養院

丈六
弥道

正教院

六観
音

定林院

後三條院御願備前
守朝棟立、延喜末孫、

南大門

平等院

尊星王・兵部卿親

南大門

理智院

三〇七

言「類」今小路、「静・弘」息「類」男、
「静」後普光園院撰閑「類」二條殿後
普光園院攝政「弘」後普光園院閑白、
「静・弘」猶子「類」爲猶子、
増詮准后「類・弘」増詮大僧正、
寺長史「類」園城寺長史「弘」長史、
「静」三ヶ度「弘」三度、「静」応永廿
十二廿七補「類」應永二十二廿七
任、「静」同卅五四五「類」同三十
五四五、「静」第三ヶ度「類」第三
箇度、「静」政義運「類」改義運、「静」
從増珍灌頂「類」増珍僧正受法「弘」
増珍灌頂、「静・弘」養徳院大納言「類」
養徳院贈左大臣「静」満詮卿「類」源
満詮公「弘」満詮公、「静・弘」息「類」
男、「静・弘」鹿苑院相國「類」鹿園
院太政大臣源、「静」爲子「類」爲子
「弘」猶子、
義命僧正「類」義命權僧正、「静」寺
長史「類・弘」園城寺長史、「静」文
安比「類」文安中「弘」文安頃、「静」
退出畢「類」令退出「弘」退出、
増運大僧正「静・弘」寺長史「類」園
城寺長史、「静」閏四月辞退「類」閏
四辞退、「静」從義運灌頂「類」義運
僧正受法「弘」義運灌頂、「静」後花
園「類・弘」後花園院、「静・弘」後
知足院閑白「類」後知足院左大臣、
「静・弘」息「類」男、

王悟円、住此院、

福泉寺 等身弥勒、延 如法院 法花曼陀羅木像四十六尊、善惠大師立、

宝塔院 法花曼陀羅木像四十六尊、善惠大師立、 持宝院 如意輪文、惠法印立、

金龍院 丈六弥陀、明範立、 円生樹院 宇治大納言隆國立、

最勝院 毘沙門三尺、 尊光院 丈六弥陀、 新御堂 普賢堂

西南院 北大門 西光院 丈六弥陀、三重塔、 山本 新御堂

如来寺 弥陀 淨雲院 在定林院内、 成教院

南大門 權現堂 吉倉寺 等身不動 願成寺 号隱家谷別所、

脇莊寺 等身藥師 善法寺

天文年中細川國慶岩倉發向、此時諸堂門跡炎上、

南瀧院 北小路堀川坊舍并房領繪旨畧之、

〔三二才〕

〔三二才〕

増靜權大僧都〔類・弘〕(不記載)、
桓豪大僧正〔類・弘〕(不記載)、

義桓准后〔類〕義桓准三后、〔静・弘〕寺長史〔類〕圍城寺長史、〔静〕常磐井宮御子〔類〕全明親王男〔弘〕常磐井殿全明親王息、

義運〔類〕慈運權僧正、〔静〕權大納言〔類〕權大納言〔弘〕大納言、〔静・弘〕息〔類〕男、〔静〕東求院関白晴嗣〔類〕関白時嗣〔弘〕関白時嗣、

義尊大僧正〔静・弘〕從舜雄灌頂〔類〕舜雄僧都受法、〔静〕靈陽院准三后義昭御孫〔類〕靈陽院昌山本一乘院門主覺慶選俗義昭孫〔弘〕准三后源義昭子、〔静〕万治四正十四逝〔類〕萬治四辛丑正月十四日寂、

〔類〕(以下未記載)、
義延法親王〔静〕母新大納言局号東三條〔弘〕母東三條局、〔静〕清閑寺大納言〔弘〕從一位、〔静〕宝永二十九逝四十九才〔弘〕宝永三十九寂四十五才、

〔弘〕童形宮(有記事)、
〔弘〕義周法親王(有記事)、
〔弘〕増賞法親王(有記事)、
〔弘〕健宮(有記事)、
〔弘〕義海(有記事)、
〔弘〕棟君(有記事)、
平等院〔静〕住此院〔青〕任此院、

10 仁和寺御門跡

宇多法皇
〔承平九七十八崩六十五〕

諱定省、大師五世、昌泰二十四出家、御戒師益信僧都、法諱空理、灌頂之時金剛覺改之、同十五日於東大寺灌頂、十一廿四同受戒、延喜十幸天台增命坊重受灌頂、次戒壇廻心受戒、于時紫金光現映、号亭子院、申寬平法皇、光孝天皇第三皇子、

寬空僧正
〔天祿三二六化八十九〕

大師六世、法皇二世、香隆寺、又申蓮臺寺、東大寺別當、元東大寺法相宗、〔州〕文室氏内別人、

寬朝大僧正
〔長徳四六十二化〕

大師七世、法皇三世、申廣沢僧正、又称遍照寺僧正、雅信弟、重信兄、一品式部卿敦実親王二男、法皇御孫、

濟信大僧正

大師八世、法皇四世、申仁和寺大僧正、又名其玄院大僧正、又称北院、号田中僧正、法相宗兼学云々、〔真言〕一條左大臣源雅信公三男、敦実親王孫、雅慶・寬朝兩僧正舍弟、

性信親王
〔應徳二九廿七化六十一〕

大御室、大師九世、法皇五世、申長和親王、大師後身云々、二品、俗名師明、三條院第四御子、春宮時御子也、〔三三才〕

吉倉寺〔靜〕等身〔青〕尊身、

10 仁和寺御門跡

宇多法皇〔類〕寬平法皇、〔靜〕御戒師益信僧都〔類〕御戒師權大僧都益信〔統〕御戒師圓城寺益信〔弘〕御戒師圓城寺益信、〔靜〕同十五日於東大寺灌頂〔統・弘〕同十五於東大寺灌頂〔靜〕十一廿四同受戒〔統・弘〕十一廿四於同寺受戒、〔靜〕延喜十幸天台增命坊重受灌頂〔統〕延喜十六七八幸天台增命坊受法灌頂〔弘〕延喜十六七八幸天台增命坊受法灌頂、〔靜〕次戒壇廻心受戒〔統〕次御戒壇圓心受戒、〔弘〕次御戒壇廻心受戒、〔靜〕光孝天皇第三皇子〔類・統・弘〕光孝帝第三皇子、〔靜〕承平九七十八崩六十五〔類〕承平元辛卯七十九崩六十五歲〔弘〕承平元七十九崩六十八才、寬空僧正〔類〕〔不記載〕、〔靜・統〕蓮臺寺〔弘〕蓮臺寺、〔靜〕内別人〔青〕・統・弘〕内州人、〔靜〕天祿三二六化〔統・弘〕天祿三二六寂、〔靜〕八十九〔統〕八十九歲〔弘〕八十九才、寬朝大僧正〔弘〕寬朝僧正、〔類〕〔不記載〕、〔靜〕申〔統〕號〔弘〕号〔靜・統〕右大臣雅信弟、重信兄〔弘〕雅信弟、重信兄〔靜〕一品式部卿敦実親王二男、法皇御孫〔統・弘〕一品式部卿敦

覺行法親王

中御室、元覺念、大師十世、法皇六世、法親王始也、三品、白河院第三御子、母典侍經子、經平卿女、

寬助大僧正

大師十世、法皇六世、成就院、經範僧都入室弟子、藏人頭左中弁源師資一男、

仁平三十二六減六十一
覺法親王

高野御室、真行改行真、又覺法、大師十一世、法皇七世、二品、東寺一長者、法務僧正、申師子五宮、又花嚴宗兼給云々、白川院、第四御子、

嘉應元二十一減
覺性親王

紫金臺寺、俗名本仁、又信法、又卯実、改覺性、大師十二世、法皇八世、申五宮、又泉殿御室、二品、鳥羽院第五皇子、〔室〕

建仁二八廿五減
守覺法親王

喜多院御室、守性改守覺、二品、大師十三世、法皇九世、後白川院第一皇子、

道法親王
建保二十一廿一減

後高野御室、尊性改道法、二品、三子大師十四世、法皇十世、又申光明院、又西院、後白川院第八皇子、母三條法印應仁女、

實親王孫、〔靜〕長德四十六二化〔統・弘〕長德四十六二寂、
濟信大僧正〔類〕（不記載）、〔靜〕申〔統〕號〔弘〕号、〔靜〕又名其玄院大僧正〔統・弘〕又眞言院大僧正、
〔靜・統〕一條左大臣源雅信公〔弘〕一條左大臣雅信公〔靜〕三男〔統・弘〕第三息、〔靜〕敦実親王孫〔統・弘〕敦實親王息、
性信親王〔類・統・弘〕性信准三后、〔靜〕申〔統〕號〔弘〕号、〔靜・類〕三條院〔統・弘〕三條院、〔靜・統・弘〕第四御子〔類〕第四皇子、〔靜〕春宮時御子也〔統・弘〕春宮之時之御子也〔靜〕應德二九廿七化〔統・弘〕應德二九廿七寂、〔靜〕六十一〔類・統〕八十一歲〔弘〕八十一才、
覺行法親王〔類・統〕覺行法親王、〔靜〕法親王始也〔統・弘〕法親王宣旨自此始也、〔靜〕三品〔統・弘〕二品、〔靜〕白川院〔類・統・弘〕白河院、〔靜〕類・弘〕母典侍經子、〔靜〕經平卿女〔類〕藤原經平卿女〔統・弘〕太宰大貳經平卿女、
寬助大僧正〔類・統・弘〕（不記載）、覺法法親王〔類・統〕覺法法親王、〔靜〕真行改行真〔類〕本行眞、又眞行〔統〕本名行眞、又改眞行〔弘〕行眞又改眞、〔靜〕仁平三十二六減〔類〕仁平三年

道助 法親 王
宝治二正十六滅

光臺院御室、俗名長仁、大師十五世、法皇十一世、号鳴瀧、又申高野御室、三品、後鳥羽院第二御子、母内大臣信清公女、

道深 法親 王

金剛定院御室、大師十六世、法皇十二世、号梅尾、又申大聖院、又称開田院、二品、准三后、後高倉院第二皇子、母北白川院基家卿女、

法助 准后

開田准后、御童名福王公、大師十七世、法皇十三世、開田御室、光明峯寺入道関白道家公五男、

性助 法親 王

後中御室、大師十八世、法皇十四世、又申甘露王院御室、二品、後嵯峨院第六御子、

性仁 法親 王

高雄御室、俗名滿仁、二品、大師十八世、法皇十四世、後深草院第四御子、母成子、

深性 法親 王
正安元六十滅

尊勝院御子、二品、大師十九世、法皇十五世、後深草院第六皇子、母從一位忠子、三善康衡女、

禪助 大僧 正

大師十八世又十九世、法皇十四世又十五世、真光院第三代、元惠命院、申国師僧正、

十二月六日寂、〔弘〕仁平三十二六寂、〔靜〕六十二〔類・統〕六十三歲〔弘〕六十二才、〔靜・類〕白川院〔統・弘〕白河院、〔靜〕第四御子〔類・統・弘〕第四皇子、覺性法親王〔類・統〕覺性法親王、〔靜〕俗名本仁、又信法〔統・弘〕本名信法、〔靜〕又泉殿御室〔統〕又號泉殿御室〔弘〕号泉殿御室、守覺法親王〔類・統〕守覺法親王、〔靜〕守性改守覺〔統・弘〕本名守性、〔靜・類〕後白川院〔統・弘〕後白河院、〔靜〕第二皇子〔類〕第四皇子、〔靜〕建仁二八廿五滅〔統〕建仁二八廿五寂五十三歲〔弘〕建仁二八廿九寂五十三才、道法法親王〔靜〕又申〔青〕又字、〔靜〕後白川院第八皇子〔類〕同帝第九皇子〔統・弘〕後白河院第九皇子、〔靜〕母三條法印應仁女〔類〕母三條局、法印應仁女〔統・弘〕母三條局、法眼應仁女、〔靜〕建保二十一廿一滅〔類〕建保二十一入滅〔統・弘〕建保二十一廿一寂、道助法親王〔靜〕三品〔統・弘〕二品、〔靜〕第二御子〔統・弘〕第二皇子〔類〕第六皇子、〔靜〕宝治〔青〕口治、〔靜〕宝治二正十六滅〔弘〕宝治二正十六寂〔類〕寶治三年正月十五日入滅〔統〕寶治三正十六寂、道深法親王〔靜〕又申〔統〕又號〔弘〕又号、〔靜・統・弘〕第二皇子〔類〕第

寛 性 法 親 王

常瑜伽院御室、俗名惟永、大師十九世、法皇十五世、又申惠命院御室、伏見院第三御子、

〔三才〕

法 守 法 親 王

禪阿院御室、大師十九世又廿世、法皇十五世又十六世、二品、後伏見院第二皇子、

法 仁 法 親 王

大師廿世、法皇十六世、後醍醐院第十御子、母大納言三位局、為道卿女、

源 性^仁 法 親 王

花園院第三御子、母宣光門院、

尊 朝 法 親 王

元惠仁改尊朝、大師廿世、法皇十六世、早世、光明院御子、

永 助 法 親 王

後常瑜伽院御室、元空助、改永助、一品、大師廿世、法皇十六世、後光嚴院第四御子、

法 尊 准 后

大師廿一世、法皇十七世、准三后、号梵光院、鹿苑院相國義滿公御息、

承 道

〔准 后カ〕

法金剛院御室、又申後金剛定院御室、大師廿一世、法皇十七世、木寺殿也、世平王御子、後一条院第五世

三皇子、〔靜〕母北白川院基家卿女

〔類〕母北白川院准三后從三位陳子、

入道中納言藤原基家女、〔統・弘〕母

前中納言基家卿女、法助准后〔類〕法

助准三后〔靜〕開田御室〔統・弘〕開

田院御室、〔靜〕光明峯寺入道關白

〔類〕光明峯寺攝政關白〔統〕九條殿

光明峯寺入道攝政關白、〔弘〕九條殿

光明峯寺入道攝政關白、〔靜・弘〕息

〔類〕七男、〔靜〕弘安七十一廿七滅

〔弘〕弘安七十一廿七寂四十六才〔類〕

弘安七年十一月廿一日入滅〔統〕弘安

七年十一月廿一日寂、性助法親王

〔靜〕又申甘露王院御室〔統〕又號甘

露王院〔弘〕又号甘露王院、〔靜〕後

嵯峨院第六御子〔類・統・弘〕後嵯峨

院第九皇子、性仁法親王〔靜〕〔靜〕後

深草院第四御子〔類・統・弘〕後深草

院第四皇子、〔靜〕母成子〔類〕母玄

輝門院、山階左大臣藤實雄公女〔統〕

母玄輝門院藤原悟子、山階左大臣實

雄公女〔弘〕母玄輝門院藤原陪子、山

階左大臣實雄公女、深性法親王〔靜〕

〔靜〕大師十九世、法皇十五世〔統・

弘〕大師廿世、法皇十六世、〔靜〕尊

勝院御子〔統・弘〕尊勝院御室、〔靜・

統・弘〕後深草院第六皇子〔類〕同帝

第六皇子、〔靜〕母從一位忠子、三善

康衡女〔類〕母准從一位三善康衡女、

孫、後小松院御猶子、

禅信大僧正

大師廿一世、法皇十七世、真光院第六代、洞院大納言実信卿息、

〔三三之〕

静覚法親王

後光臺院御室、法深改弘覚、又静覚、二品、上乘院、大師廿二世、法皇十八世、邦康親王御子、世平王孫、後花園院御猶子、

尊海大僧正

元尋守、大師廿三世、法皇十九世、真光院第八代、東久世相国通傳公息、

覚道法親王

後法金剛院御室、二品、大師廿四世、法皇廿世、又甲真光院御室、^{又カ}後柏原院御子、

道永法親王

俗名高平、後大通院貞常親王御子、

任助法親王
天正二十一年廿九寂

巖鳴御室、大師廿四世、法皇廿世、妙莊巖院貞敦親王御子、後奈良院御猶子、

守理法親王

依非器御退出云々、後安養院邦輔親王御子、

〔統・弘〕母從一位三善忠子、三善康衡女、〔静〕正安元六十滅〔類〕正安元年六月七日入滅〔統〕正安元六七寂〔弘〕正安元六七寂廿五才、禪助大僧正〔類・統・弘〕（不記載）、寛性法親王〔静〕大師十九世、法皇十五世〔統・弘〕大師廿一世、法皇十七世、〔静〕又申惠命院御室〔統〕又號惠命院〔弘〕又号惠命院、〔静〕伏見院第三御子〔統・弘〕伏見院第三皇子、法守法親王〔静〕大師十九世又廿世、法皇十五世又十六世〔統・弘〕大師廿二世、法皇十八世、〔静・統・弘〕後伏見院第三皇子、法仁法親王〔類〕（源性法親王の後仁）〔静〕大師廿世、法皇十六世〔統・弘〕大師廿三世、法皇十九世、〔静〕後醍醐院第十御子〔弘〕後醍醐天皇第十二皇子、〔静〕母大納言三位局、為道卿女〔統・弘〕母左近中将為道朝臣女、〔静〕花園院第三御子〔統・弘〕花園院第三皇子、〔静〕母宣光門院〔統・弘〕母宣光門院、大納言實明卿女、尊朝法親王〔静〕元惠仁改尊朝〔統・弘〕本名惠仁、諱尊敬、〔静〕光明院御子〔統・弘〕光嚴院皇子〔類〕光嚴院第四皇子、永助法親王〔静〕元空助〔統・弘〕本名空助、〔静〕後光嚴院第四御子〔類・統〕後光嚴院第五皇子〔弘〕光嚴院第五皇子、法尊准后

料 覺深法親王
正保五閏正廿一寂六十一

資 性承法親王
延宝六、二十九化四十二

覺寬法親王
宝永四九月十日寂三十五才

後南御室、一品、

後陽成院第一皇子、母中山大納言親綱卿女親子、

後大御堂、一品、俗名周敦、
後水尾院皇子、母帥局水無瀬中納言氏成卿女、

俗名師永、二品、改覺助、又改寬隆、宝永四一品、

仙洞第二皇子、母愛宕通福卿女源内侍、天和三八十三親王宣下、
京極宮文仁親王御子、同十七日入室、

11 大覚寺御門跡

大覚寺者、嵯峨天皇之離宮也、脱履之後、
和九年移嵯峨院給也、貞觀十八年淳和

帝太后正子内親王
嵯峨帝女、
恒寂母、

奏而改為佛寺、号大覚寺、

恒寂親王

仁和元九廿滅六十
十一

俗名恒貞、三品、上総太守、号亭子皇子、天長十二立太

子、九歲、承和元廢之依橘逸勢 謀反人、嘉祥二年出家廿四 歲 從

真如阿闍梨受兩部密法、曉以莊田資産捨、天長太后
改為佛寺、恒寂大覚寺、寂造丈六弥陀像、又度諸經論
等、寺供僧額皆寂之所置也、
淳和帝第一皇子、母正子内親王、

〔類・統・弘〕法尊准三后、〔靜〕鹿苑院相國義滿公〔類〕鹿園院太政大臣源〔統・弘〕鹿苑院義滿公〔靜〕御息〔類〕男〔統・弘〕息、承道〔類・統・弘〕承道准三后、〔靜〕又申後金剛定院御室〔弘〕又号金剛定院、〔靜〕木寺〔青〕本寺、〔靜〕木寺殿也、世平王〔類・弘〕木寺殿世平親王、〔靜〕御子〔類〕男〔弘〕息、禪信大僧正〔類・統・弘〕〔不記載〕、(以下三三〇頁へ続)

11大覚寺御門跡〔類〕大覚寺殿〔統〕大覚寺門跡〔弘〕大覚寺御門跡、〔靜〕大覚寺者〔弘〕大覚寺者、〔靜〕嵯峨天皇〔弘〕嵯峨帝〔靜〕承和九年〔弘〕承和元〔靜〕貞觀十八年〔弘〕貞觀十八、〔靜〕号大覚寺〔弘〕号大覚寺、恒寂親王〔類〕恒寂親王〔統〕恒寂法親王、〔靜〕俗名恒貞〔類・弘〕俗名恒貞親王〔統〕始甲恒貞親王、〔靜・弘〕号亭子皇子〔類・統〕號亭子皇子、〔靜・類・弘〕天長十二立太子〔統〕同〔天長〕十二年立太子、〔靜・類・統〕九歲〔弘〕九才、〔靜〕依橘逸勢謀叛人〔統〕坐橘逸勢謀叛廢〔弘〕依橘逸勢謀叛也、〔靜・類・統〕嘉祥二年〔弘〕嘉祥二、〔靜・類〕廿四歲〔統〕二十四歲〔弘〕廿四才〔靜・弘〕從真如

後宇多院
正中元六廿五崩於大覺寺五十八

諱世仁、德治二七廿六御出家、^{四十}法諱金剛性、同十一十五尊号、十一廿一於東大寺受戒、号大覺寺殿
龜山院第
一皇子、

性圓法親王

二品、後宇多帝嗣法、後宇多院皇子、

〔三五才〕

寬尊法親王

本名寬融、号西院、龜山院皇子、

性勝法親王

俗名良治、^{昭イ}同院皇子、母一条局、參議実俊女、

道寬法親王

寬尊法親王入室、後光嚴院皇子、

深守法親王

大金剛院、益助資、益性弟子、邦良親王男、後二條院孫、

弘覺法親王

大金剛院宮、同親王男、母宮僧正深覺女、

- 〔類・統〕從眞如、〔靜・弘〕曉〔類〕曉〔統〕晚、〔靜〕捨〔類・統〕弘、捨大覺寺、〔靜〕彌陀〔類〕彌陀〔統〕彌陀、〔靜・弘〕母〔類・統〕母皇后、〔靜・弘〕仁和元九廿〔類・統〕仁和元年九月廿日、〔靜〕誠〔類・統〕入滅〔青〕弘寂、〔靜〕六十〔類・統〕六十歲〔弘〕六十才、
- 〔統〕寬空僧正〔有記事〕、
- 〔統〕定昭大僧都〔有記事〕、
- 〔統〕定好已講〔有記事〕、
- 〔統〕眞範大僧正〔有記事〕、
- 〔統〕賴信權僧正〔有記事〕、
- 〔統〕賴尊大僧都〔有記事〕、
- 〔統〕覺信大僧正〔有記事〕、
- 〔統〕覺英少僧都〔有記事〕、
- 〔統〕覺繼大僧正〔有記事〕、
- 〔統〕信圓大僧正〔有記事〕、
- 〔統〕良圓大僧正〔有記事〕、
- 〔統〕實信大僧正〔有記事〕、
- 〔統〕實靜少僧都〔有記事〕、
- 〔統〕信昭大僧正〔有記事〕、
- 〔統〕隆信禪師〔有記事〕、
- 〔統〕覺惠禪師〔有記事〕、
- 〔統〕覺昭大僧正〔有記事〕、
- 〔統〕良信大僧正〔有記事〕、
- 〔統〕後嵯峨院〔有記事〕、
- 〔統〕龜山院〔有記事〕、

恒性

越中宮、
後醍醐院皇子、本傳不見、

性守大僧正

准三后、法務、
如法壽院関白政嗣公息、

義俊大僧正

准后イ
元禅意、性守大僧正資、
後法成寺関白尚通公息、母相国実淳公女、

義昭大僧正

准三后、
鹿苑院太政大臣義満公男、

性深大僧正

後照光院関白房平公息、

空性法親王
慶安三・八廿五薨七十八

二品、元義性、選俗、号瑞庵、号後天王寺殿、
陽光院御子、母新上東門院晴子、

尊性法親王
慶安四・三廿二滅五十

俗名每敦、二品、法務、東寺長者、号佛母心寺、
後陽成院皇子、母大典侍耀子、入道大納言輝資卿女、

性真法親王
元禄九・正五寂五十八

俗名真敦、二品、東寺長者、号金剛心院、
後水尾院皇子、母櫛笥隆忠朝臣女、

〔三五之〕

後宇多院〔静・弘〕德治二・七廿六〔類〕
德治二年七月廿六日〔統〕德治二・末
七廿六、〔静・統〕四十一〔類〕四十
一歲〔弘〕四十一才、〔静・弘〕同〔德
治〕十一・十五尊号〔統〕〔弘安十年〕十
一月十五日大上天皇尊號、〔静・弘〕十
一廿一〔統〕十一月廿一日、〔静〕号
大覺寺殿〔類〕號大覺寺殿〔弘〕号大
覺寺殿、〔静〕正中元六廿五〔類〕正
中元甲子六月廿五日〔統〕元亨四年六
月廿五日、〔静〕崩於大覺寺五十八
〔類〕崩五十八歲、〔統〕崩大覺寺五十
八〔弘〕崩五十八才、〔静・弘〕龜山院
第一皇子〔類・統〕龜山院第二皇子、
性圓法親王〔統〕性圓親王、〔類〕〔寛
尊法親王の後〕、〔静・類〕後宇多帝
〔統〕後宇多院〔弘〕後宇多、〔静・類〕
皇子〔統・弘〕第四皇子、寛尊法親王
〔統〕寛尊親王、〔類〕〔後宇多院の後
に〕、〔静〕龜山院皇子〔類・統〕龜山
院皇子〔統〕龜山院第二十六皇子〔弘〕
龜山院第廿三皇子、性勝法親王〔統〕
性勝親王、〔静〕同院〔類・弘〕同帝
〔統〕後宇多院〔静・類・弘〕皇子〔統〕
第五皇子、〔静・弘〕母一条局〔類・
統〕母一條局、〔静〕參議実俊女〔類・
統・弘〕參議左中将藤原實俊女〔統〕
恒性〔後掲〕〔統〕恒勝親王〔有記事〕
〔弘〕恒性法親王、道寬法親王〔弘〕〔弘

性應法親王
正徳二八十五寂二十三

俗名寛敦、元禄十三八廿一親王宣下、宝永六五十二二品、
仙洞皇子、母五條大納言為庸卿女、後佛母心院、

〔三六才〕
〔三六七〕

12 隨心院御門跡 小野曼荼羅寺

弘法大師
承和二三廿一入定六十二

諱空海、姓佐伯氏、父田公、母阿刀氏、讚州多度郡人、為
求法延曆廿三入唐、大同元八月帰朝、弘仁十四正賜
東寺、天長三十一月奏聞而建東寺塔、弘仁七六開紀
州高野山、為入室之地、延喜廿一十月賜諡弘法大師、

弘法大師弟子也、

実惠弟子、

真雅僧正
元慶三正三化七十五

源仁僧都
仁和三十一廿二化

聖室僧正
〔宝〕
延喜九六逝七十八
〔九七六〕

讚岐国人、光仁帝之後也、
宝永五月 日賜諡理源大師、

姓秦氏、讚州人、座主、号般若寺、

観賢僧正
延長三六十一化七十二

覺法親王の後に、〔静・類〕寛尊法親
王入室〔弘〕寛尊入室、〔統〕〔不記載〕
〔以下三三〇頁へ続く〕

12 隨心院御門跡〔類〕隨心院

弘法大師〔静〕多度郡人〔弘〕多度人、
〔静〕大同元八〔弘〕大同元八月、〔静〕
弘仁十四正〔弘〕弘仁十四、〔静〕天
長三十一月〔弘〕天長三十一、〔静〕奏
聞〔弘〕奏問、〔静〕延喜廿一十月〔弘〕
延喜廿一、〔静〕承和三三廿一〔類〕承
和二三年三月廿一日〔弘〕承和三三廿
一、〔静〕六十二〔類〕六十二歳〔弘〕
六十二才、真雅僧正〔類〕弘・眞雅僧
正、〔静〕弘法大師弟子也〔類〕弘法
之弟也〔弘〕弘法大師弟也、〔静〕元
慶三正三化七十五〔類〕元慶三年正月三
日寂七十五歳〔弘〕元慶三正三寂七十
五才、源仁僧都〔静〕実惠弟子〔類〕
後覬實惠受密教〔弘〕實惠弟子、〔静〕
仁和三十一廿二化〔類〕仁和三年十一
月廿二日〔弘〕仁和三十一廿二寂、聖
室僧正〔類〕聖實尊師〔弘〕聖室尊師、
〔静〕延喜九六逝七十八〔類〕延喜九
年七月六日寂、七十八歳〔弘〕延喜九
七化七十八才、

淳祐内供

從五位下源激子、

元杲大僧都

〔三七才〕

仁海僧正

丹州与佐縣板浪里宮道氏、号雨僧正、

永承元五十六減五十二

成尊僧都

延久六正七減

範俊權僧正

嚴覺大僧都

增俊阿闍梨

門跡自是始、
中納言国俊卿子、

顯嚴僧都

直講從五位上中原廣忠子、

親嚴大僧正

飛驒守中原親光子、掃部頭中原廣季朝臣猶子、

嚴海大僧正

入道刑部卿賴經朝臣息、

觀賢僧正〔類・弘〕觀賢僧正、〔靜・弘〕姓秦氏〔類〕秦氏、〔靜・弘〕讚州人〔類〕讚岐國人、〔靜・弘〕号般若寺〔類〕般若寺僧正、〔靜〕延長三十六一化七十二〔類〕延長三年六月十一日入滅七十二歲〔弘〕延長三十六十一寂七十三才、
淳祐内供〔靜〕從五位下源激子〔類〕源激男〔弘〕源激子、元杲大僧都〔弘〕元杲僧都、〔類・弘〕〔有記事〕、仁海僧正〔靜〕与佐縣〔弘〕〔有記事〕、永承元五十六減五十二〔類〕永承元年五月十六日寂、九十二歲、〔弘〕永承元五十六寂九十二才、成尊僧都〔靜〕延久六正七減〔類〕延久六年正月七日滅〔弘〕延久六正七寂、範俊權僧正〔類・弘〕範俊僧正〔有記事〕、嚴覺大僧都〔類・弘〕嚴覺大僧都〔有記事〕、增俊阿闍梨〔靜〕門跡自是始〔類〕隨心院初祖〔弘〕隨心院最初、〔靜〕国俊卿〔青・類〕國俊卿〔弘〕國俊、〔靜〕子〔類〕男〔弘〕息、顯嚴僧都〔類・弘〕顯嚴僧都、〔靜〕子〔類・弘〕男、親嚴大僧正〔靜〕子〔類・弘〕男、〔靜・弘〕朝臣猶子〔類〕爲子、嚴海大僧正〔靜・弘〕朝臣息〔類〕男、
宣嚴僧正〔類・弘〕宣嚴權僧正、〔靜・弘〕息〔類〕男、俊嚴僧正〔類・弘〕俊嚴權僧正、〔靜〕參議正三位藤經俊

宣嚴僧正

東寺長者、
左大弁藤宣房息、

〔三七之〕

俊嚴僧正

參議正三位藤經俊卿息、

嚴惠法印

權大僧都、号弘誓院、
大納言藤高実卿息、太政大臣良平公孫、

靜嚴大僧正

永仁七正七入滅五十七

法務、
円明寺撰関実經公息、

嚴豪大僧正

後光明峯寺撰政家經公息、

經嚴大僧正

同息、

通嚴權僧正

後芬陀利花院関白經通公息、

照嚴權僧正

同息、

卿息〔類〕俊經卿男〔弘〕正三位藤原俊經卿男、嚴惠法印〔類〕嚴惠法印〔弘〕嚴惠權僧正、〔靜〕權大僧都〔弘〕權大僧都、〔靜〕藤高実卿息〔類〕藤高実卿男〔弘〕藤原高實卿息、靜嚴大僧正〔靜〕円明寺撰関実經〔類〕一條攝政関白圓明寺實經〔弘〕一條圓明寺関白實經、〔靜・弘〕息〔類〕男、〔靜〕永仁七正七入滅五十七〔類〕永仁七年正月七日入滅、五十七歲〔弘〕永仁七正七寂五十七才、嚴豪大僧正〔類・弘〕嚴家大僧正、〔靜〕後光明峯寺撰政〔類〕一條攝政左大臣後光明寺、〔弘〕一條殿撰政左大臣後光明寺、〔靜・弘〕息〔類〕男、經嚴大僧正〔靜・弘〕同息〔類〕一條攝政左大臣後光明峯寺家經公男、通嚴權僧正〔靜〕後芬陀利花院関白〔類〕一條関白左大臣後芬陀利花院〔弘〕一條関白左大臣後芬陀利花院、〔靜・弘〕息〔類〕男、照嚴權僧正〔靜・弘〕同息〔類〕一條関白左大臣後芬陀利花院經通公男、嚴叡權僧正〔類・弘〕嚴叡權僧正、〔靜〕是心院関白師良〔類〕関白左大臣是心院師長〔弘〕二條殿関白左大臣是心院師良、〔靜・弘〕息〔類〕男、祐嚴准后〔類・弘〕祐嚴准三后、〔靜〕成恩寺関白〔類〕一條関白左大臣成恩寺〔弘〕一條関白左大臣成恩寺、嚴実准

嚴 叡 權 僧 正

是心院関白師良公息、

祐 嚴 准 后

東寺長者、
成恩寺関白經嗣公息、

嚴 実 准 后

後成恩寺関白兼良公息、

持 嚴 大 僧 正

醍醐座主、
今小路大納言良冬恵、大染金剛院関白持通公猶子、

忠 嚴 准 后

東大寺別當、
普門寺関白政忠公息、

増 孝 大 僧 正

東大寺別當、
後月輪入道関白兼孝公息、

仙 朝 大 僧 都

紀伊守従五位上雅重朝臣男、

長 静 権 僧 都

参議従三位藤定長卿男、

〔三八才〕

后〔類〕嚴實准三宮〔弘〕嚴宝准三后、
 〔静〕後成恩寺関白〔類〕關白内大臣
 後成恩寺〔弘〕一条関白内大臣後成恩
 寺、〔静・類〕兼良〔弘〕兼良、〔静・
 弘〕息〔類〕男、持嚴大僧正〔静〕今
 小路大納言良冬恵〔類〕實父今小路殿
 〔弘〕實父今小路大納言藤良冬卿、
 〔静〕大染金剛院関白〔類〕關白太政
 大臣大染金剛院、〔静・弘〕猶子〔類〕
 男、忠嚴准后〔類・弘〕忠嚴准三后、
 〔静〕普門寺関白〔類〕關白内大臣普
 門寺〔弘〕九条殿関白内大臣普門寺、
 〔静・弘〕息〔類〕男、増孝大僧正〔類・
 弘〕（長静権大僧都の後に）、〔静〕後
 月輪入道関白兼孝〔類〕九條殿後月輪
 殿関白左大臣藤原兼孝〔弘〕九條殿後
 月輪関白左大臣兼孝、仙朝大僧都
 〔類・弘〕（忠嚴准三后の後に）、〔静・
 弘〕従五位上〔類〕従五位上、〔静〕雅
 重朝臣〔類〕源雅重〔弘〕雅重、長静
 権僧都〔類・弘〕長静権大僧都、〔静・
 弘〕従三位〔類〕従三位、〔静〕藤定
 長〔類・弘〕藤原定長、
 栄嚴大僧正〔静〕権伊〔青〕（なし）、〔類・
 弘〕（増孝大僧正の後に）、〔静・弘〕秀
 勝〔類〕豊臣秀勝、〔静〕惟 院関白
 〔類〕九條殿関白左大臣藤原忠榮改
 〔弘〕九條殿関白左大臣、〔類〕（以下
 未記載）、俊海大僧正〔静〕一院左

榮嚴權イ大僧正
寛文四三三十五化四十三

東大寺別當、護持僧、母丹波少将秀勝女、院関白幸家公息、号本淨院、

俊海權イ大僧正
天和二五廿六寂三十四四十二イ

東大寺別當、一致院左大臣教平公息、九条左大臣兼晴公猶子、明曆三西十一廿六入寺、寛文二八廿四得度、号淨輪院、

〔三八ウ〕

13 三宝院 御門跡

觀賢僧正
延長三六十一年七十一

姓秦氏、讃州人、東大寺根本僧正聖宝資也、延喜十九九十七任座主、号般若寺、

延做律師
延長六十二三卒七十三

左京人、姓長統氏、根本僧正資也、延長三七廿七任座主、

貞崇大法師
延長七十廿八卒七十一九イ

根本僧正資也、延長六十廿八任座主、号念学院、

壹定大法師
天慶七七廿二卒八十一

左京人、姓三善氏、根本僧正資、惠宿内供弟子、仁和八二二任座主、号真言院、

大臣〔弘〕鷹司殿前左大臣、〔静〕三十四〔弘〕三十四才
〔弘〕堯嚴大僧正（有記事）、
〔弘〕増護大僧正（有記事）、

13 三宝院門跡
觀賢僧正〔統〕（不記載）、
延伸律師〔統〕（不記載）、
貞崇大法師〔統〕（不記載）、
壹定大法師〔統〕（不記載）、

料

定助 大法師
天慶十二・九卒六十四

根本僧正資也、天慶七七三任座主、

資

仁皎 權律師
天德元四十三卒七十

壹定律師資也、夫唐元二十七日任座主、号東院、

觀理 權律師
天德二十一年廿三卒八十七

觀賢僧正弟子、天德元一、一任座主、

湍縁 大法師
天延二三月一卒八十一

右京人、姓平氏、延敏律師弟子、天德四、一任座主、号東南院、

慶助 大法師
天元五七月一卒七十六

姓的氏、延敏律師弟子、天元一、一任座主、

明観 大法師
長徳元一卒七十四

東大寺定助律師弟子、永観元、一任座主、備中守兼遠息、

覚深 大法師
治安元十八卒

観理僧都弟子、長徳四十二二十七任座主、

定賢 阿闍梨
治暦元八十八卒六十七

東大寺仁海・深覚兩僧正資也、寛仁二十二・廿六任座主、花山院第三皇子、

〔三九才〕

定助大法師〔統〕(不記載)、
仁皎權律師〔統〕(不記載)、〔静〕夫
暦〔青〕□暦、
観理權律師〔統〕(不記載)、〔静〕廿
〔青〕五、
湍縁大法師〔統〕(不記載)、
慶助大法師〔統〕(不記載)、
明観大法師〔統〕(不記載)、
覚深大法師〔統〕(不記載)、
定賢阿闍梨〔統〕(不記載)、〔静〕座
主〔青〕座、

天喜九誕〔五〕
勝 覺 權 僧 正
大治四四一化〔七十三〕

東大寺覺深僧正弟子、康平五八廿九任座主、
堀川左大臣源俊房公息、

承保元誕
定 海 大 僧 正
大治四四一卒七十三
〔久安五四十二卒七十六〕

東大寺定資法務資也、應保三六十六任座主、
六條右大臣顯房公息、

寛治七誕
元 海 大 僧 都
久安五四十二卒七十六
〔保元元八十八寂六十四〕

勝勝敷東大寺藤覺資也、永久四五廿三任座主、
大納言源雅俊卿息、

長治元誕
実 運 權 少 僧 都

勝覺僧正舍弟、長承元五廿七任座主、
左大臣源俊房公息、

保延四誕
勝 賢 權 僧 正

少納言藤通憲息、

〔三九之〕

久壽元誕
実 繼 大 僧 都

大納言公保卿男、

〔保〕
成 賢 權 僧 正

民部卿中納言藤成範卿息、

勝覺權僧正〔類・弘〕勝覺權僧正〔統〕
元祖權僧正勝覺、〔靜〕化〔弘〕寂七
十七才、
定海大僧正〔統〕大僧正定海、〔靜〕定
資〔弘〕定賢、
〔靜〕應保〔弘〕應徳、
元海大僧都〔統〕大僧都元海、〔靜〕誕
〔弘〕生、〔靜〕廿三〔弘〕廿二、〔靜〕
大納言〔弘〕京極大納言、〔靜〕卒七十
六〔弘〕寂七十六才、
実運權少僧都〔類・弘〕實運少僧都
〔統〕權少僧都實運、〔靜〕誕〔弘〕生、
〔靜〕勝覺僧正〔弘〕勝覺、〔靜〕左大
臣源俊房〔弘〕俊房、
勝賢權僧正〔類・弘〕勝賢權僧正〔統〕
僧正勝賢、〔靜〕誕〔弘〕生、〔靜〕少
納言藤通憲〔弘〕小納言藤原通憲、
実繼大僧都〔類・弘〕實繼權大僧都
〔統〕大僧都實繼、〔靜〕誕〔弘〕生、
〔靜〕大納言〔弘〕權大納言、〔靜〕男
〔弘〕息
成賢權僧正〔類・弘〕成賢權僧正〔統〕
權僧正成賢、〔靜〕応徳〔弘〕應宝、〔靜〕
誕〔弘〕生、〔靜〕民部卿中納言藤〔弘〕
權中納言藤原、

良海權少僧都

号遍照院、元海資、
月輪攝政兼実公息、弟イ

良海權少僧都〔類・弘〕良海權少僧都
〔統〕權少僧都良海、〔靜〕兼実〔弘〕
兼實、

聖海親王

法印、大僧都、東大寺・東寺、無品、
性明親王息、高倉院孫、三品親王、法名聖直、
〔惟〕

聖海親王〔類・弘〕聖海法親王〔統〕
無品親王聖海、〔靜〕性明親王〔弘〕大
炊御門宮惟明親王、〔靜〕法名聖直
〔弘〕法名聖眞、

勝尊權僧正

号金剛院、
松殿攝政師家公息、

勝尊權僧正〔類・弘〕勝尊權僧正〔統〕
權僧正勝尊、

建久三誕

憲深權僧正

侍從大納言成道卿息、

〔靜〕松殿攝政師家公息〔弘〕松殿小
殿下息 師家公云々、

承久三誕

定濟大僧正

土御門内大臣定通公息、

憲深權僧正〔類・弘〕憲深權僧正〔統〕
權僧正憲深、〔靜〕誕〔弘〕生、〔靜〕
侍從大納言成道卿〔弘〕侍從通成、
〔靜〕息〔弘〕男、

寛元三誕

定勝權大僧都

山階左大臣実雄公息、

定濟大僧正〔類・弘〕定濟大僧正〔統〕
大僧正定濟、〔靜〕誕〔弘〕生、〔靜〕

弘安九誕

道性權僧正

号宮僧正、又号關伽井僧正、
龜山院皇子、

土御門〔弘〕上御門、定勝權大僧都
〔類・弘〕定勝權大僧都〔統〕權大僧
都定勝、〔靜〕実雄〔弘〕實雄、

〔四〇才〕

道性權僧正〔類・弘〕道性權僧正〔統〕
宮僧正道性、〔靜〕誕〔弘〕生、
聖兼大僧正〔統〕大僧正聖兼〔弘〕聖
兼大僧正、〔靜〕家実〔弘〕家實、〔靜〕
五十三〔弘〕五十三才、

聖兼大僧正

永仁元九十一寂五十三

東南院、法務、東大寺別當、
猪熊攝政家実公息、

聖雲法親王

無品、宝池院、
龜山院皇子、

弘長二誕
定任權僧正

中御門帥大納言經任卿息、

弘安二誕
賢助大僧正

洞院太政大臣公守公息、

聖尊法親王

無品、遍池院、
後二條院皇子、

聖尋大僧正

東南院、東大寺別當、東寺一長者、聖忠僧正資、
円光院関白基忠公息、

正安一誕
賢俊大僧正

日野大納言俊光卿息、

永和二誕
光濟大僧正

聖珍親王

無品、東大寺、号東南院、
伏見院皇子、

聖雲法親王〔統〕無品親王聖雲、

定任權僧正〔類〕弘〔定〕任權僧正〔統〕

權僧正定任、〔靜〕誕〔弘〕生、〔靜〕

中御門帥大納言〔弘〕中御門大納言藤

原、

賢助大僧正〔統〕大僧正賢助、〔靜〕弘

安二誕〔弘〕弘安三生、〔靜〕公守〔弘〕

藤原公守、

聖尊法親王〔統〕無品親王聖尊〔靜〕

遍池院〔弘〕号遍池院、

聖尊大僧正〔統〕僧正聖尊、〔靜〕円

光院関白〔弘〕鷹司圓光院関白太政大

臣、

賢俊大僧正〔統〕大僧正賢俊、〔靜〕正

安一誕〔弘〕正安元生、〔靜〕日野大納

言〔弘〕權大納言藤原、

光濟大僧正〔類〕弘〔光濟〕大僧正〔統〕

大僧正光濟、〔靜〕誕〔弘〕生、

聖珍親王〔類〕聖珍法親王〔統〕無品

親王聖珍、

光助權僧正〔類〕弘〔光助〕權僧正〔統〕

僧正光助、〔靜〕日野大納言〔弘〕權

大納言藤原、

滿濟准后〔類〕弘〔滿濟〕准三后〔統〕

准三后滿濟、〔靜〕誕〔弘〕生〔靜〕

鹿苑院義滿公御猶子〔弘〕將軍義滿公

猶子、

義賢准后〔類〕義賢准三后〔統〕准三

〔四〇乙〕

光助權僧正

日野大納言時光卿息、

永和四誕

滿濟准后

今小路儀同三司師冬公息、鹿苑院義滿公御猶子、

応永六誕

義賢准后

則号金后

元持滿、
大納言源滿詮卿息、鹿苑院相國義滿公御猶子、

政深權僧正

後知足院閔白房嗣公息^イ
一條左大臣^一公息、普廣院左府義教公御猶子、

義覺權僧正

文明十五九十七寂十六才

慈照院左大臣義政公息、

政紹權僧正

普門寺閔白政忠公息、慈照院左大臣義政公御猶子、

隨心院也
持嚴大僧正

今小路大納言良冬卿息、大染金剛院持通公猶子、

永正二誕

義堯大僧正

法務、

慈眼院閔白政基公息、惠林院贈相國義植公御猶子、
〔植〕

后義賢、〔靜〕応永六誕〔弘〕應永六生、〔靜〕元持滿〔弘〕本名持滿、〔靜〕大納言源滿詮卿〔弘〕贈左大臣滿詮公、〔靜〕鹿苑院相國義滿公御猶子

〔弘〕義滿公猶子、

政深權僧正〔類・弘〕政深權僧正〔統〕權僧正政深、〔靜〕一條左大臣^一公

〔弘〕近衛殿知足院閔白左大臣房嗣公、〔靜〕普廣院左府義教公御猶子〔弘〕將軍義教公猶子、

義覺權僧正〔類・弘〕義覺權僧正〔統〕權僧正義覺、〔靜〕慈照院左大臣〔弘〕

征夷大將軍太政大臣慈照院、

政紹權僧正〔類・弘〕政紹權僧正〔統〕權僧正政紹、〔靜〕普門寺閔白〔弘〕九

條殿普門寺閔白、〔靜〕慈照院左大臣〔弘〕將軍

持嚴大僧正〔統〕大僧正持嚴、〔靜〕大納言良冬〔弘〕中納言師冬、〔靜〕大

染金剛院〔弘〕二條金剛院閔白、

義堯大僧正〔類・弘〕義堯大僧正〔統〕僧正義堯、〔靜〕誕〔弘〕生、〔靜〕慈

眼院閔白〔弘〕九條慈眼院閔白、〔靜〕惠林院贈相國義植公御猶子〔弘〕征夷將軍惠林院義植公猶子、

義演准后〔類・弘〕義演准三后〔統〕准三后義演、〔靜〕猶子〔青〕猶子、〔靜〕

永祿元誕〔弘〕永祿元生、〔靜〕淨明珠院閔白〔弘〕二條淨明院閔白、〔靜〕

永錄元誕^{〔祿〕}
義演准后

大僧正、
淨明珠院関白晴良公息、靈陽院大納言義昭卿猶子、

〔四一才〕

慶長十二誕
覺定大僧正

後法音院関白信房公息、

靈陽院大納言義昭卿〔弘〕大將軍義昭公、
覺定大僧正〔類・弘〕覺定大僧正〔統〕
前大僧正覺定、〔靜〕誕〔弘〕生、〔靜〕
後法音院関白〔弘〕鷹司後法音院関白、

寛永十六誕
高賢大僧正
宝永四十一六化

一致院左大臣教平公息、号宝地院、

元一賢、
後景暁院関白左大臣房輔公息、

〔四一ウ〕

〔類〕（以下未記載）、
高賢大僧正〔靜〕誕〔弘〕生〔靜〕一
致院左大臣〔弘〕鷹司一致院左大臣、
房演大僧正〔靜〕後景暁院関白左大臣
〔弘〕鷹司、
〔弘〕實演權僧正
〔弘〕高演准三后
〔弘〕勝演大僧都
〔弘〕定演大僧正

14 勸修寺御門跡

承俊律師

勸修寺者、醍醐天皇御願所、或記曰、延喜帝
母后贈皇太后宮胤子草創也、贈太政大臣
藤高藤公女、
勸修寺最初、

14 勸修寺御門跡〔靜〕延喜帝母后〔類〕
延喜帝母后〔弘〕醍醐帝后母、〔靜〕藤
高藤〔類・弘〕高藤、
承俊律師〔類・統〕（不記載）、
濟高大僧都〔類・弘〕濟高大僧都〔統〕
大僧都濟高、〔靜〕類、聖宝尊師資〔弘〕
聖宝弟子、〔靜〕延喜十八九任勸修寺
長吏〔類〕延喜十年八月九日任長吏、
〔靜〕五十一廿五〔統〕五年一月廿五日、

濟高 大僧都
天慶五十一廿五寂八十六

聖宝尊師資、延喜十八九
任勸修寺長吏、東寺長者、

貞譽 權律師
仁和三十廿二化

承俊律師資、天慶
七六廿一任長吏者一

遍覺 大法師

八條大將保忠息、

雅慶 大僧正
長和元十四五寂八十一

一品式部卿敦実親王男大系圖 敦実親王孫左京大夫

濟信 大僧正
長元三六十一寂七十一

寬朝僧正嗣法、
同男、

深覺 大僧正
長久四九十六寂八十九

寬忠僧正実、法務、号木幡僧正、
九條右大臣師輔公男、

信覺 大僧正
応徳元九十五入

覺源僧正資、又仁海受法、
閑院太政大臣公季公男、

嚴覺 大僧都

参議從三位御子宰相源基平男、

〔四二才〕

〔靜〕八十六〔統〕九十一歳〔弘〕八十六才、貞譽權律師〔類・弘〕貞譽權律師〔統〕律師貞譽、〔靜・類〕承俊律師資〔弘〕承俊入室之弟子、〔靜〕長吏〔弘〕勸修寺長吏、遍覺大法師〔弘〕遍覺大法印、〔類〕不記載、〔靜〕八條大將保忠息〔弘〕八條大將息、雅慶大僧正〔統〕大僧正雅慶、〔靜〕敦実親王〔類・弘〕敦実親王、〔靜・類〕男〔弘〕息、〔靜〕十四五寂〔類・弘〕十八廿五寂、〔靜〕八十一〔類〕八十一歳〔弘〕八十一才、濟信大僧正〔類・弘〕濟信大僧正〔統〕大僧正濟信、深覺大僧正〔類・弘〕深覺大僧正〔統〕大僧正深覺、〔靜〕寬忠僧正実〔類〕寬忠僧正實、〔靜・弘〕師輔〔類〕藤原師輔、〔靜・類〕男〔弘〕息、〔靜〕八十九〔弘〕八十九才、信覺大僧正〔類・弘〕信覺大僧正〔統〕大僧正信覺、〔靜〕又〔青〕文、〔靜・類〕男〔弘〕息、〔靜〕九〔青〕廿、〔靜〕入〔類〕寂七十四歳〔弘〕寂七十一才、嚴覺大僧都〔類・弘〕嚴覺大僧都〔統〕大僧正嚴覺、〔靜・類〕御子宰相〔弘〕〔念〕、〔靜・類〕男〔弘〕息、寬信大僧都〔統〕法印權大僧都寬信、〔靜〕藤為房〔類・弘〕為房、雅賢大僧都〔類〕雅實大僧都〔統〕法印大僧都雅實〔弘〕雅宝大僧都〔靜〕藤頭賴卿〔類〕藤頭賴〔弘〕藤原頭賴卿、

寬信大僧都

大藏御藤為房男、

雅實大僧都

權中納言藤頭賴卿男、

成實大僧正

顯密兼学人、
葉室別當入道惟方男、

聖基大僧正

号南谷僧正、
大覺寺左大臣藤隆忠公息、

道宝大僧正

法務、
八條左大臣藤良輔公息、

勝信大僧正

東寺長者、東大寺別當、
光明峯寺撰闕通家公息、

道淳大僧正

円明寺撰闕実經公息、

信忠大僧正

号若宮大僧正、
一音院撰闕忠家公息、

〔四二之〕

成實大僧正〔統〕大僧正成實〔弘〕成
宝大僧正、〔靜〕入道惟方〔弘〕藤原
惟方卿、〔類〕藤惟方、〔靜・類〕男〔弘〕
息、聖基大僧正〔統〕大僧正聖基、〔靜〕
藤隆忠公〔類〕藤隆忠〔弘〕隆忠公、
道宝大僧正〔類〕道實大僧正〔統〕大
僧正道實、〔靜〕藤良輔〔弘〕良輔、〔靜・
弘〕息〔類〕男、勝信大僧正〔統〕大
僧正勝信、〔靜〕光明峯寺撰闕通家
〔類〕光明峯寺攝政道家〔弘〕九条殿
光明峯寺闕白道宗、〔靜・弘〕息〔類〕
男、〔靜〕十四七入滅五十二、〔類〕十七
四寂、五十歳〔弘〕十四七寂五十二才、
道淳大僧正〔類〕道淳法印〔統〕大僧
正道淳、〔靜〕円明寺撰闕実經〔弘〕一
条圓明寺闕白實經、〔靜・弘〕息〔類〕
男、信忠大僧正〔統〕大僧正信忠、〔靜〕
号若宮大僧正〔弘〕号若宮僧正、〔靜〕
一音院撰闕〔弘〕九条殿闕白、〔靜・
弘〕息〔類〕男、教實大僧正〔統〕大
僧正教實、〔靜〕報恩院闕白〔弘〕九
条闕白、〔靜・弘〕息〔類〕男、寬胤
大僧正〔類〕弘寬胤法親王〔統〕二
品法親王寬胤、〔類〕弘皇子〔靜〕
〔なし〕、尊信大僧正〔類〕弘尊信法親
王〔統〕無品親王尊信、〔靜・類〕常
磐井親王恒明男〔弘〕常磐井一品親王
恒明息、〔靜〕龜山院孫〔類〕龜山法
皇御孫〔弘〕龜山法皇孫、〔靜・類〕後

教寬大僧正

報恩院闍白忠教公息、

寬胤法親王

二品、号後安祥寺殿、
後伏見院殿、

尊信法親王

無品、号後宝泉院殿、
常磐井親王恒明男、龜山院孫、後醍醐院御猶子、

興信法親王

無品、
崇光院皇子、

尊興准后

無品、彈正尹滿仁親王男、崇光院御猶子、

興胤權僧正

東大寺別當、
同男、尊興舍弟、

尊聖大僧正

南方玉川宮男、後醍醐院皇孫、
〔アヤマ〕

教尊權僧正

南方小倉宮男、後醍醐院五世孫、

〔四三才〕

醍醐院〔弘〕後醍帝、興信大僧正〔類・弘〕興信法親王〔統〕無品法親王興信、〔靜・類〕崇光院皇子〔弘〕崇光院第二皇子、尊興准后〔青〕高興准后〔類・弘〕尊興准三后〔統〕准三后尊興、〔靜・類〕無品彈正尹滿仁親王〔弘〕常磐井無品彈正尹滿仁親王、〔靜・類〕男〔統〕御子〔弘〕息、興胤權僧正〔類・弘〕興胤權僧正〔統〕權僧正興胤、〔靜・類〕同男〔弘〕同息、尊聖大僧正〔統〕大僧正尊聖、〔靜〕男〔弘〕息、〔靜〕皇孫〔類〕御彦〔弘〕曾孫、教尊權僧正〔類・弘〕教尊權僧正〔統〕權僧正教尊、〔靜〕男〔弘〕息、〔靜〕後醍醐院五世孫、恒弘法親王〔統〕無品法親王恒弘、〔靜・類・統〕直明王〔弘〕常磐井直明王、〔靜・類・統〕男〔弘〕息、〔靜〕崇光院御猶子〔類・弘〕後崇光院猶子〔統〕後崇光院御猶子、常信法親王〔統〕無品法親王常信、〔靜〕改寬円〔弘〕改覺圓、〔類〕後大通院〔類・弘〕伏見殿、〔靜〕男〔弘〕息、海覺法親王〔統〕無品法親王海覺、〔靜〕安養院〔類・弘〕伏見殿、〔靜・類〕男〔弘〕息、〔靜・弘〕御猶子〔類〕爲御子、寬欽法親王〔統〕無品法親王寬欽、〔靜〕妙莊嚴院〔弘〕同〔伏見殿〕妙莊嚴院、〔靜〕男〔弘〕息〔靜〕

恒 弘 法 親 王

無品、〔後〕
直明王男、崇光院御猶子、

常 信 法 親 王

無品、改寬田、
後大通院貞常親王男、後土御門院御猶子、

海 覺 法 親 王

無品、
安養院邦高親王男、後柏原院御猶子、

寬 欽 法 親 王

無品、
妙莊嚴院貞敦親王男、後奈良院御猶子、

聖 信 准 后

唯心院關白房通公息、

寬 海^{興才} 大 僧 正
万治二十三年化

寬 俊 權 大 僧 正
天和二十七八寂 三十五才

濟 深 法 親 王
元祿四十四年二月二十三日寂 三十一才

東寺長者、号後施無院殿
花山院左大臣定熙公息、自淨心院關白内基公猶子、
万治元九十二得度十、号後觀長院殿、
本源自性院關白信尋公息、

俗名寬清、東大寺別當、一品、
仙洞第一皇子、母小倉大納言実起卿女、

〔弘〕御猶子〔類〕爲御子、聖信准后〔類〕
弘〕聖信准三后〔統〕准三后聖信、〔靜〕
唯心院〔弘〕一条唯心院、〔靜〕類〕男
〔弘〕息、寬海大僧正〔統〕大僧正寬
海、〔靜〕号後施無院殿〔弘〕号後施
無院、〔靜〕自淨心院〔弘〕一条殿、〔靜〕
万治〔弘〕萬治、〔靜〕化〔弘〕寂、寬
俊權大僧正〔類〕寬俊〔統〕大僧正寬
俊〔弘〕寬俊大僧正、〔靜〕万治〔弘〕
萬治、〔靜〕得度十〔類〕出家、十一
歲〔弘〕得度十才、〔靜〕号後觀長院
殿〔弘〕号後觀長院、〔靜〕本源自性
院關白〔類〕近衛殿攝政關白〔弘〕近
衛殿關白、〔靜〕弘〕息〔類〕御子
〔類〕（以下未記載）
濟深法親王〔統〕二品法親王深濟〔弘〕
濟深法親王、〔靜〕仙洞第一皇子〔弘〕
法皇識仁第一宮、〔靜〕母小倉大納言
実起卿女〔弘〕母中納言典侍、前大納
言實起卿女、〔靜〕三十一才〔弘〕卅一
才、
尊孝法親王〔統〕無品法親王尊孝、
〔靜〕伏見〔弘〕伏見殿、〔靜〕御子〔弘〕
息、〔靜〕法皇御猶子〔弘〕靈元院爲
御養子、
〔弘〕寬宝法親王（有記事）、
〔弘〕濟範法親王（有記事）、

尊 孝 法 親 王

伏見邦永親王御子、法皇御猶子、

〔四三之〕

15 一 乘 院 御 門 跡

定 照 大 僧 都

〔昭 類從本〕
永觀元三廿一 寂

法務、号本願僧都、〔仁教 類從本〕任嚴僧都弟子、又兼眞言宗仁和寺寬空僧正受法灌頂弟子、為東寺四長者之始、

定 好 已 講

三綱、
義俊從儀師息、

真 範 大 僧 正

清水律師清範附法弟子、定照已講依附之弟子、播磨守平生昌息、京極大政大臣為光公為子、

賴 信 權 僧 正

法務、真範附屬弟子、
甲斐守藤原賴經息、

賴 尊 法 印

号康和僧正、賴信附屬弟子、
太宰大貳藤原実康息、

覺 信 大 僧 正

保安二三八板五十七

一乘院本願別當、賴信僧正資、
京極撰関大政大臣師実息、

15 一乘院御門跡〔類〕南都一乘院〔弘〕
法相宗一乘院御門跡

定照大僧都〔類・弘〕定昭大僧都、〔靜〕
任嚴僧都弟子〔類〕仁教僧都入室〔弘〕
任敬僧都弟子、〔靜〕又〔青〕久、〔靜・弘〕
寬空僧正受法灌頂弟子〔類〕受密灌寬空、〔靜・弘〕永觀元三廿一〔類〕
永觀元癸未三月二十一日、定好已講〔靜・弘〕義俊從儀師息〔類〕從儀師義俊子、真範大僧正〔類・弘〕真範大僧正、〔靜〕附法弟子〔類〕嗣法〔弘〕附法、〔靜〕定照已講〔類〕定昭已講〔弘〕定昭、〔靜〕依附之弟子〔類〕資〔弘〕依附之弟子也、〔靜〕息〔類・弘〕男、〔靜〕京極大政大臣為光公〔類〕京極祖法住寺太政大臣恒德公為光〔弘〕京極太政大臣為光公、〔靜〕為子〔類〕男〔弘〕猶子、賴信權僧正〔靜〕真範附屬弟子〔類〕真範僧正資〔弘〕真範附屬弟子、賴尊法印〔類・弘〕賴尊大僧都、〔靜〕賴信附屬弟子〔類〕賴信僧正資、〔靜〕実康〔青〕実口〔類〕弘實康、〔靜・弘〕息〔類〕男、覺信大僧正〔靜〕撰関大政大臣師実〔類〕攝政關白太政大臣師實〔弘〕撰政關白太政大臣師實、〔靜・弘〕息〔類〕男、〔靜〕保安二三八板五十七〔類〕保安二年二月八日寂五十七歲、玄覺大僧正〔類・弘〕玄覺大僧正、〔靜・弘〕号〔類〕

玄 覺 大 僧 正

号中僧正、覺信僧正資、
同息、

〔四四才〕

覺 英 少 僧 都

廻国、保元二二十七於奥州葛松原一才
後二條関白師通公息、

覺 繼 大 僧 正

改惠信、別當、牛車、玄覺附屬弟子、号伊豆僧正、
法性寺関白太政大臣忠通公息、

信 円 大 僧 正

号菩提山本願、大乘院兼帶、
同息、

良 圓 大 僧 正

後法性寺関白兼實公息、

實 信 大 僧 正

法務、別當、信円僧正資、良円・実尊兩僧正弟子、号発心
院僧正、又實川僧正、普賢寺関白基通公息、

実 静 少 僧 都

實信資、
猪隈撰関家実公息、

信 照 昭 大 僧 正

別當、実信資、
岡屋撰関兼經公息、

號、〔靜〕覺信〔青〕□信〔類〕覺信、
〔靜〕弘息〔類〕男、覺英少僧都〔靜〕
廻国〔弘〕回國、〔靜〕保元〔青〕□
□、〔靜〕類後二條〔弘〕後二條〔靜〕
弘〕関白〔類〕関白、〔靜〕弘息〔類〕
男、〔靜〕葛松原〔弘〕葛松原寂〔靜〕
葛〔青〕葛〔靜〕四十一才〔青〕□
十□才、覺繼大僧正〔類〕弘〕覺繼大
僧正、〔靜〕惠信〔類〕弘〕惠信、〔靜〕
別當〔類〕弘〕興福寺別當、〔靜〕玄
覺附屬弟子〔類〕玄覺僧正資、〔靜〕
弘〕関白〔類〕攝政関白、〔靜〕弘〕息
〔類〕男、信円大僧正〔類〕弘〕信円
大僧正、〔靜〕兼帶〔類〕兼帶〔弘〕兼
帶、〔靜〕弘〕息〔類〕男、良圓大僧
正〔靜〕後法性寺関白兼實〔類〕九條
殿後法性寺関白太政大臣兼實〔弘〕九
條殿後法性寺関白兼實、〔靜〕弘〕息
〔類〕男、實信大僧正〔靜〕別當〔弘〕
興福寺別當〔靜〕信円〔類〕信圓、〔靜〕
普賢寺関白〔類〕近衛殿普賢寺攝政関
白〔弘〕近衛殿普賢寺、〔靜〕弘〕息
〔類〕男、実静少僧都〔類〕弘〕實静
少僧都、〔靜〕實信資〔弘〕實信弘子
〔靜〕猪隈撰関家実〔類〕近衛殿猪隈
攝政関白太政大臣家實〔弘〕近衛殿猪
熊関白家實、〔靜〕弘〕息〔類〕男、信
照大僧正〔青〕類・弘〕信昭大僧正、
〔靜〕別當〔類〕弘〕興福寺別當、〔靜〕

隆信 禪師

一尊・信昭兩僧正弟子、
一音院撰関忠家公息、

覚恵 禪師

信昭弟子、
報恩院関白忠教公息、

〔四四ウ〕

覚昭 大僧正

別當、
深信院関白基平公息、

良信 大僧正

文保三七七十二寂五十二才

覚昭資、別當、号後発心院、
円光院関白基忠公息、

良覺 大僧正

法務、別當、牛車、号喜光寺、良信資、
浄妙寺関白家基公息、

信助 大僧正

得業イ
近衛撰関兼經公息、
〔浄妙寺関白家基公息〕

覚実 大僧正

法務、別當、
岡本関白家平公息、

玄円 法親王

後醍醐院第十三皇子、

岡屋撰関兼經〔類〕近衛殿岡屋攝政関
白太政大臣兼經〔弘〕近衛殿岡屋撰政
関白兼經、〔静・弘〕息〔類〕男、隆
信禪師〔類・弘〕隆信禪師、〔静〕一
尊・信昭兩僧正弟子〔類〕尊信僧正資
〔弘〕尊信・信昭兩僧正弟子〔静〕一
音院撰関忠家〔類〕九條殿一音院攝政
忠家〔弘〕九條殿一音院忠宗、〔静・
弘〕息〔類〕男、覚恵禪師〔類・弘〕
覚恵禪師、〔静〕報恩院関白忠教〔類〕
九條殿報恩院関白左大臣忠教〔弘〕同
報恩院関白忠教、〔静・弘〕息〔類〕男、
覚昭大僧正〔静〕別當〔類〕興福寺別
當、〔静〕深心院関白〔類〕近衛殿深
心院関白左大臣〔弘〕近衛殿深心院関
白、〔静・弘〕息〔類〕男、良信大僧
正〔静〕覚昭資〔類〕先師覚昭僧正資
〔静〕別當〔類・弘〕興福寺別當、〔静〕
号後発心院〔弘〕号後發心院、〔静〕円
光院関白〔類〕鷹司殿圓光院関白〔弘〕
鷹司殿圓光院関白、〔静・弘〕息〔類〕
男、良覺大僧正〔静〕別當〔類・弘〕
興福寺別當、〔静〕号喜光寺〔弘〕号
松超寺僧正、〔静〕浄妙寺関白〔類〕近
衛殿浄妙寺関白左大臣〔弘〕近衛殿浄
妙寺関白、〔静・弘〕息〔類〕男、信
助大僧正〔類〕信助得業〔弘〕信助禪
師、〔静〕別當〔類・弘〕興福寺別當、
〔静〕近衛撰関兼經公息〔類〕同〔近

実玄権少僧都

覚実資、
堀川関白経忠公息、

良玄大僧正

後普光園院撰政良基公息、イニ後醍醐院皇子南方中務親王息、

良昭大僧正

別當、法務、号後喜光寺、
後深心院関白道嗣公息、

玄昭得業

実賢弟子、
後六條撰政兼嗣公息、

良兼権僧正

号後松昇寺、
同息、

昭円大僧正

後一心院関白冬平公息、

教玄大僧正

法務、別當、
後照光院関白房平公息、

〔四五才〕

衛殿淨妙寺關白左大臣家基公) 男
〔弘〕同(近衛殿淨妙寺関白家基公)
息、覚実大僧正〔類・弘〕覚実大僧正、
〔静〕別當〔類・弘〕興福寺別當、〔静〕
岡本関白〔類〕近衛殿岡本関白〔弘〕
近衛殿岡本関白、〔静・弘〕息〔類〕男、
玄円法親王〔類・弘〕玄圓法親王、〔静・
類〕後醍醐院〔弘〕後醍醐帝、実玄権
少僧都〔類・弘〕實玄権少僧都、〔静〕
堀川関白〔類〕近衛殿堀川関白左大臣〔弘〕
近衛殿堀川関白、〔静・弘〕息〔類〕男、
良玄大僧正〔静〕後普光園院撰政〔類〕
二條殿攝政關白〔弘〕二條殿後普光園
院関白、〔静・弘〕息〔類〕男、〔静〕
後醍醐院〔弘〕後醍醐帝、良昭大僧正
〔静〕別當〔類・弘〕興福寺別當、〔静〕
法務〔青〕法口、〔静〕号後喜光寺〔類〕
後喜光寺〔弘〕喜光寺、〔静〕後深心
院関白〔類〕近衛殿後深心院関白左大
臣〔弘〕近衛殿後深心院関白、〔静〕
類〕道嗣〔弘〕通嗣、〔静・弘〕息〔類〕
男、玄昭得業〔静〕後六條撰政〔類〕
近衛殿後六條攝政右大臣〔弘〕近衛殿
後六條撰政右大臣、〔静・弘〕息〔類〕
男、良兼権僧正〔類〕良兼権僧正〔弘〕
良兼権僧正、〔静・弘〕号後松昇寺〔類〕
後松昇寺、〔静・弘〕息〔類〕男、昭
円大僧正〔類〕昭円大僧正〔弘〕昭圓
僧正、〔静〕後一心院関白〔類〕後一

信玄得業

同息、

良譽大僧正

法務、別當、
後法興院関白政家公息、

覺譽大僧正

法務、別當、良譽資、
後法成寺関白尚通公息、

覺慶得業

萬松院贈相国源義晴公息、還俗号義昭、

尊勢政イ大僧正

准三后、
東求院関白前久公息、

尊覺法親王

二品、別當、号明了院、
後陽成院皇子、母中和門院、

真敬法親王
宝永三七七寂五十七才

二品、別當、俗名常淳、賢イ明曆四大大九親王宣下、
後水尾院皇子、母新廣義門院園基音号三菩提院、
卿女、

尊昭法親王

宝永六三廿二親王宣下、チカ諱庶賢、同四十三得度、
仙洞皇子、母今城中納言定淳卿女、

〔四五ウ〕

〔四六ウ〕

心院右大臣〔弘〕鷹司殿後一心院右大臣、〔静〕冬平〔類・弘〕冬家、〔静・弘〕息〔類〕男、教玄大僧正〔弘〕教玄僧正、〔静〕別當〔類〕興福寺別當、〔静〕後照光院関白〔類〕鷹司殿後照光院関白左大臣〔弘〕鷹司殿後照光院関白〔静・弘〕息〔類〕男、信玄得業〔弘〕信言得業、〔静・弘〕息〔類〕男、良譽大僧正〔類・弘〕良譽大僧正、〔静〕別當〔類・弘〕興福寺別當、〔静〕後法興院関白〔類〕近衛殿後法興院太政大臣〔弘〕近衛殿後法興院関白、〔静・弘〕息〔類〕男、覺譽大僧正〔類・弘〕覺譽大僧正、〔静〕別當〔類・弘〕興福寺別當、〔静〕良譽資〔類〕良譽僧正資、〔静〕後法成寺関白〔類〕近衛殿後法成寺関白太政大臣〔弘〕近衛殿法成寺関白、〔静・弘〕息〔類〕男、覺慶得業〔静〕萬松院贈相国〔類・弘〕萬松院贈左大臣〔静・弘〕息〔類〕男、〔静〕還俗号義昭〔類〕還俗號義秋、改義昭、尊勢大僧正〔静〕東求院関白〔類〕近衛殿東求院入道前関白太政大臣〔弘〕近衛殿東求院入道前関白、〔静・弘〕息〔類〕男、尊覺法親王〔類・弘〕尊覺法親王、〔静〕別當〔類・弘〕興福寺別當、〔静〕皇子〔類・弘〕第十皇子、〔静〕母中和門院〔類〕母后〔以下三二頁へ続く〕

16 大乘院 御門跡

隆禪權大僧都
康和二十七四遷化六十三

大乘院本願、初祖、長谷寺・大安寺別當、左少將藤原政兼朝臣息、兼貞孫、母從三位濟政女、

賴実権少僧都

長谷寺別當、源氏、

尋範大僧正

法務、号内山、又号禪定院、興福寺・長谷寺別當、金峯山檢校、京極撰関師実公息、

信圓大僧正

法務、一乘院兼帶、法性寺関白忠通公息、母中納言源國信卿女、

実尊大僧正

法務、興福寺・長谷寺別當、金峯山檢校、号禪定院中僧正、松殿撰関基房公息、

圓實大僧正

法務、興福寺・長谷寺・橘寺別當、金峯山檢校、光明峯寺撰関通家公息、母太政大臣公經公女、
〔道〕

文永元十一廿六減七イ

実信大僧正

法務、興福寺別當、葛川住寺、一乘院兼帶、信円僧正資、普賢寺撰関基通公息、

16 大乘院御門跡〔類〕南都大乘院殿
〔統〕大乘院門跡〔弘〕法相宗大乘院御門跡

隆禪權大僧都〔類・弘〕隆禪權大僧都
〔統〕隆禪權大僧都、〔靜〕左少將藤原政兼〔青〕左少□□原□兼、〔靜・類〕統〕大乘院本願〔弘〕大乘院本願、〔靜・弘〕長谷寺・大安寺別當〔類〕長谷寺・又大安寺別當、〔靜〕左少將藤原政兼朝臣〔類〕左少將藤原政兼〔統〕從五位下左少將政兼〔弘〕左少將政兼〔靜・統〕息〔類・弘〕男、〔靜・類〕兼貞孫〔統〕堀川太政大臣兼通公孫〔弘〕兼貞孫、〔靜〕母從三位濟政女〔類・統〕母從三位濟政女〔弘〕母從三位濟政女〔靜〕康和二十七四遷化〔類〕康和二年七月十四日寂〔統〕康和二年七月十四日入滅〔弘〕康和二十七四寂〔靜・統〕六十三〔類〕六十三歲〔弘〕六十三才、賴実権少僧都〔類・弘〕賴実権少僧都〔統〕賴実権少僧都、〔靜〕賴実〔青〕賴実、尋範大僧正〔統〕尋範法務大僧正、〔靜・弘〕号内山〔類〕號内山僧正〔統〕圓山、〔靜〕京極撰関〔大類〕後宇治攝政〔統〕後宇多院關白太政大臣〔弘〕京極撰関白〔靜・統〕息〔類〕男、信圓大僧正〔統〕信圓法務大僧正、〔靜〕一乘院兼帶〔弘〕一乘院兼帶、〔靜・弘〕法性寺関白、

尊信大僧正

法務、号室峯寺、号菩提院、興福寺・長谷寺・菩提山別當、
円実僧正資、洞院撰関教実公息、

〔四七才〕

慈信大僧正

正元十二入滅

法務、号大善三昧院、興福寺・長谷寺・薬師寺別當、金峯
山檢校、尊信僧正資、円明寺撰関実經公息、

尋覺大僧正

文中二八廿七滅

法務、本名弘覺、興福寺・長谷寺・薬師寺・橘寺別當、金峯
山檢校、慈信僧正資、後光明峯寺撰政家経公息、

覺尋大僧正

法務、興福寺・長谷寺・薬師寺・橘寺別當、尋覺僧正資、
已心院撰関師教公息、

聖信権少僧都

慈信僧正資、嘉元二七十九配流隱岐国、
栖心院内大臣内実公息、

孝覺大僧正

法務、号已心院、興福寺・長谷寺・薬師寺・橘寺別當、
已心院撰関師教公息、後一音院関白房実公息、
美八 イ本 如此

教尋大僧都

〔尋、類従本〕

三縁院関白道教公息、

教信権少僧都

早世、長谷寺・橘寺別當、依衆徒訴配流、
後報恩院関白経教公息、実後照光院関白冬通公息、

〔静・類・統・弘〕忠通〔青〕忠道、〔静・
統・弘〕息〔類〕男、実尊大僧正〔類・
弘〕實尊大僧正〔統〕實尊法務大僧正、
〔静〕中僧正〔青〕口僧正、〔静〕松殿
撰関〔類〕松殿攝政関白太政大臣〔統〕
松殿攝政関白〔弘〕松殿撰政関白、
〔静・統・弘〕息〔類〕男、圓實大僧
正〔統〕圓實法務大僧正、〔静〕光明峯
寺撰関〔類〕光明峯寺攝政関白〔弘〕
光明寺撰政関白、〔静・弘〕通家〔類〕
道家〔静・弘〕息〔類〕男、〔静・弘〕
文永元十一廿六〔類〕文永九十一廿六
〔統〕文永九年十一月廿六日、〔静〕滅
〔類・弘〕寂〔統〕入滅、実信大僧正
〔青・類・弘〕實信大僧正〔統〕實信
法務大僧正、〔静〕普賢寺撰関〔類〕近
衛殿普賢寺攝政関白〔統〕近衛攝政関
白〔弘〕普賢寺撰政関白、〔静〕一乘
院兼帯〔弘〕一乘院兼帯、〔静〕葛川
住寺〔青〕葛川任寺、〔静〕僧正資〔青〕
僧口口、〔静・統・弘〕息〔類〕男、
尊信大僧正〔統〕尊信法務大僧正〔静〕
菩提院興福寺〔青〕菩提口口福寺、
〔静〕菩提山別當〔青〕菩提口口口口、
〔静〕僧正資〔青〕僧口資、〔静〕洞院
撰関〔類〕九條殿洞院攝政関白〔統〕
九條攝政関白〔弘〕洞院撰政関白、
〔静〕教実〔類・統・弘〕教實、〔静・
統・弘〕息〔類〕男、慈信大僧正〔統〕

孝 尋 大 僧 正

法務、興福寺・長谷寺・橘寺別當、
一心院經教公息イ閔白冬通公息、

孝 圓 大 僧 正

興福寺・長谷寺・薬師寺・橘寺別當、孝尋僧正資、
後報恩院閔白經教公息、

〔四七乙〕

經 覺 大 僧 正
大永六七寂廿八

興福寺長谷寺橘寺別當、号安位寺殿、
同息イ、慈眼院閔白政基公息、

尋 実

早世、
後一縁院閔白滿教公息、

尋 尊 大 僧 正

法務、
後成恩寺撰閔兼良公息、

政 覚 大 僧 正

大染金剛院閔白持通公息、

慈 尊

早世、
後妙花寺閔白冬良公息、

經 尋 大 僧 正

法務、
後慈眼院閔白尚經公息、
〔慈眼院閔白政基公息〕

慈信法務大僧正、〔静〕薬師寺〔青〕師口、〔静〕金峯山〔青山本〕口口山、〔静〕尊信〔青〕口信、〔静〕円明寺撰閔〔青〕口明寺撰閔〔類〕一條殿圓明寺攝政關白〔統〕一條攝政關白〔弘〕圓明寺撰政關白、〔静〕実經〔類・統〕實經〔弘〕基經、〔静・統・弘〕息〔類〕男、〔静・統〕入滅〔類・弘〕寂、尋覺大僧正〔類・弘〕尋覺大僧正〔統〕尋覺法務大僧正、〔静〕金峯山〔青〕口山、〔静〕後光明峯寺撰政〔類〕一條殿後光明峯寺攝政左大臣〔統〕一條攝政關白〔弘〕後光明寺撰政關白、〔静〕家経公息〔青山本〕家経口口、〔静・統・弘〕息〔類〕男、覺尊大僧正〔類〕覺尊大僧正〔統〕覺尊法務大僧正〔弘〕尋尊大僧正、〔静〕尋覺僧正資〔青〕尋覺僧正口、〔静〕已心院撰閔〔類〕九條殿淨土寺攝政關白〔統〕九條攝政關白左大臣〔弘〕九條殿淨土寺撰政關白、〔静・統・弘〕息〔類〕男、聖信權少僧都〔類・弘〕聖信權少僧都〔統〕聖信權少僧都、〔静〕栖心院内大臣〔青〕栖心院内大臣〔類〕一條殿栖心院内大臣〔統〕一條内府〔弘〕一條殿栖心院、〔静〕内実〔類・統・弘〕内實、〔静・統・弘〕息〔類〕男、孝覺大僧正〔類・弘〕孝覺大僧正〔統〕孝覺法務大僧正、〔静〕実ハ〔青〕〔なし〕、

尋 円 大 僧 正

法務、經尋僧正資、
同息、

尋 憲 大 僧 正

法務、
後大染金剛院闕白尹房公息、

義 尋

靈陽院大納言義昭卿息、還俗、号又山、後号法源院高山、

延宝四四三寂八十才
信 尊 大 僧 正

寺務三ヶ度、
後法音院闕白信房公息、

元禄二八十九化四十九才
信 雅 大 僧 正

寺務再任、改信雅、
一致院左大臣教平公息、

元禄十四五朔寂二十八
信 覺

寺務、
後景晔院闕白左大臣房輔公息、

隆 尊

寺務、元禄十五九十得度、
信覺弟、

〔四八之〕

〔静〕後一音院……〔青〕(なし)、〔静〕
後一音院闕白〔類〕九條殿後一音院闕
白左大臣〔統〕九條左府〔弘〕九条殿
後一音院闕白、〔静・統・弘〕息〔類〕
男、〔類・弘〕孝尊大僧都(有記事)〔統〕
孝尊大僧都(有記事)、教尊大僧都
〔統〕孝尊法務大僧正〔弘〕孝尊大僧正
〔静〕孝イ〔青〕〇イ、〔静〕三縁院
闕白〔類〕九條殿後三縁院闕白左大臣
〔統〕九條關白、教信權少僧都〔類〕孝
信權少僧都〔統〕孝信權少僧都〔弘〕孝
尊大僧正の後に、〔静〕後報恩院闕白
〔類〕九條殿後報恩院闕白左大臣〔統〕
九條關白左大臣、〔静〕冬通公息〔青〕
冬通〇〇、孝尊大僧正〔統〕孝尊法務
大僧正〔弘〕孝尊大僧都の後に、〔静・
弘〕一心院闕白〔類〕九條殿後報恩院
闕白左大臣〔統〕九條關白、〔静・弘〕
冬通〔類・統〕經教、孝圓大僧正〔統〕
孝圓大僧正、〔静・弘〕後報恩院闕白
〔統〕九條關白、經覺大僧正〔統〕經
覺大僧正、〔静〕号安位寺殿〔青〕〇安
位寺殿、〔類〕(不記載)、〔静〕慈眼院
闕白〔統〕九條關白左大臣專實〔統・
弘〕專實、〔類〕(不記載)、〔静〕後一
縁院闕白〔統〕九條關白右大臣專尊大
僧正〔統〕專尊法務大僧正、〔類〕(不
記載)、〔静〕後成恩寺撰闕〔統〕一條
禪闕、(以下三三二頁へ続く)

17 知恩院 御門跡

良純法親王
寛宝九八一化六十七

二品、寛永廿十一配流甲斐国、万治二六廿七帰洛、号以心庵、後陽成院第八皇子、母庭田重通卿女、

尊光法親王
延宝八正六化三十六

二品、号無量成三院、俗名良賢、承応三四六親王宣下、後水尾院皇子、母四辻季継卿女、明暦二五八得度、

尊統法親王

有栖川幸仁親王御子、仙洞猶子、又征夷大將軍右大臣細言公為猶子、宝永四丁亥三月廿九日親王宣下、
同六月十三日入室即日得度戒師方丈、
同六年六月十九日二品、正徳元五十八薨、号壽経光院

〔四九才〕

解題

このたび翻刻した『祠部職掌雜纂 諸門跡系譜』（静嘉堂文庫本・青山文庫本）の類本は多数あり、『国書総目録』にもその一端が示されている。今回は、それらの中でも、比較

的に参照しやすい群書類従所収『諸門跡譜』（類従本と略称）、および統群書類従所収の諸本、『天台正嫡梶井門跡略系譜』、『妙法院門跡次第』、『青蓮院門跡系譜』、『曼珠院門跡伝法師跡次第』、『日光山門跡次第』、『円満院門跡次第』、『仁和寺御室系譜』、『大覚寺門跡略記録』、『三

17知恩院御門跡〔弘〕浄土宗智恩院御門跡

良純法親王〔静〕万治〔弘〕萬治、〔静〕廿七帰洛〔青〕□□□洛〔弘〕廿七歸朝後還俗、〔静〕重通卿女〔青〕重通卿□〔弘〕重通女、

尊光法親王〔弘〕尊晃法親王、〔静〕皇子〔弘〕第十二皇子、〔静〕四辻〔弘〕四辻重相、〔静〕得度〔弘〕入室出家、尊統法親王〔青〕□統法親王、〔静〕御子〔弘〕息、〔静〕靈元院〔弘〕仙洞、

〔静〕御養子〔弘〕猶子、〔静〕四三廿九〔弘〕四丁亥三月廿九日、〔静〕親王宣下〔弘〕為親王、〔静〕同年六月十三日〔弘〕同六十三、〔静〕入室即日得度〔弘〕入室得度〔静〕同六年六月十九日〔弘〕宝永六十九、〔静〕薨

〔弘〕寂、
〔弘〕尊胤法親王（下略）、
〔弘〕尊峯法親王（下略）、
〔弘〕尊超法親王（下略）、

宝院列祖次第』、『勸修寺長吏次第』、『大乘院門跡次第』など（一括して続類従本と略称）を、さらに弘化二年版『門跡傳』乾・坤（弘化本と略称）を用いて、本文の表記を検討した。まず、静嘉堂文庫本と青山文庫本の関係である。両者は、その体裁はやや異なり、静嘉堂文庫本は比較的良好的な状態で保存され、縦二六・五センチ、横一九・七センチ、墨付四九丁である。これに対し、青山文庫本はなほだ虫損を被っており、縦二七・一センチ、横一九・八センチ、墨付四八丁で、朱筆は見られない。しかし静嘉堂文庫本が内表紙を有するのには、青山文庫本は無いのが異なる点で、本文は字配りも含めて、すべてほぼ同一である。虫損で不明な箇所を除く典型的な異同箇所は、次の通りである（漢字の新旧異同は省く）。○×は、青山本が正しい、または誤りであることを示す。ただちに判定しかねたのは、○×を付していない。

1 梶井門跡	恒雲法親王	誠興寺	青山文庫本
2 妙法院門跡	勝範大僧正	院立	城興寺
4 曼珠院門跡	公證権僧都	僧正イ	院主 ○
	道教法印	僧正イ	(なし)
	慈昭権僧正	大イ	(なし)
	覚恕准后	刑部卿	別部卿 ×
7 円満院門跡	康濟律師	寛平	寛年 ×
	円浄大僧正	静イ	(なし)

9 実相院門跡	勸修大僧正	被門徒	彼門徒
	吉倉寺	等身	尊身 ×
10 仁和寺門跡	寛空僧正	内別人	内州人
	承道	木寺	本寺 ×
11 大覚寺門跡	恒寂親王	滅	寂
12 隨心院門跡	栄嚴大僧正	権イ	(なし)
13 三宝院門跡	觀理権律師	廿	五 ×
14 勸修寺門跡	定賢阿闍梨	座主	座 ×
	信覚大僧正	又	文 ×
		九	廿 ×
15 一乘院門跡	定照大僧都	又	久 ×
	覺英少僧都	葛	菖 ×
	信照大僧正	照	昭
16 大乘院門跡	孝覚大僧正	実ハ	(なし)

後一音院……(なし)

書入部分で青山本に見られない箇所を書写後に記されたものと見れば、静嘉堂文庫本そのもの、または共通の母本をもとに青山文庫本が作成されたと推定したい。多くの箇所に見られるのは、筆写が機械的に行われたせいか。また筆癖の誤りもあろう。一部に静嘉堂文庫本のミスを改めた箇所もある。

つぎに上記諸本の内、本文が比較的近似しているのは、後年に作成されたと考えられる弘化本である。これを説明す

る前に、諸本の記事の最新紀年記事を示して、それぞれの最終作成年次を推定するがかりを示しておく(ただし、末尾の人物の記事とは限らない)。まず『祠部職掌雜纂 諸門跡系譜』(静嘉堂文庫本・青山文庫本)である。

- | | | | |
|----|--------|-------|---------------|
| 1 | 梶井門跡 | 道仁法親王 | 宝永六年三月廿二日座主 |
| 2 | 妙法院門跡 | 堯延法親王 | 享保三年十一月十一日叙一品 |
| 3 | 青蓮院門跡 | 尊祐法親王 | 正徳四年十月八日座主 |
| 4 | 曼珠院門跡 | 尊祐法親王 | 宝永五年六月二三日遷化 |
| 5 | 毘沙門堂門跡 | 公海准后 | 元禄八年十月十六日寂 |
| 6 | 日光門跡 | 公寛法親王 | 享保三年七月二日牛車宣下 |
| | | (寛尊) | |
| 7 | 円満院門跡 | 覚尊法親王 | 正徳四年二月朔日関東下向 |
| 8 | 聖護院門跡 | 道承法親王 | 正徳四年七月八日薨 |
| 9 | 実相院門跡 | 義延法親王 | 宝永二年十月十九日逝 |
| 10 | 仁和寺門跡 | 覚寛法親王 | 宝永四年九月十日寂 |
| 11 | 大覚寺門跡 | 性應法親王 | 正徳二年八月十五日寂 |
| 12 | 随心院門跡 | 俊海大僧正 | 天和二年五月廿六日寂 |
| 13 | 三宝院門跡 | 高賢大僧正 | 宝永四年十一月六日化 |
| 14 | 勧修寺門跡 | 済深法親王 | 元禄十四年十二月二日寂 |

- | | | | |
|----|-------|-------|-------------|
| 15 | 一乘院門跡 | 尊昭法親王 | 宝永六年四月十三日得度 |
| 16 | 大乘院門跡 | 隆尊 | 元禄十五年九月十日得度 |
| 17 | 知恩院門跡 | 尊統法親王 | 正徳元年五月十八日薨 |
- したがって、2妙法院門跡の享保三(一七一八)年十一月十一日記事が最新となる。翌年に吉宗の將軍就任に伴い、門跡の判物・朱印改めが行われているので、本書の成立は、同じ頃に幕府へ届出られ、編集されたものではないかと推定しておく。

次に群書類従所収『諸門跡譜』(類従本)では、以下の通りである。

- | | | | |
|----|------|---------|--------------|
| 10 | 仁和寺殿 | 承法法親王 | 明暦三年二月廿六日灌頂 |
| 3 | 青蓮院殿 | 尊純法親王 | 承応二年五月廿六日寂 |
| 12 | 随心院 | 增孝大僧正 | 正保元年七月廿一日寂 |
| | | (義尋准三后) | 延徳三年正月七日薨 |
| | | (行尊大僧正) | 保延元年二月九日寂 |
| | | (良快大僧正) | 仁治二年十二月十七日入寂 |
| | 法住寺 | 增珍大僧正 | |
| | 安祥寺 | 光意権僧正 | 明応八年九月十日寂 |
| | 妙香院 | (慈実大僧正) | 正安二年五月九日寂 |
| | 禅林寺 | (永観律師) | 天永二年十一月二日寂 |

10 仁和寺御室 濟仁法親王 ^{〔七八〇〕} 文化七年十二月二日

11 大覺寺門跡 信性 ^{〔七三四〕} 叙一品 ^{〔七三四〕} 享保十九年二月九日入室
得度

13 三宝院 前大僧正覺定 ^{〔六三三〕} 寛永十二年十二月廿一日
転任

14 勸修寺 32 尊孝法親王 ^{〔七二五〕} 享保十年十一月十五日補
別当

*〔奥書〕 享保庚戌年中秋十六日
書写校合

したがって、最新の紀年記事は1 梶井門跡の文化十三（一八一六）年十二月廿四日となるが、各書物の収写時期は元禄期または直後、享保期、文化期と大別できよう。それぞれの来歴を調査する時間がないので、詳細は後考に譲る。最後に弘化二（一八四五）年版『門跡傳』乾・坤（弘化本）では、以下の通りである。

6 日光御門跡 公紹法親王 ^{〔八三〇〕} 文政十三年六月二日下向
関東

3 青蓮院門跡 浩宮 ^{〔八四三〕} 天保十四年六月十七日薨

4 曼珠院門跡 讓仁法親王 ^{〔八四二〕} 天保十三年七月廿九日寂

1 梶井門跡 承眞法親王 ^{〔八四一〕} 天保十二年正月十四日寂

8 聖護院門跡 ^{〔八三〇〕}（盈仁准三后 文政十三年十一月廿三日寂）

7 圓満院門跡 雄仁法親王 ^{〔七三二〕}（學尊法親王 正徳三年十二月十八日移

9 實相院門跡 覺淳親王 ^{〔八三三〕} 棟君 ^{〔八三三〕} 于東武）
天保三年三月十一日寂）

照高院門跡 道尊法親王 ^{〔七〇三〕} 元禄十六年二月廿九日隱居
5 毘沙門堂門跡 公尊法親王 ^{〔七三四〕} 享保十九年四月廿六日為付
弟

10 仁和寺門跡 濟仁法親王 ^{〔八〇四〕} 文化七年十二月二日叙一品

11 大覺寺門跡 慈性法親王 ^{〔八三三〕} 文政五年十二月五日入室得
度

14 勸修寺門跡 濟範法親王 ^{〔八二四〕} 文政七年五月二日得度

13 三寶院門跡 定演大僧正 ^{〔八七二〕} 文政十年四月七日大僧正

12 隨心院門跡 增護大僧正 ^{〔八五五〕} 安政二年八月東寺一長者法
務

安井門跡 了尊權僧正 ^{〔八二二〕} 文政四年正月廿三日寂

15 一乘院門跡 尊應法親王 ^{〔八四一〕} 天保九年閏四月廿三日得度

16 大乘院門跡 隆温大僧正 ^{〔八三五〕} 天保六年三月八日大僧正

17 智恩院門跡 尊超法親王 ^{〔一八三五〕} 天保八年十一月廿二日牛車

宣下

したがって、最新の紀年記事は12隨心院門跡の安政二(一八五五)年八月記事である。

順序は別として、照高院門跡・安井門跡を除いて、『諸門跡系譜』の1梶井門跡から17智恩院門跡がすべて収められており、類従本、あるいは統類従本の諸本より、内容的にも弘化二年版『門跡傳』(弘化本)が『諸門跡系譜』に近い。弘化本の母本が本書『諸門跡系譜』の母本に近いもので、幕府ルートから得られたものか見たい。

弘化本は、類従本より詳しい統類従本系の原本に基づくデータを元にした記事も見られ、本書『諸門跡系譜』に比較的近い本に基づき、本文を整理している。細字部分を印刷しやすくするため、文字の大きさはほぼ本文の他の文字と同じにしながら、行の右あるいは左に寄せて、原文が細字であることをうかがわせるにとどめ、見易くしている。弘化本は、前版とともに大いに普及したらしいことは、『国書総目録』の記事によっても明らかであろう。

寺社奉行記録としての本書は『祠部職掌雜纂』の編集時、あるいは資料収集時にあって最も整っていた本の一つと見て、『祠部職掌類聚・雜纂』の諸本と矛盾しない。

(橋本 久)

〔仁和寺御門跡二九八頁より続く〕

靜覚法親王〔類・統・弘〕靜覺准三后〔静〕法深改弘覺、又靜覺〔統・弘〕本名法深〔静〕上乘院〔統〕號上乘院〔弘〕号上乘院、〔静〕邦康親王〔統・弘〕木寺殿邦康親王、〔静〕御子〔類〕男〔統・弘〕息、
尊海大僧正〔類〕〔不記載〕、〔静〕相国〔青〕相國、〔静〕元尋守〔統・弘〕本名尋守〔静〕東久世相國通傳〔統・弘〕東久世相國通傳、
覺道法親王〔類・統〕覺道法親王、〔静〕大申〔青〕大甲、〔静〕後禪阿院〔統・弘〕後禪阿院御室、〔静〕御子〔統・弘〕第二皇子、
道永法親王〔類〕〔不記載〕、〔静〕後大通院貞常親王御子〔弘〕貞常親王息、後大通院孫〔統〕眞常親王息、後大通院孫、
任助法親王〔静〕嚴鳴御室〔統〕嚴鳴御室〔弘〕嚴島、〔静〕妙莊嚴院貞教親王御子〔統・弘〕伏見殿貞教親王息、〔静〕寂〔統・弘〕寂六十六才、
守理法親王〔統・弘〕宮 守理〔類〕〔不記載〕、〔静〕後安養院邦輔親王御子〔統・弘〕伏見邦輔親王息、
覺深法親王〔類・統〕覺深法親王〔静〕母中山大納言親綱卿女親子

〔統・弘〕母大典侍、中山大納言親綱卿女、〔静〕正保五閏正廿一寂六十一

〔統〕正保五閏正廿一寂六十一才、
〔弘〕正保五壬正廿一寂六十一才、
性承法親王〔類〕承法法親王〔静〕後大御堂〔統・弘〕後大御室、〔静〕俗名周敦〔統・弘〕本名承法、〔静〕後水尾院皇子〔類〕院御所第九皇子
〔統・弘〕後水尾院第六皇子、〔静〕統〕母帥局、水無瀬中納言氏成卿女
〔類〕母后水無瀬中納言氏成卿女
〔弘〕母局、水無瀬中納言氏成卿女
〔静〕延宝六二廿九化四十二〔弘〕延宝六二廿九寂四十二才、
〔類〕以下未記載)、
覺寛法親王〔統・弘〕寛隆法親王
〔静〕俗名師永、改寛助、又改寛隆
〔弘〕本名覺寛〔静〕仙洞第二皇子
〔弘〕法皇第二皇子、〔静〕母愛宕通福御女源内侍〔弘〕母源内侍、愛宕大納言通福御女、〔静〕天和三八三三〔弘〕天和二八三三、〔静〕宝永四九月十日寂三十五才〔弘〕宝永四九十六寂三十六才、
〔統・弘〕守忍法親王 下略)、
〔統・弘〕慈仁法親王 下略)、
〔統・弘〕遵仁法親王 下略)、
〔統・弘〕覺仁法親王 下略)、
〔統・弘〕深仁法親王 下略)、

〔統・弘〕濟仁法親王（下略）、

〔大覺寺御門跡三〇一頁より続く〕

深守法親王〔統・弘〕（恒性法親王の後に）、〔統〕深守親王（恒勝親王の後に）、〔静・弘〕益助資〔類・統〕益助親王資、〔静・弘〕益性弟子〔類〕益性親王弟〔統〕益性親王弟子、〔静〕男〔類・弘〕息〔統〕第三子〔静・類・弘〕孫〔統〕皇孫、弘覺法親王〔類・統〕弘覺法親王〔統〕弘覺親王（寛教親王の後に）、〔静〕大金剛院宮〔弘〕号大金剛院、〔静・類・弘〕同親王〔統〕邦良親王、〔静・統〕男〔類・弘〕息、〔静〕深寛〔類・統〕弘俊覺、〔統〕寛教法親王（有記事）〔統〕寛教親王（深守親王の後に）（有記事）、恒性〔統〕（性勝法親王の後に）〔弘〕恒性法親王（性勝法親王の後に）、〔静・類・統〕越中宮〔弘〕号越中宮、〔静・類・統〕後醍醐院〔弘〕後醍醐帝、〔静・類・統〕弘皇子〔統〕第十皇子、性守大僧正〔統〕准三宮性守、〔類〕義昭大僧正の後に）〔統・弘〕（性深大僧正の後に）、〔静〕如法壽院関白〔類〕二條如法壽院関白左大臣〔弘〕

二条殿如法壽院関白左大臣、義俊大僧正〔統〕義俊准三后〔統〕准三宮義俊、〔類・統・弘〕（性守大僧正の後に）、〔静〕元禪意〔類〕本名禪意、〔静〕性守大僧正資〔類〕性守僧正資〔統〕性守准三后資、〔静〕後法成寺関白〔類〕近衛殿後法成寺太政大臣〔統〕近衛後法成寺太政大臣、〔弘〕近衛殿後法成寺太政大臣、〔静〕相國実淳〔青〕相國実淳〔類・統〕相國実淳、〔義昭大僧正〕統〕准三位宮義昭、弘覺親王の後に）〔弘〕（道寛法親王の後に）、〔静〕准三后〔類・弘〕准三后、〔静・弘〕鹿苑院太政大臣〔類〕鹿苑院〔統〕鹿苑院相國源、〔静・類・統〕男〔弘〕息、性深大僧正〔統〕准三宮性深、〔静〕後照光院関白〔類〕鷹司殿関白左大臣〔統〕鷹司関白左大臣、〔静・類・弘〕息〔統〕男、〔統〕准三宮尊信〔准三宮義俊の後に）（有記事）〔弘〕尊信准三后（有記事）、空性法親王〔統〕二品親王空性、〔静・類・統〕還俗〔弘〕退俗、〔静〕号瑞庵〔類〕號瑞庵〔統〕瑞庵、〔弘〕号隨庵、〔静〕号後天王寺殿〔類〕後天王寺殿〔統〕號後天王寺〔弘〕号後天王寺、〔静・類〕

御子〔統・弘〕第二皇子、〔静〕母新上東門院晴子〔類〕母后新上東門院、勤修寺内大臣晴秀公女〔統〕新上東門院、勤修寺内大臣晴秀公女〔弘〕母后新上東門院、晴秀公女、〔静〕慶安三八廿五薨〔類〕慶安三庚寅八月廿九日薨〔弘〕慶安三八廿五薨、〔静〕七八人〔類・統〕七十八歳〔弘〕七十八才、尊性法親王〔統〕二品親王尊性、〔静・弘〕俗名每敦〔統〕諱每敦、〔静・弘〕号佛母心寺〔類・統〕號佛母心寺、〔静・類・弘〕皇子〔統〕第五皇子、〔静〕母大典侍耀子、入道大納言輝資卿女〔類〕母后大典侍耀子、入道大納言藤原輝資卿女〔統〕母藤原典侍耀子、日野入道大納言輝資卿女〔弘〕母入道大納言輝資女、大典侍耀子、〔静〕慶安四三廿二薨〔類〕慶安四辛卯三月廿二日薨〔弘〕慶安四辛卯三月廿二日薨、〔弘〕慶安四三廿二薨、〔静〕五十〔類〕五十歳〔統〕五十歳〔弘〕五十才、性真法親王〔統〕二品親王性真、〔類・統〕性真法親王、〔静〕俗名真敦〔統〕諱真敦〔弘〕俗名真敦、〔静〕号金剛心院〔統〕號金剛心院、〔静〕後水尾院皇子〔類〕上皇御子〔統〕後水尾院第八皇子

〔弘〕後水尾院第四皇子、〔静〕母櫛笥隆忠朝臣女〔類〕母后櫛笥殿女、御匣殿〔統〕母逢春門院、四條贈左大臣隆致公女〔弘〕母逢春門院女、〔静〕元禄九正五寂〔統〕元禄九丙子正月四日薨〔弘〕元禄九正五寂、〔静〕五十八〔統〕五十八歳〔弘〕五十八才、〔類〕（以下未記載）、性應法親王〔統〕二品親王性應、〔静〕俗名寛敦〔統〕諱寛敦、〔静〕元禄十三八廿一〔統〕元禄十四年八月廿一日〔弘〕元禄十三八廿一〔静・統〕親王宣下〔弘〕為親王、〔静〕宝永六五十二〔統〕寶永六年己丑五月十二日〔弘〕〔静〕二品〔統〕二品宣下〔弘〕叙二品、〔静〕仙洞皇子〔統〕仙洞第九皇子〔弘〕法皇識仁第十皇子、〔静〕母五條大納言為庸卿女〔統〕母菅中納言局、五條大納言為庸卿女〔弘〕母五條為庸女、〔静〕後佛母心院〔統・弘〕號後佛母心寺、〔静・弘〕正徳二八十五寂〔統〕正徳二年八月十五日薨〔静〕二十三〔統〕二十三歳〔弘〕二十五才、〔統〕寛守（有記事）〔統〕大僧正寛守有記事〔弘〕寛守法親王（有記事）、

〔弘〕 信性大僧正 (有記事)、
〔弘〕 寬深大僧正 (有記事)、
〔弘〕 深貞大僧正 (有記事)、
〔弘〕 亮性大僧正 (有記事)、
〔弘〕 慈性法親王 (有記事)、

(一乘院御門跡三二〇頁より続く)
中和門院、入道前關白太政大臣前
久公女〔弘〕中和門院、前久公女、
〔靜〕五十四〔弘〕五十四才、真敬法
親王〔類・弘〕信敬法親王、〔靜〕後
水尾院皇子〔類〕上皇御子〔弘〕後
水尾院第十二皇子、〔靜〕母新廣義
門院圓基音卿女〔類〕母新中納言局、
園權大納言基音卿女〔弘〕母園基香
卿女、新中納言典侍、
〔類〕(以下未記載)、
尊昭法親王〔靜〕同四十三得度〔弘〕
同四廿四出家、〔靜〕仙洞皇子〔弘〕
法皇誠仁第十三皇子、〔靜〕母今城
中納言定淳卿女〔弘〕母藤式部卿
局、今城中納言定淳卿女、
〔弘〕尊快法親王 (有記事)、
〔弘〕龜代宮 (有記事)、
〔弘〕尊誠法親王 (有記事)、
〔弘〕尊常法親王 (有記事)、
〔弘〕尊應法親王 (有記事)、

(大乘院御門跡三二四頁より続く)
政覺大僧正〔統〕政覺大僧正〔弘〕
政覺大僧正、〔類〕(不記載)、〔靜〕
大染金剛院閔白、
慈尊〔類〕(不記載)、〔靜〕後妙花
寺閔白〔統〕關白太政大臣、
經尋大僧正〔統〕經尋法務大僧正、
〔靜〕後慈眼院閔白〔類〕九條殿慈
眼院關白左大臣、
尋円大僧正〔統〕尋圓法務大僧正
〔類・弘〕尋圓少僧都〔類〕九條殿
後慈眼院關白左大臣、
〔類〕(以下未記載)、

尋憲大僧正〔統〕尋憲法務大僧正、
〔靜〕後大染金剛院閔白〔統〕二條
關白太政大臣、
義尋〔弘〕義尋大僧正、〔靜〕靈陽
院大納言義昭卿〔書〕靈陽院口納言
義昭卿〔統〕征夷將軍准三后室町殿
義照公〔靜〕法源院高山〔書〕法口
口口口、
信尊大僧正〔統〕信尋前大僧正、〔靜〕
後法音院閔白
信雅大僧正〔統〕信雅權僧正、〔靜〕
一致院左大臣〔統〕鷹司左府、
〔統〕(以下未記載)
信覺〔弘〕信覺大僧正、〔靜〕後景
皓院閔白左大臣
隆尊〔弘〕隆尊大僧正、

〔弘〕 隆暹大僧正 (有記事)、
〔弘〕 隆範大僧正 (有記事)、
〔弘〕 隆實大僧正 (有記事)、
〔弘〕 隆温大僧正 (有記事)、